

長野県埋蔵文化財発掘調査要覧

その 1

(昭和25年度～昭和40年度)

1971.3

N

長野県教育委員会

ま え が き

長野県における埋蔵文化財包蔵地は非常に多く、その数は全国でも屈指の中に入る。このように研究対象が豊かな上に、県下における考古学研究の歴史は古く、その長い伝統につちかわれ現在も多くの研究者が活躍し、日本考古学界に大きく貢献している。これが研究の一端である発掘調査も全県に亘り、文化財保護法制定以来の発掘調査の累数は全国一であるといわれている。

発掘調査は、発掘主体者、発掘担当者が誰であれ、また、その目的が学術的調査にしろ、開発のための記録保存の調査にしろ、その面積がどうであっても、いったん発掘すればそれはすべて破壊である。その上、埋蔵文化財の存在は研究者のためにあるものではなく、国民のためにあるもので、そのためにも、調査結果はすみやかに、より正確に報告されるべきであろう。

今日、文化財保護法の制定により、発掘調査は届出制となり、ある程度規制されているが、開発の異常な進展にともなう記録保存の発掘調査が年々増加し、その報告も遅れがちである。幸い県下は発表する機関に恵まれているので、他県に較べると数多くの報告が見られるが、すべてのものが報告されているわけではない。

本書は、昭和 25 年以後県教育委員会を經由して届出られて実施された発掘調査の報告書等の関係資料をもとにして冊子にとりまとめたものである。

本書が地域文化の解明の一端をにない、できるだけ広く利用されることを期待する。

昭和 46 年 3 月 30 日

長野県教育委員会教育長

伊 沢 集 治

目 次

まえがき

I 長野県の遺跡分布	1
II 発掘調査の状況	9
III 遺跡の調査概要	11
1) 昭和25年度 (1 ~ 15)	11
2) 昭和26年度 (16 ~ 48)	14
3) 昭和27年度 (49 ~ 75)	23
4) 昭和28年度 (76 ~ 95)	30
5) 昭和29年度 (96 ~ 109)	35
6) 昭和30年度 (110 ~ 118)	38
7) 昭和31年度 (119 ~ 130)	41
8) 昭和32年度 (131 ~ 143)	44
9) 昭和33年度 (144 ~ 161)	49
10) 昭和34年度 (162 ~ 184)	54
11) 昭和35年度 (185 ~ 204)	63
12) 昭和36年度 (205 ~ 227)	68
13) 昭和37年度 (228 ~ 249)	74
14) 昭和38年度 (250 ~ 286)	80
15) 昭和39年度 (287 ~ 328)	90
16) 昭和40年度 (329 ~ 372)	102
IV 遺跡発見届一覧 (1 ~ 96)	113
V 長野県考古学文献目録	121

図 版 目 次

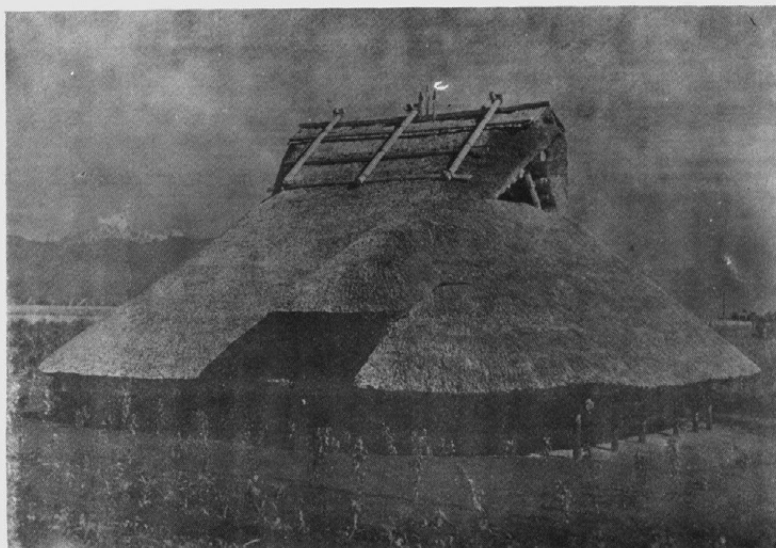
- 第 1 図 塩尻・平出遺跡
- 第 2 図 茅野・与助尾根遺跡
- 第 3 図 富士見・井戸尻遺跡
- 第 4 図 川上・大深山遺跡
- 第 5 図 塩尻・柴宮発見銅鐸

挿 図 目 次

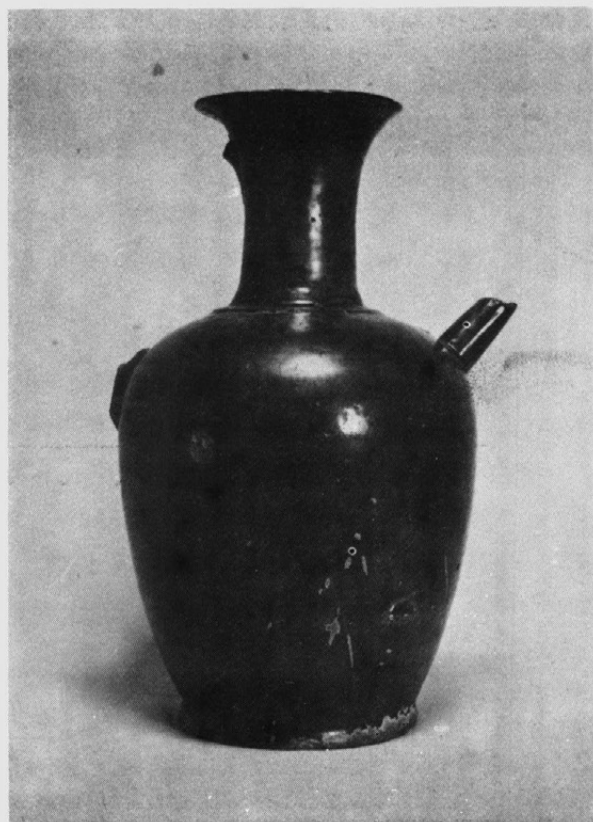
第 1 図	林里遺跡出土遠賀川系弥生式土器	12
第 2 図	山田遺跡 2号(上) 6号(下)住居址	14
第 3 図	白塚 1号古墳石室実測図	16
第 4 図	徳久利遺跡 11号(右) 13号(左)住居址	19
第 5 図	神の木遺跡住居址実測図	25
第 6 図	神の木遺跡出土土器	26
第 7 図	広原遺跡住居址	28
第 8 図	新道遺跡出土土器	32
第 9 図	大深山遺跡出土香炉形土器(上、正面) (下、裏面)	33
第 10 図	矢出川北遺跡	36
第 11 図	堂の入遺跡住居址	38
第 12 図	岡屋遺跡復元住居	40
第 13 図	中越遺跡出土中越Ⅰ式土器	42
第 14 図	鍬塚 1・2号古墳出土遺物(石釧、貝釧、1号墳出土、帯金具、2号墳出土)	45
第 15 図	南大原遺跡 V字溝実測図	46
第 16 図	横倉遺跡出土尖頭器	47
第 17 図	井戸尻遺跡復元住居	48
第 18 図	山寺遺跡住居址	48
第 19 図	赤岩神宮寺下遺跡住居址	49
第 20 図	小坂遺跡、石器出土状態	50
第 21 図	間山石動下遺跡鉄製品出土状態	51
第 22 図	神子柴遺跡出土尖頭器、丸鑿形石斧	52
第 23 図	諏訪湖曾根遺跡	53
第 24 図	野尻湖狐久保遺跡	54
第 25 図	旧御射山遺跡	55
第 26 図	長峯遺跡出土遺物	57
第 27 図	佐野遺跡(上) 炉址、(下) 埋設土器	59
第 28 図	曾利遺跡出土パン状炭化物	61

第 29 図	曾利遺跡出土土器	62
第 30 図	阿島遺跡出土壺形土器	66
第 31 図	大花遺跡出土土製耳飾	66
第 32 図	駒形遺跡 (上)住居址 (下)出土土器	67
第 33 図	管沢遺跡住居址	70
第 34 図	藤内遺跡特殊遺構出土有孔鍔付土器	72
第 35 図	御小屋久保遺跡	75
第 36 図	安坂將軍塚古墳(上) 1号古墳 (下)石室内遺物配列状態	77
第 37 図	上田国分寺址古瓦出土状態	78
第 38 図	石小屋洞穴出土土器	82
第 39 図	戸隠廃寺、講堂址	83
第 40 図	新切遺跡出土土偶	85
第 41 図	葦原遺跡敷石住居址	87
第 42 図	鼻屋敷遺跡住居址	88
第 43 図	染屋窯址	88
第 44 図	埴原牧監庁址	95
第 45 図	大畑遺跡 8号、9号住居址	96
第 46 図	郷土遺跡 (上)敷石住居址 (下)墓塚	100
第 47 図	須多ヶ峯遺跡 1号墓塚	104
第 48 図	長縄手遺跡 (上)住居址 (下)土器出土状態	106
第 49 図	城の平遺跡 1号竪穴	107
第 50 図	御殿場遺跡、人面付香炉形土器出土状態	110
第 51 図	長野市安茂里所在古墳出土獣文鏡	118

第1図 塩尻平出遺跡

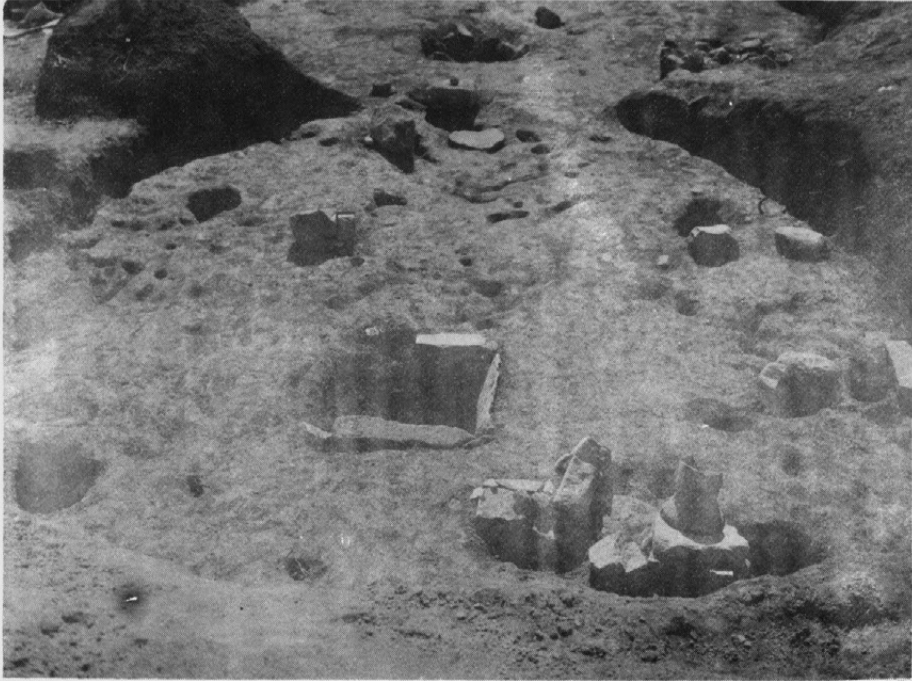


土師期復元



上 土師期復元住居（第3号址）
下 緑釉水瓶

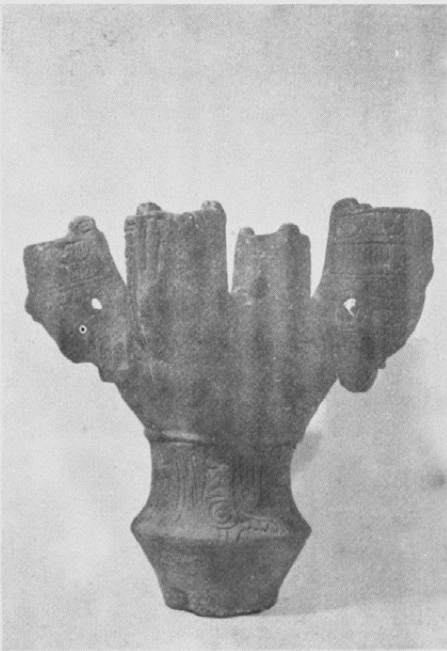
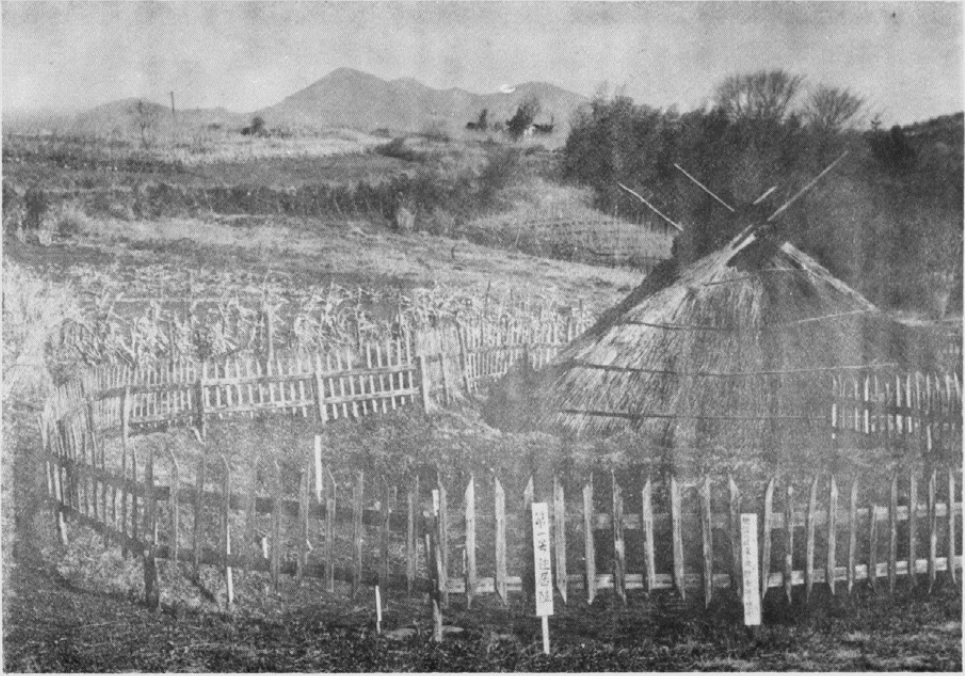
第2図 茅野与助尾根遺跡



上 第15号址

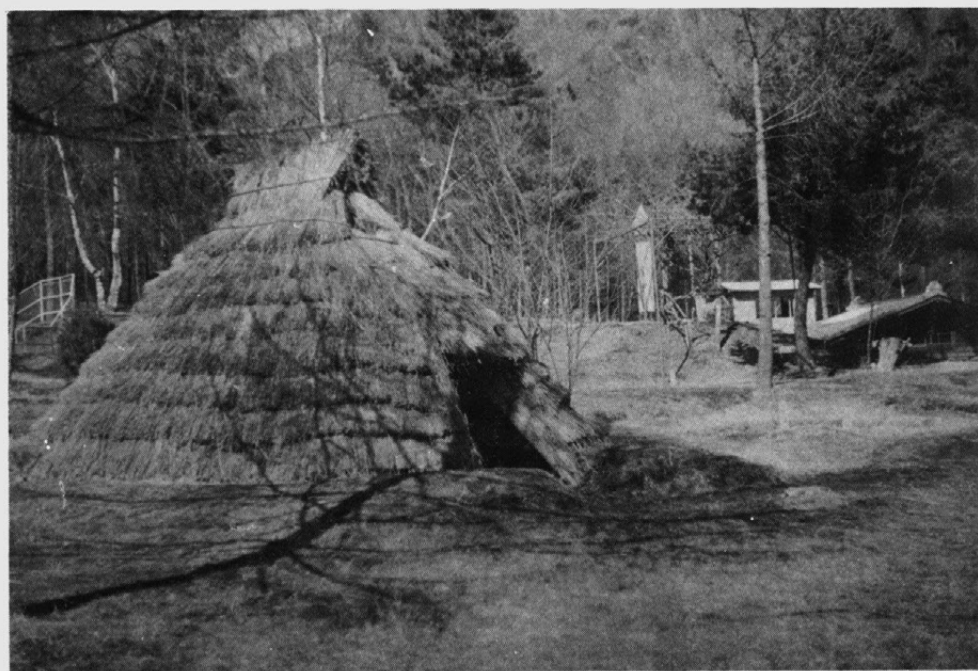
下 与助尾根古代公園

第3図 富士見、井戸尻遺跡



上 井戸尻遺跡復元住居
下 出土縄文土器

第4図 川上、大深山遺跡



第 5 図 塩尻柴宮発見銅鐸



I 長野県の遺跡分布

長野県は旧信濃国一國であって、その面積は約 13,600 km² で、本州にあっては岩手県・福島県に次ぐ第 3 位の大きさである。東西約 120 km、南北約 212 km と南北に長く、本州の中央部に位置し、その四囲は山で囲まれ、海に接しない県の一つである。日本の屋根ともいわれ、2,000 m 以上の山は 90 余を数え、山脈は険しく南・北・中三アルプスは特に著名である。こうした山あいの盆地や、山から流れだす川沿いの平地に生活立地が求められ、佐久・上小・善光寺・松本・諏訪・伊那・飯田の各盆地、千曲川・犀川・姫川・木曾川・天竜川、そしてそれらの支流の流域に集落のほとんどが点在している。こうした生活可能地も、長野県全体から見れば 14% というわずかな地域で、残る 86% は山地である。生活地の海拔も高く、役場の所在地で見ると、最低が 315 m、最高が 1,180 m となっていて、600 m 台が最も多い。1,000 m 以上の村も 6 カ村あって、相当高い高原にも生活地が求められていることがわかる。こうした海拔の高さは、気温でみると、平均 10°前後と涼しく、年間の寒暑の差は大きく、降水量は少ないという盆地性の気候特色を示している。南部では表日本型に入り、夏の降水量が多く、北部では裏日本型に入り、150 cm をこえる多雪地帯もある。このように、地形の差も大きく、広い県下は、地形的なまとまりの中での個性が強く見られる。

現在、長野県は 125 市町村に行政区画されている。大地域にわけると東信・北信・中信・南信の 4 つにわけられ、それはさらに地形的なまとまりから、佐久・上小・善光寺・奥信濃・姫川・松本・木曾・諏訪・伊那・飯田の 10 地区に区分される。

長野県の埋蔵文化財包蔵地（遺跡・古墳等）は未だ完全に把握されていないが、昭和 41 年現在県教育委員会にある埋蔵文化財包蔵地台帳は 8,773 を数える。昭和 40 年以降、県下各地での分布調査を行なってきているが、それによると半数以上は新発見の遺跡である。こうしたことから考えると、県下の埋蔵文化財包蔵地は 1 万数千を数えるものと思われる。全国には約 14 万の埋蔵文化財包蔵地があり、その 1 割を長野県が保有していることになる。しかも、86% が山地であることを考えると、埋蔵文化財包蔵地のほとんどが残りの 14% の中に分布し、その濃密さは他に比較できない程の濃さである。例えば全国遺跡地図で見ても、赤いドットは長野県の地図に一番多くある。

埋蔵文化財包蔵地（以下古墳も含めて遺跡という）の数の上からみると、市町村別の遺跡数は第 1 表の通りである。遺跡計と時代別遺跡数の累計と違うのは、各時期にわたる複合遺跡が存在するためである。（ ）内の数字は発掘届件数を示す。ただし、同一遺跡であっても、年次の違うものはそれぞれ一件としてあつてある。

時代別に見ると、先土器時代は最も少なく 140 足らずである。これは先土器時代の研究は戦後に初まったための歴史の浅さの結果で、今後もっと数は増加するものと思われる。それでも全国的に見れば数の多い方であり、著名な遺跡（発掘調査され、その内容の豊かさで）が多い。縄文時代は最も多く、全遺跡の半数をしめており、その大半が縄文時代中期である。長野県の古代文化を代表するもの

が縄文時代中期であることは数の上でも示しており、発掘調査結果でもすぐれた業績をあげている。縄文時代の各時期別の累数をまとめてないが、中期について多いのが早期で、とくに押型文土器の分布は全国一である。山・高原・谷という自然変化に恵まれた中での狩猟採集生活のおう歌された時代である。弥生時代の遺跡は1,200余と少ない。その大半が後期の遺跡である。弥生時代が縄文時代の3分の1という急激な減少となるのは、高冷地であることと、初期水田の可能な湿地帯が少ないことによるもので、後期になって地区への定着と技術の進歩によって遺跡数は増加している。古墳時代の遺跡は弥生時代の倍となっており、その発展がしられる。墳丘は遺跡数より多く、そのほとんどが後期の群集墳で、前方後円墳は北信と南信に多く、東信にわずかである。この時期および歴史時代に入って古代は、大和朝廷の東国経営と東山道との結びつきが強い。歴史時代の遺跡が意外と少ないのは、台帳作成時（昭和27年頃）において、この時期が注意され初めた頃で、多くの研究者が考古学の対象として取りあげていなかったため、最近の分布調査では、新発見の遺跡として最も多いのがこの時期である。そのため、縄文時代について最も遺跡数が多いと思われる。今後、その下限と内容を限定して再調査する必要がある。

地域別で見ると、南信が断然多く、ついで北信となり、東・中信はほぼ同数である。この数の多少は地域の広さとも関係してくるが、研究の歴史や研究者の層の厚さとも関連がある。東信では先土器時代と古墳時代が他地域に較べると多い。先土器時代は縄文時代とともに八ヶ岳・霧ヶ峯を中心とした地域圏として把握される。古墳時代に遺跡が多いのは水稻農耕の発展と結びつけるよりは、牧場と結びつけた方がよいと思う。そのためか古墳の数は少ない。北信では、墳丘が県下で最も多いのが注目される。しかしそのほとんどが後期群集墳であり、積石塚で、全国的に見ても特異な地域である。また、前方後円墳でも県下で最も古いのがこの地だけにしかない。その割には弥生時代・古墳時代の遺跡が少ないのは内容の豊かな大遺跡の存在を示す。千曲川の左右に広がる地味の豊かな善光寺平の存在を考えなくては行けない。歴史時代の遺跡も更埴条里制遺構を初めとして、早くから調査されている。中信は縄文時代の遺跡が南信について多い。これは山麓の扇状地帯が生活の絶好の場所であったと思われる。先土器時代・弥生時代・古墳時代墳丘は他の地域よりも少ない。先土器時代の少ないのは、この時代の最もよい生活舞台であった高原が少なく、そのわずかな大半が開田高原にあることから、松本平が適地ではなかったかと思われる。弥生時代の少ないのは当然で、県下で最も降水量が少なく、湿地帯も少ないためと思われる。それなのに、この地だけに銅鐸が発見されているという不思議さをもっている。古墳も少ないのは水稻耕作の基盤の弱さと思う。南信はいずれの時代においてもその遺跡数は他地域に較べて断然多い。そのことは研究の厚さを示すとともに、それだけの優越性を示す何ものかが、各時代にあったものと思う。

さらに地区別に見ると、佐久では、先土器・縄文時代は八ヶ岳東北山麓にあり、弥生時代は野沢平に集中して見られ、古墳時代に3倍にも増加しているのが注目される。望月を初めとする牧場経営の発展の結果と思われる。弥生時代から古墳時代以降の発展が特に注目される地区である。上小地方は、先土器時代が諏訪地方について多く、半数は和田峠を初めとする黒曜石原産地にあり、半数は菅平高原にある。縄文時代の遺跡は千曲川北岸の山麓扇状地帯に多い。弥生時代の遺跡も多い方で、飯田

地方と同じく湿地帯が発達していないが遺跡数が多い点何か共通するものがある。しかも上田市・東部町に集中しているのが注意される。古墳時代の遺跡も前時代と同じ土地に集中している。数少ない古墳も同様であり、前方後円墳もいくつか見られ、東信地域ではここだけにある。歴史時代の遺跡は実際の数はぐんと多く、信濃の国府や国分寺はこの地にあった。しかし、そうした重要なものがおかれたのに、前時代までの経済的基盤は弱く、松本平とともに、何故国府がおかれたかという点で注目される。地域的な高まりの弱い地区を選んで大和朝廷が進出したものと思う。善光寺平地方は縄文時代の遺跡が広い割りに少ない。弥生時代以降に特色が見られ、千曲川流域の湿地帯が水田可能地として最適であり、内容の豊かな遺跡が多い。こうした経済的な基盤の高まりの中に、弥生時代後期の箱清水式土器文化や、古墳時代の川柳將軍塚、森將軍塚といった畿内地方にもひけをとらない古い前方後円墳を築造せしめている。また群集墳も多く、最大の規模をもつ大室古墳群はそのほとんどが積石塚であり、合掌式石室といった特殊な構造の古墳とともに注目され、その築造者、その経済的基盤が問題視されている。歴史時代に入っても、更埴条里遺構を初めとして、数多くの古い寺院址もっている。奥信濃地方は善光寺地方の一部とともに全国的にも多雪地帯である。そのため遺跡の数は少ないのは当然である。中でも飯山・中野両市の千曲川沿岸の弥生文化は中期後半から後期にかけて特殊な発達を示している。こうした限定された地域に農耕が定着したためか、古墳時代になっても、他の地方が2～3倍に発展しているのに、この地域ではほとんど増加が見られない。古墳の数も少ない。こうしたところにこの地方の限界が見られる。姫川流域地方は、県下では最もせまく2村が該当するのみであるのと、白馬村にわずかに平地が見られるだけということもあって、遺跡の絶対数は少ない。この地域は大町市を含めた北安曇地方として、調査が不十分であり、研究者のいない県下では最も考古学の調査がおこなわれている地方である。最近の分布調査では内容のある遺跡がいくつも新発見されており、早急の調査が必要である。ヒスイや滑石の原産地をもち、特異な内容の遺跡が見られる。また陸との交通路としても注目される。白馬村の古墳群も注意される。松本平地方は盆地周辺の扇状地地帯に縄文時代の遺跡が多い。中央部においては水の不便から遺跡は少ない。広い割に弥生時代後期の遺跡が少ないのは、水田可能地の少なさのためと思われる。古墳時代になると3倍に遺跡数が増加し、しかし墳丘は松本市中山地方と穂高町に集中しており、全体の数も少なく、水田耕作を中心とした経済的な高まりは見られない。それなのに弥生時代の銅鐸や歴史時代の国府の存在など特異な一面が見られて注目される。木曾谷地方も谷がけわしく平地が少ないこともあって遺跡は少ない。中でも先土器時代から縄文時代草創期にかけての開田高原のあり方は注目される。弥生時代・古墳時代の遺跡数が少ないのは地形的・気象的条件で当然のものと思われる。歴史時代に入ってから遺跡が急増する一因は吉蘇路の開通にも求められるだろう。古墳は山口村をのぞいたいわゆる木曾谷には1基も見られない。諏訪地方では先土器時代と縄文時代中期の異常な発展が注目される。先土器時代は他の地方に較べると断然多いのは、研究の進んでいるためもあるが、黒曜石という石器用材の原産地をもつことと、高原が発達しているためと思う。八ヶ岳山麓に見られる縄文時代中期の隆盛ぶりは世界の学界からも注目される場所で、それを支えた経済基盤の問題が学界でも論争されている。弥生時代になると、諏訪湖周辺に遺跡が集中し、その絶対数も5分の1にへっている。高冷地であることと、湿地帯の少

なさからの結果と思われる。古墳時代の遺跡は増加し、古い古墳も見られるが、ほとんどが後期のものである。弥生時代以降と諏訪社と諏羽国との関係が注目される。伊那地方は天竜川上流地方で、飯田地方とのつながりが強い。ここでは段丘地帯に先土器時代の遺跡がいくつか知られ、神子柴遺跡は特に著名である。縄文時代の遺跡が多い。飯田地方と同じで段丘地帯に散在している。弥生時代、古墳時代は他の地方と同様であるが、歴史時代になると、県下でもこの地方だけに良質の灰釉陶器が見られ、古代の特別な発達の様が見られ注目される。飯田地方は、広いこともあるが、先土器時代・歴史時代をのぞいてはいずれも数が多い。中でも縄文時代、弥生時代は他の地方を断然はなしている。縄文時代は発達した段丘地帯に縄文中期後半の遺跡が群在している。狩猟採集の生活には適地としての条件を満たしている。弥生時代の遺跡が段丘地帯に群在しているのは、水稻耕作だけでは理解できない。陸耕とかあるいは社会的な制約があったのかとも思われる。古墳時代の遺跡も多いが、他地域にくらべると弥生時代の遺跡との比較増が少ない。これはすでに弥生時代に発展してしまったためとも考える。墳丘もこの地方に集中しており、特に前方後円墳の多いのが注目される。これだけの古墳をつくらしめた経済的・政治的基盤が問題となる。歴史時代の遺跡はその確認が充分されていない。

県下も以上のように遺跡分布は一様でなく、市町村によっては表のように多少様々あって早急に確実な調査が必要とされる。

第1表 市町村別、時期別遺跡数および発掘件数（昭和40年現在）

地域名	市町村名	遺跡の時期区分						計	
		先土器	縄文	弥生	古墳	墳丘	歴史	遺跡数	発掘件数
東 信	小諸市		45(4)	12	50(1)	81(1)	1(1)	160	5
	佐久市		12	11	42	15	3	48	
	軽井沢町		18(4)	3	12		11	38	4
	望月町	1	64	12	38	42	2	127	
	御代田町		6	3	12	2		18	
	立科町	2(2)	12(1)	6(1)	22(1)	5	14(1)	52	2
	浅科町		16(1)	7	21	7	1	39	1
	北御牧村		6	1	6(3)	2	1	14	3
	白田町		40(2)	14	24	56(1)		109	3
	佐久町		21	1	6			23	
	小海町		31	4	11			34	
	川上町	3(1)	11(7)		1			14	8
	南牧村	7(3)	15(1)	2	2			25	4
	南相木村		9	1				10	
北相木村		10(1)	1(1)				10	1	
八千穂村	1	28(4)	3	17			31	4	
	小計	14(6)	344(25)	81(2)	264(5)	210(2)	33(2)	752	35

上	市町		92 (2)	80 (3)	97	42 (2)	2 (6)	214	12	
	上丸		26 (1)	6	25 (3)	4	1 (1)	46	4	
	長門	6 (4)	45 (1)		7		1 (1)	50	5	
	東部		124 (3)	53 (2)	63 (2)	26	1	186	4	
	真田	10	92 (6)	18 (1)	23	22		143	6	
	武石		18	4	4			18		
	和田	4 (4)	12					11	4	
	川西		12	7	17	2		29		
	青木		33 (1)	6	11	1		38	1	
	小計	20 (8)	454 (14)	174 (6)	247 (5)	97 (2)	5 (8)	735	36	
計	34 (14)	798 (39)	255 (8)	511 (10)	307 (4)	38 (10)	1,487	71		
北	善		6 (1)	100 (2)	57 (4)	142	895 (8)	27 (1)	1,239	15
	更埴	3	29 (2)	29 (2)	32 (5)	111 (1)	18 (9)	178	11	
	須坂		14	14	31	57 (1)	11	79	1	
	坂城		13 (1)	8	13	56	4 (2)	91	3	
	戸倉		7 (3)	4	7 (3)	11	1	23	4	
	上山		16	9	12	35	1	62		
	大岡		2					2		
	小布施		3	4	5 (1)	37		43	1	
	東		14 (1)	1 (1)	15	7		30	1	
	高山		15	4	11	6		27		
	信州新		13	1	1	1		15		
	豊野		13 (1)	8	15 (1)	8 (1)	1	34	3	
	信濃	5 (8)	37 (3)	5	17		1	49	11	
	牟礼		14	5	12	1		26		
	三水		10 (1)					10	1	
	戸隠		14	1	9		1 (2)	16	2	
鬼無		7 (1)	1	5			11	1		
小川		10	1	4			11			
中条		13	1	4			15			
小計	14 (9)	344 (15)	153 (7)	335 (10)	1,225 (11)	65 (14)	1,961	54		
信	奥		6 (2)	17 (1)	28 (3)	24 (4)	22	11 (3)	81	9
	飯山	2	39 (6)	30 (9)	29 (1)	14 (1)		94	17	
	山の内	3	20 (2)	4	6 (1)	11	2	37	3	
	木島平		13	5	6	7		22		
	野沢温泉		8 (6)	1				8	6	
	豊田		17 (4)	7 (3)	11			23	4	
	栄	2 (2)	12	1	3			14	2	
	小計	13 (4)	126 (19)	76 (15)	79 (6)	54 (1)	13 (3)	279	41	
計	27 (13)	470 (34)	229 (22)	414 (16)	1,279 (13)	78 (17)	2,240	95		

地域名		市町村名	遺跡の時期区分							遺跡数	発掘件数
			先土器	縄文	弥生	古墳	墳丘	歴史			
中	姫川流域	白馬村		10(1)	1	4	18		39	1	
		小谷村		10	1	4	1		11		
		小計	0(0)	20(1)	2(0)	8(0)	19(0)	0(0)	50	1	
信	松本	松本市	1	97(3)	29(6)	103(2)	58(1)	20(4)	291	15	
		塩尻市	3(1)	119(9)	33(4)	105(5)	12	1(5)	245	12	
		大町市		47(6)	6	8	10	1	74	6	
		明科町		14	4(1)	16	5	1(1)	27	2	
		本郷村		25	11	23	12(2)	1(1)	53	3	
		四賀村		28	1	13(1)		(1)	38	2	
		本城村		12	1	2			14		
		坂北村		5		1	1		6		
		麻績村		7	2	5	12		22		
		坂井村		11	1	4	11(1)	1	26	1	
		生坂村		17		8			19		
		波田村		14(3)		7		1	17	3	
		山形村		35	10	8			51		
		朝日村		9(2)	2	3			10	2	
		豊科町		1	1	4			6		
		穂高町		22	5	22	78(1)		141	1	
		奈川村		13		5		1(1)	16	1	
		安曇村		6(3)		1		2(2)	7	3	
		平	梓川村		29	1	12	3	1	41	
		信	平	三郷村		12	7	19	2	2(1)	50
堀金村	1			21	1	5	6(1)		38	1	
池田町				13	4	6	2		22		
松川町				18(1)	3	5	6		24	1	
八坂村				6	1		5		12		
美麻村				5			3		8		
小計	5(1)			586(29)	123(11)	385(8)	226(7)	32(17)	1,258	54	
中	木曾谷	木曾福島町		50	1	7		4	42		
		上松町	1	26(1)	1	6		3	20	1	
		南木曾町	1	38(1)		3			40	1	
		檜川村		15		1			15		

		木 祖 村		43		6			42	
		日 義 村	2	57 (3)	7 (2)	12		11 (2)	40	5
		開 田 村	7 (5)	40 (5)		3		1 (1)	43	9
		三 岳 村		20 (1)				1	17	1
		王 滝 村	1	3					3	
		大 桑 村		36 (2)	1				36	2
		山 口 村	1	30 (1)	5	8	3	1 (1)	33	1
		小 計	13 (5)	358 (14)	15 (2)	46 (0)	3 (0)	21 (4)	331	20
		計	18 (6)	964 (44)	140 (13)	439 (8)	248 (7)	53 (2)	1,639	75
南	諏 訪	茅 野 市	19 (8)	141 (22)	14 (1)	49 (3)	40	7 (2)	211	30
		諏 訪 市	17 (6)	69 (5)	19	24	27	10 (4)	118	14
		岡 谷 市		122 (8)	48 (4)	31 (2)	33 (1)	3	191	11
		下 諏 訪 町	5 (1)	42 (4)	9	13	8	1 (1)	60	6
		富 士 見 町		80 (23)	1	9 (1)			81	23
		原 村		35 (2)		5			36	2
		小 計	41 (15)	489 (64)	91 (5)	131 (6)	108 (1)	21 (7)	697	86
	伊 那	伊 那 市	5 (2)	174 (7)	63	88	127	7 (2)	332	10
		駒 ヶ 根 市		96 (4)	23 (4)	40 (2)	12	4 (1)	120	8
		高 遠 町		33	8	15		1 (1)	37	1
		辰 野 町		69 (1)	3	26	2	1	82	1
		箕 輪 町	1	81 (1)	19	46	22		128	1
		飯 島 町		51	13	6			53	
		南 箕 輪 村	1 (1)	17	4	9	3		24	1
		中 川 村		28 (1)	11 (1)	7 (1)	2		35	1
		長 谷 村		14	3	5			16	
		宮 田 村		18 (2)	5	8 (1)	8 (1)	3	34	4
小 計	7 (3)	581 (17)	152 (5)	250 (4)	176 (1)	16 (4)	861	27		
飯 田	飯 田 市		346 (1)	154 (1)	240 (1)	457	6	947	4	
	鼎 町		20	4	6	13	2	33		
	松 川 町	2	77 (1)	21	21	19	1 (1)	109	1	
	高 森 町	1	79 (1)	43	47 (1)	34		127	2	
	阿 南 町		52 (2)	8	27	14		79	1	
	上 郷 町		20	15	18	31		61		
	清 内 路 村		3					3		
阿 智 村	1	102	23	37	21	5	129			

地域名	市町村名	遺跡の時期区分						計	
		先土器	縄文	弥生	古墳	墳丘	歴史	遺跡数	発掘件数
	浪合村	1 (1)	9		1			10	1
	平谷村	1	3					4	
	根羽村		20	3	1			21	
	下条村		34	2	3	16		53	
	禿木村	1	21	3	1			23	
	天竜村		23 (3)	3	1			23	3
	泰阜村		24	2	4			24	
	喬木村		32	22 (1)	35 (2)	45	3	90	2
	豊丘村	1	62 (1)	44 (2)	46 (2)	24	2 (2)	105	4
	大鹿村		1				1	2	
	上村							0	
	南信濃村		11		2			11	
	小計	8 (1)	939 (9)	347 (4)	490 (6)	674	20 (2)	1,854	18
	計	56 (19)	2,009 (90)	590 (14)	871 (16)	958 (2)	57 (13)	3,412	131
	総計	135 (52)	4,241 (207)	1,184 (57)	2,235 (50)	2,792 (26)	226 (62)	8,773	372

II 発掘調査の状況

昭和25年文化財保護法が施行され、その11月より、発掘調査は文化庁への届出制となった。そのため発掘調査は規制されたかに見えた。10年くらいは一応の効果があつたが、高度経済成長政策の進展に伴い、発掘調査の件数は増加の一方で今日にきている。だから文化財保護か開発かという問題も各地でおきている。

ともあれ、文化財保護法制定以後の発掘調査はそのほとんどが把握できるが、制定以前の発掘調査については、完全把握ができない。明治時代からの考古学研究の深さを考えると、各地で発掘調査があつたと思われる。

25年から40年までの発掘調査の件数は372件で、年平均22件である。

第1表では()内の数字が発掘件数である。市町村別の件数と、遺跡の時期がわかる。市町村別の調査の様子を見ると、佐久地方では八ヶ岳山麓と、浅間山麓に発掘調査が見られ、多くが縄文時代の遺跡で、川上村の大深山遺跡、軽井沢町南石堂遺跡、最近では表にはないが北相木村栃原遺跡のように何次にもわたる発掘調査が見られる。また川上村・南牧村の先土器時代の遺跡も知られている。上小地方では長門町・和田村の霧ヶ峰高原北側の遺跡調査が目立つ。鷹山・男女倉遺跡が何次にわたって調査されている。縄文時代の遺跡も多く、真田町・東部町での調査が多い。この地方では上田市での歴史時代の調査が見られ、国分寺の存在が大きい。善光寺平地方では、先土器時代が信濃町で多く調査されている。杉久保遺跡を中心として、何度も調査された。古墳時代に更埴市の調査が多いのは城之内遺跡の調査が継続され、また隣接する更埴糸里遺構も継続されたので、歴史時代の調査も多い。古墳時代墳丘では長野市が多い。大室古墳群・吉古墳群等があつて、県下一の古墳密集地帯であるので当然と思う。奥信濃では遺跡数の割には発掘調査が多く、中でも縄文時代・弥生時代が多い。飯山市の弥生時代遺跡の調査件数は県下で最も多い。発掘関係者の意向がここにあつたことがわかる。野沢温泉村の縄文時代遺跡の調査が多いのは村誌編纂のためであつた。姫川地方は研究者がいなくともあつて発掘調査は1件だけであり、この地方は未知の土地として残されている。分布調査という基礎調査、そして学術調査が望まれる。松本平地方では縄文時代の遺跡が塩尻市と大町市で多い。前者では平出遺跡を中心として調査され、各時期にわたる遺跡なので、各時期にも調査件数があつてきている。後者では上原遺跡や青木湖周辺遺跡の継続調査の結果である。松本市では弥生時代の遺跡調査が割と多い。木曾谷地方では開田村と日義村の調査が多く、前者では先土器時代遺跡柳又A・B両遺跡の調査が注目される。諏訪地方は県下でもっとも発掘調査の多い地方で、原村を除いての市町村どこも多い。先土器時代は茅野市と諏訪市で、縄文時代は茅野市と富士見町が図抜けて多い。八ヶ岳山麓の縄文中期遺跡に集中して調査が進められた結果である。伊那地方では伊那市と駒ヶ根市が多い。前者では縄文時代が、後者では弥生時代が多い。飯田地方は調査の件数も少なく、特に多いという市町村もない。遺跡の多い割に調査が進んでいない。

県下全体で見ると、発掘調査は縄文時代が最も多い。遺跡数が多いから当然と思われるし、長野県を代表する時期でもある。数が多いのに調査が少ないのは古墳で、これはほとんどの古墳が盗掘されたり破壊されたりしているためと、円墳がほとんどであるためと、さらに古墳研究者が県下にいないこともある。数が少ない割に調査されているのが先土器時代で、黒曜石原産地であるための内容の豊富な遺跡であることが研究者の意欲を引いている。地域別では南信が多く、北信がついでいる。地方では諏訪・善光寺平・松本平の順となっていて、伊那・飯田地方が意外と少ない。

年度別で見ると、多い年と少ない年とがあり、戦後の考古学ブームといわれた26・27年、そして34年、37年からはずっと増加の一方であり、45年までどんどんふえていき今では年100件近くとなっている。26～40年までの15年間の平均が22件である。41～44年の5年間は44件であって、倍となっている。これは異常である。とくに上小・飯田地方での増加が目立つ。

発掘調査の目的を学問上の研究のためにする学術調査と、開発のためによる破壊の前に調査して記録に残す記録保存の調査とにわけることができる。発掘届に調査の目的がかかれているのを見て区別する。36年以前のは発掘届の副が県においてないので、その区別ができず、一応学術調査の方に入れておいた。傾向としては年度の古い程学術調査が多い。37年度以降からは記録保存の調査が増加し、最近5年間を見ると、3分の2以上が記録保存の調査である。45年度はほとんどが記録保存の調査であり、40年以降の異常な発掘調査については、開発側・文化財保護側、そして研究者の三者の反省と、前進的な方向を確立しなければいけないと思う。

III 遺跡の調査概要

1) 昭和25年度

1 平出遺跡

所在地 塩尻市宗賀平出

調査期日 昭和25年4月5日～4月12日

主催者 旧宗賀村 担当者 大場磐雄

調査概要 平出遺跡第一次調査で3号址から11号址までの土師期住居址と、2ヶの縄文中期住居址を発掘した。

文献 大場磐雄 原嘉藤 「長野県東筑摩郡宗賀村平出遺跡第一次調査概報」信濃Ⅲ 2の7
平出遺跡調査会編「平出」(昭30年)

2 上原遺跡

所在地 大町市平上原

調査期日 昭和25年4月12日～4月14日

主催者 旧平村 担当者 大場磐雄

文献 川戸彰 推名仙卓 「長野市北安曇郡平村野口上原遺跡概報」信濃Ⅲ 2の7

3 与助尾根遺跡

所在地 茅野市豊平大塩東嶽

調査期日 昭和25年4月15日～10月15日

主催者 宮坂英式 担当者 宮坂英式

調査概要 第17号住居址より22号住居址までを発掘調査した。

文献 宮坂英式「尖石」茅野市教育委員会(昭32年)

4 阿見張遺跡

所在地 下伊那郡阿南町旦開阿見張

調査期日 昭和25年5月14日・11月3日～11月5日

主催者 担当者 宮坂英式

文献 宮坂英式 「長野県内の縄文文化諸磯遺跡」信濃Ⅲ 2の5

5 徳久利遺跡

所在地 諏訪郡富士見町南原山

調査期日 昭和25年6月1日～10月22日

主任者 担当者 宮坂英式

文献 宮坂英式 「長野県諏訪郡徳久利遺跡」日本考古学年報3

6 古屋敷遺跡

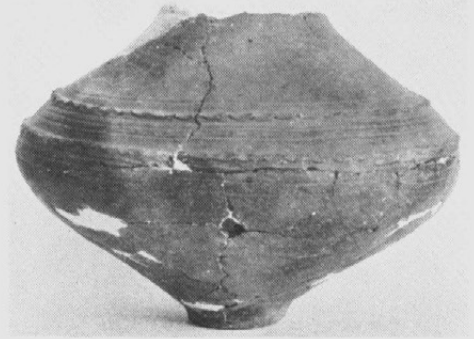
所在地 西筑摩郡開田村末川古屋敷

調査期日 昭和25年8月1日～8月3日

主催者 担当者 藤沢宗平 浦沢美雪

文献 藤沢宗平「長野県西筑摩郡古屋敷遺跡」

日本考古学年報3



第1図 林里遺跡出土、遠賀川系
弥生式土器

7 中原遺跡

所在地 茅野市豊南大塩中原

調査期日 昭和25年8月8日～8月24日

主催者 担当者 宮坂英式

調査概要 縄文後期の敷石住居址と推定できる遺構を検出した。土器は畑の内式で、石器では定角式磨製石斧3点が出土している。

文献 宮坂英式「長野県諏訪郡中原遺跡」 日本考古学年報3。

8 立野遺跡

所在地 飯田市伊賀良北方立野

調査期日 昭和25年8月

主催者 担当者 松島透

文献 松島透「長野県下伊那郡立野遺跡」 日本考古学年報3。

9 山田遺跡

所在地 駒ヶ根市東伊那

調査期日 昭和25年10月1日～10月2日

主催者 旧伊那村 担当者 宮坂英式

調査概要 東西径5、南北径4.25mの隅丸方形プランをとる竪穴住居址で、中央北寄りに石囲炉があり、その北側に石棒を立てた石壇が設けられていた。

文献 宮坂英式「長野県上伊那郡上野原遺跡」 日本考古学年報3。

10 林里遺跡

所在地 下伊那郡豊丘村神稻林里

調査期日 昭和25年10月9日～10月12日

主催者 担当者 大沢和夫

文献 松島透「長野県下伊那郡林里遺跡」 日本考古学年報3。

11 平出遺跡

所在地 塩尻市宗賀平出

調査期日 昭和25年10月29日～11月10日

主催者 旧宗賀村 担当者 大場磐雄

調査概要 第一次調査時に完掘出来なかった11号址をふくめて12ケの土師期住居址と縄文中期住

居址 2ヶを発掘調査した。

文 献 大場磐雄 原嘉藤他「平出遺跡第二次調査概報」信濃Ⅲ 3の2.3.
平出遺跡調査会編「平出」(昭30年)

12 上の原遺跡

所在地 駒ヶ根市東伊那伊那耕地上の原

調査期日 昭和25年11月1日～11月2日

主催者 伊那村小学校 担当者 宮坂英式 友野良一

文 献 大場磐雄、友野良一他「長野県上伊那郡伊那村遺跡第一次調査概報」信濃Ⅲ 3の6

13 尾崎遺跡

所在地 飯山市外様東長峯

調査期日 昭和25年11月9～11月10日

主催者 水内郷土研究会 担当者 酒詰仲男

調査概要 弥生後期の竪穴(5、6号址)2ヶの発掘を行った。

文 献 清水享「下水内郡外様村東長峯第5.6住居址発掘調査報告書」昭和25年度 下水内郡遺跡発掘調査報告書2.

森山茂夫「下水内中部の遺跡」、宮坂英式「長野県下水内郡長峯遺跡」日本考古学年報3.

14 城山遺跡

所在地 松本市城山700

調査期日 昭和25年11月24日～11月26日

主催者 松本市立博物館 担当者 藤沢宗平

調査概要 耕作で荒れているが、炉と思われる焼土と、柱穴2ヶを確認し、径約5mの円形竪穴住居址が推察された。石庖丁1、磨製石鏃2。弥生中期土器が出土しているが、この他に、縄文前、中期土器片も採集されている。

文 献 藤沢宗平「長野県松本市城山遺跡」日本考古学年報3.

15 牛の川遺跡

所在地 松本市笹賀区小俣東耕地牛の川

調査期日 昭和26年3月17日～3月23日

主催者 担当者 藤沢宗平

調査概要 3地点を選んで発掘を試み、このうちA地点では縄文中期加曾利E式土器を主体とする遺構(石囲炉)を検出した。

文 献 藤沢宗平「松本平における居住地域の変遷拡大について」信濃Ⅲ 5の11. 12.

2) 昭和 26 年度

16 広畑遺跡

所在地 岡谷市川岸三沢

調査期日 昭和 26 年 4 月 1 日

～ 4 月 10 日

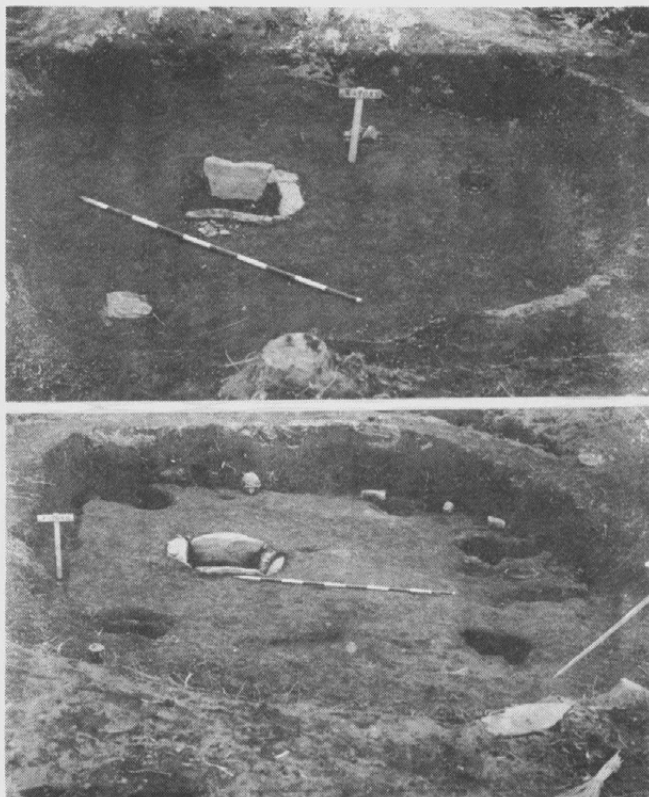
主催者 旧川岸村

担当者 藤森栄一

調査概要 縄文中期の竪穴 1

ヶを確認した。第 1 号址は
径 6 m 前後の不整形で、
中央やや北寄りに石囲炉が
あり、南壁に接して石蓋埋
壟が発見された。柱穴は 5
ヶのうち 4 ヶは 支柱穴で
ある。出土した土器は加曾
利 E 期に属する。第 2 号址
は炉址のみを検出したにと
どまった。安山岩 5 枚を使
った石囲炉である。

文献 戸沢充則「川岸村
の先史時代遺跡」川岸村誌
所収（昭 28 年）



第 2 図 山田遺跡 2 号(上)、6 号(下)住居址

17 鬼戸古窯

所在地 岡谷市川岸三沢

長塚

調査期日 昭和 26 年 4 月 1 日～ 4 月 10 日

主催者 旧川岸村史編纂会 担当者 藤森栄一

調査概要 2 基の窯址が発見調査されている。1 号窯は全長 5.5、幅 1.25 m、第 2 号窯は全長
6.5 m、幅 1.5 m を計る。第 1 号窯からは須恵器、第 2 号窯からは埴輪円筒破片が破砕された
状態で発見された。

文献 藤森栄一「川岸村三沢鬼戸窯址」諏訪考古学 8.

18 山田遺跡

所在地 駒ヶ根市東伊那上の原

調査期日 昭和 26 年 4 月 4 日～ 4 月 12 日

主 催 者 旧 伊那村文化財保存会 担 当 者 大場磐雄、宮坂英式

調査概要 第一次調査で、縄文中期の竪穴6ヶを発掘した。共に加曾利E期に属するもので、遺構としてはこの他に集落の外縁に小竪穴数ヶが見出された。

文 献 大場磐雄、友野良一他「長野県上伊那郡伊那村遺跡第一次調査概報」信濃Ⅲ3の6

19 狐久保遺跡

所 在 地 駒ヶ根市東伊那上の原

調査期日 昭和26年4月4日～4月12日

主 催 者 旧 伊那村文化財保存会 担 当 者 大場磐雄、宮坂英式

調査概要 山田遺跡調査団によって調査された遺跡で、イ、ロ、ハ、ニ号と4ヶの竪穴住居址が発見された。いずれも弥生後期に属する方形プランをとるもので、中央から一方に偏ったところに地床炉があり、その中には甕が火壷として用いられてあった。

文 献 大場磐雄、友野良一他「長野県上伊那郡伊那村遺跡第一次調査概報」信濃Ⅲ3の6

20 平出遺跡

所 在 地 塩尻市宗賀平出

調査期日 昭和26年4月10日～5月4日

主 催 者 旧 宗賀村 担 当 者 大場磐雄

調査概要 平出遺跡第三次の調査で、24～28号址までの5ヶの土師期住居址、ホ～リ号までの5ヶの縄文中期住居址、及び配石址1ヶを発掘調査した。

文 献 大場磐雄、原嘉藤他「長野県東筑摩郡宗賀村平出遺跡第三次調査概報」信濃Ⅲ3の7
平出遺跡調査会編「平出」(昭30年)

21 上原遺跡

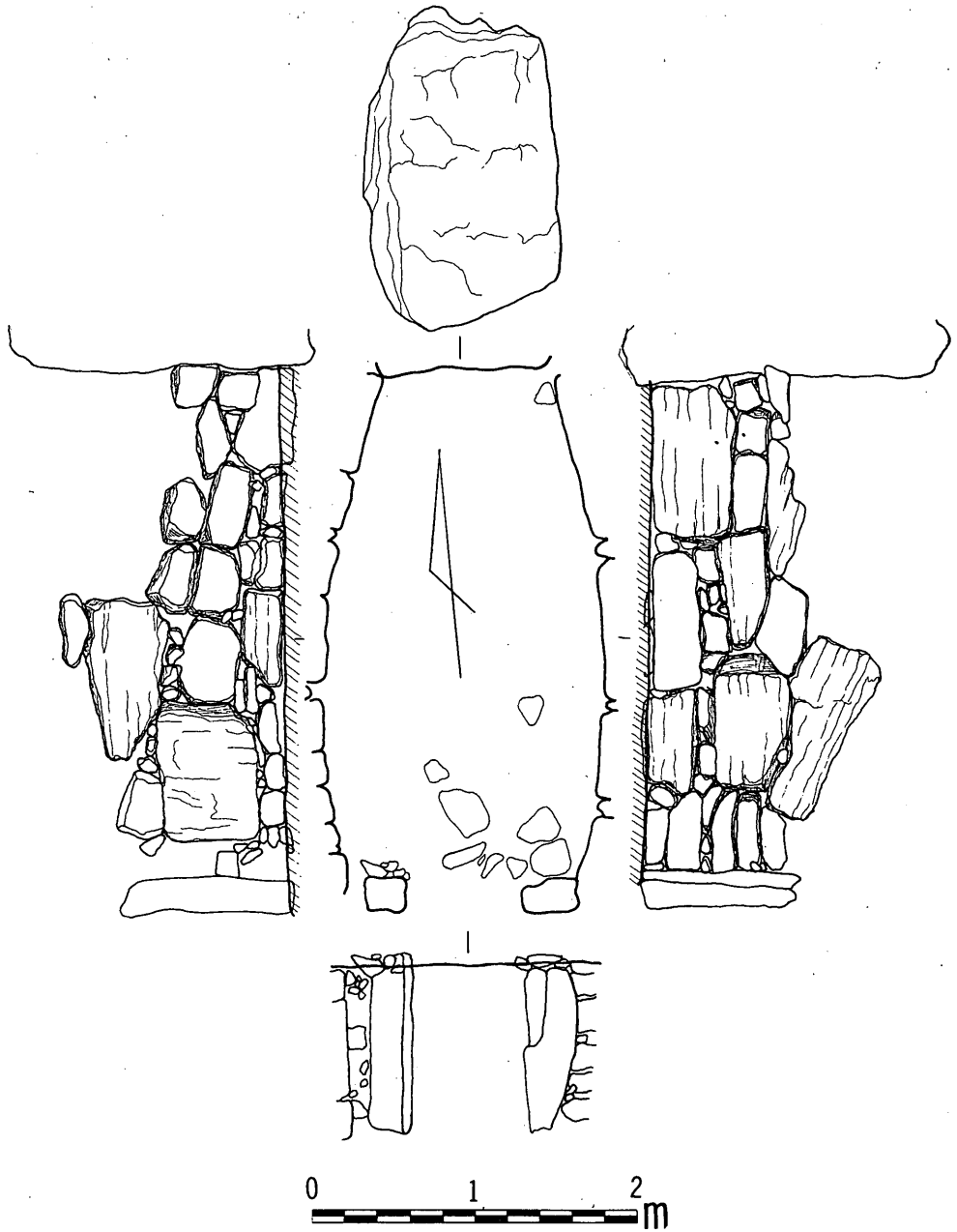
所 在 地 大町市平上原 1955の143～187

調査期日 昭和26年4月28日～5月4日

主 催 者 旧 平村 担 当 者 一志茂樹

調査概要 上原遺跡の第一次調査で、7ヶの小竪穴と棒状の安山岩 28ヶによる円形の配石址が発見された。出土した土器は縄文前期の諸磯式で、石器には、石匙、石錐、石鏃、玦状耳飾りなどがあげられる。

文 献 大場磐雄、猿田文紀他「長野県北安曇郡平村上原遺跡第一次調査概報」信濃Ⅲ3の7
上原遺跡調査会「上原(長野県埋蔵文化財発掘調査報告書2)」(昭32年)



第3図 白塚1号古墳石室実測図

22 白塚1号古墳

所在地 長野市若穂保科中道南3608の1

調査期日 昭和26年4月30日～5月5日

主催者 須坂市、興津正朔 担当者 小野勝年 神田五六

調査概要 白塚古墳群(10基)中の一古墳で積石塚である。既に崩され、天井石がはずされている。外形は一辺約8mの方形墳で、高さは2.3mを計る。内部構造について、羨道はわずかしがなく、変形されているらしい。柱石があって玄室と区別できる。玄室は長さ3m、中央部巾1.4mの胴張りで、側壁は持ち送り式となっている。骨、須恵器、土師器皿、高坏、金環2、鉄鏃1が発見された。

23 中原遺跡

所在地 茅野市豊平中原 640 の16

調査期日 昭和26年5月10日～5月31日

主催者 小林良江 担当者 宮坂英式

調査概要 縄文中期の竪穴が4ヶ発見された。1号址は径3.6mの円形プランで傾斜地に設けられているため南壁を欠いている。中央に40×60cm、深さ20cmの石囲炉がある。柱穴は1ヶのみ、2号址は径5.7mの円形プランで、中心より北に偏って不整五角形の石囲炉がある。柱穴は10ヶのうち6ヶが主柱穴である。3号址は径4cmの敷石住居址で中央にコの字形石囲炉がある。4号址は径1.5mの小竪穴で、中央に柱穴を持ち、その両側に鉄平石を敷いている。遺物については、1号址なし。2号址からは加曾利E式土器(甕、鉢、小形手捏土器)、土偶胴部、三角柱状土製品、長楕円形土盤、打製石斧、鉞状石器、石鏃、凹石、軽石製石器、3号址からは、加曾利E式土器破片、定角式磨製石斧、石鏃、蜂ノ巣石、球石、獣骨片(エチゴウサギ、ニッポンシカ、イノシシ)。4号址からは石鏃、篋状小形磨製石斧が出土している。

文献 宮坂英式「長野県諏訪郡中原遺跡」日本考古学年報4

24 長峯遺跡

所在地 飯山市外様 425

調査期日 昭和26年5月

主催者 飯山市外様中学校

調査概要 柳町地籍で方形プランの古式土師器を出土する住居址2ヶが調査されている。

文献 桐原健「北信濃長峯丘陵における弥生式遺跡」考古学雑誌45の1

25 旧奈川小学校校庭遺跡

所在地 南安曇郡奈川村黒川渡

調査期日 昭和26年6月15日～6月19日

主催者 南安曇郡教育会 担当者 大場磐雄

調査概要 縄文早期(押型文)から中期までの土器片を出土する遺跡で、石器としては珪岩質の石鏃等が採集されている。トレンチを設定調査したが、遺構は検出できなかった。

26 広辻古墳

所在地 南安曇郡梓川村大久保朝鮮原

調査期日 昭和26年6月15日～6月19日

主催者 南安曇郡教育会 担当者 大場磐雄

調査概要 円墳で石室は認められず、出土遺物も、発見されなかった。

27 狐塚 2号古墳

所在地 南安曇郡穂高町浅川

調査期日 昭和 26年 6月 15日～6月 19日

主催者 南安曇郡教育会 担当者 大場磐雄

調査概要 径 15 高さ 2mの円墳で、全長 22.5mの横穴式石室を内蔵していた。羨道と玄室の区別はさして明瞭ではない。出土遺物は直刀、刀子、鉄鏃、鏝、金環である。

文献 南安曇郡誌改訂編纂会「南安曇郡誌 2の上」(昭 43年)

28 舞鶴山第 2号古墳

所在地 長野市松代町西条東村

調査期日 昭和 26年 6月 20日～6月 30日

主催者 長野市西条小学校 担当者 米山一政

調査概要 前方後円墳である舞鶴山 1号墳よりも高処に築かれた円墳で、葺石、埴輪はなく、内部主体は竪穴式石室で、盗掘の厄を受けていた。棺床は粘土が張られていた。残存遺物は一点もなかった。

29 大室古墳

所在地 長野市松代町寺尾大室 3210・2734・2742

調査期日 昭和 26年 7月 15日～8月 31日

主催者 旧寺尾中学校 担当者 後藤守一 米山一政

調査概要 大室谷支群 107号墳、大室北谷支群同 358号墳の発掘調査と、すでに開口している 15基の測量が行なわれている。

文献 大塚初重「信濃大室古墳群」古代学研究 30
大塚初重「長野県大室古墳群」考古学集刊 4の 3

30 徳久利遺跡

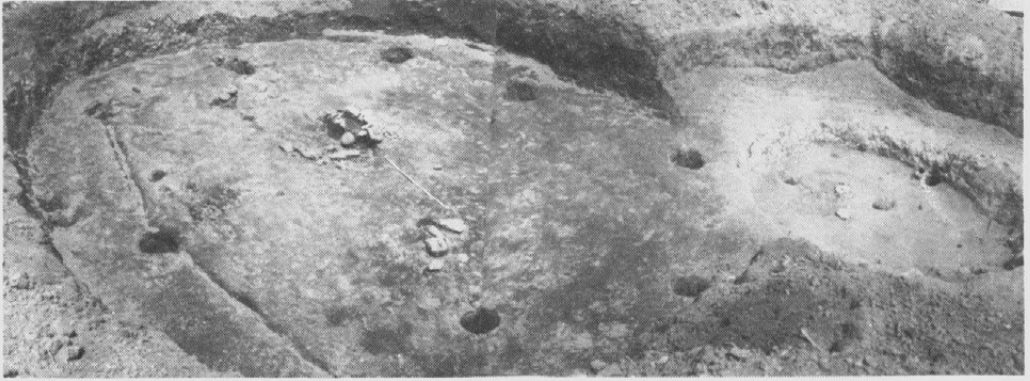
所在地 諏訪郡富士見町南原山 4654

調査期日 昭和 26年 7月 20日～8月 17日

主催者 茅野市 宮坂英式 担当者 宮坂英式

調査概要 昭和 26年までに 4ケの住居址を発掘している。今年は 5ケの竪穴住居址を調査した。先年調査した竪穴中には敷石住居址もあって、縄文後期に位置するものも見られたが、今回の竪穴はいずれも縄文中期に属するものであった。

文献 宮坂英式 「長野県諏訪郡富士見村南原山遺跡徳久利台地調査概報」信濃Ⅲ 3の 11
宮坂英式 「富原、徳久利遺跡」井戸尻所収



第4図 徳久利遺跡 11号(右) 13号(左)住居址

31 月夜嶽遺跡

所在地 下水内郡豊田村北永江月夜嶽

調査期日 昭和26年8月5日～8月8日

主催者 豊田村、神田五六 担当者 神田五六

調査概要 幅1.5m、長さ10mのトレンチ2本を設定し発掘したが、開墾の際にローム層が大分破壊されてしまっていたので、遺物の型式的相異を層位的に把握することはできなかった。遺物のうち土器はみな破片で60点ばかり、楕円押型文、貝殻条痕文、少量の繊維をふくむ縄文、南大原式等に分類できる。

文献 高橋桂 「長野県下水内郡豊田村月夜岳遺跡調査略報」 信濃Ⅲ15の3

32 与助尾根遺跡

所在地 茅野市豊平東岳 4734

調査期日 昭和26年8月10日～9月30日

主催者 茅野市豊平 小平吉一 担当者 宮坂英式

文献 宮坂英式 「尖石」 茅野市教育委員会(昭32年)

33 東組D遺跡

所在地 小県郡真田町長東組1223の1649

調査期日 昭和26年8月10日～8月15日

主催者 真田町長公民館 担当者 五十嵐幹雄

文献 五十嵐幹雄 「長野県小県郡長村菅平東組遺跡調査概報」 信濃Ⅲ6の7

34 阿見張遺跡

所在地 下伊那郡阿南町新野阿見張 3560

調査期日 昭和26年8月25日～8月31日

主催者 旧旦開村公民館 担当者 宮坂英式

調査概要 縄文前期の竪穴1ヶを発掘した。プランは長軸6、短軸5mの楕円形で床の中央に地床炉1ヶ、柱穴は8ヶ発見された。

文 献 宮坂英弑「長野県下伊那郡安見張遺跡」日本考古学年報4

35 的場古窯

所在地 小県郡丸子町依田生田的場4710

調査期日 昭和26年8月25日～8月31日

主催者 丸子町依田公民館 担当者 八幡一郎

調査概要 須恵器窯2基が、林道工事で切られてしまったので調査する。須恵後期のもので、窯体却の一部しか調査できなかった。

文 献 吉田章一郎、倉田芳郎、五十嵐幹雄「長野県小県郡依田村における窯址の調査」信濃Ⅲ6の2

36 南大原遺跡

所在地 下水内郡豊田村豊津

調査期日 昭和26年9月20日～10月31日

主催者 豊田村 神田五六 担当者 神田五六

調査概要 縄文前期の住居址1ヶを発掘した。壁は十分に露呈できなかったが、4×6mほどの長方形プランをとるものと推察された。土器は諸磯A式に比定されるもので、完形を呈するもの7点、復元可能なものを加えれば10数ヶ体分が出土している。

文 献 神田五六「長野県下水内郡豊井村南大原縄文諸磯式遺跡概報」信濃Ⅲ3の8

37 百瀬遺跡

所在地 松本市寿豊丘1316

調査期日 昭和26年9月20日～9月30日

主催者 松本市寿公民館 担当者 一志茂樹 藤沢宗平

文 献 藤沢宗平「長野県東筑摩郡寿村百瀬弥生式遺跡調査概報」信濃Ⅲ3の8

38 安源寺遺跡

所在地 中野市高丘安源寺清水595

調査期日 昭和26年10月5日26～10月8日

主催者 中野市高丘小学校 担当者 神田五六

調査概要 中野延徳沖の沓瀬原にのぞむ丘陵先端に発見された遺跡で、固い黒土層中に長径1.5、短径0.6mの不正楕円形を描く溝が発見された。そして、溝中より多くの弥生後期土器（壺、甕高坏、鉢）がかたまって発見された。

文 献 高丘小、中学校「安源寺遺跡発掘略報告」（昭和26年）

田川幸生、桐原健「長野県安源寺遺跡の弥生式土器」信濃Ⅲ14の4

39 及木遺跡

所在地 南安曇郡三郷村明盛道の下5249

調査期日 昭和 26 年 10 月 26 日～10 月 28 日

主催者 南安曇郡誌編纂会 担当者 一志茂樹

調査概要 平安期に位置する竪穴住居址の調査で、2.6 m 方形の小規模なもので、柱穴の発見はなかった。出土した土器は土師器の少片のみであった。

文献 中田令夫、藤沢宗平「長野県南安曇郡及木遺跡調査概報」信濃Ⅲ 4 の 7.8.

40 平出遺跡

所在地 塩尻市宗賀平出

調査期日 昭和 26 年 10 月 28 日～11 月 6 日

主催者 旧宗賀村 担当者 大場磐雄

調査概要 平出遺跡第四次の調査で、土師期の竪穴 29～49 号址と柱穴址 1～3 号址、縄文中期の竪穴ヌ～タ号址までを発掘した。

文献 大場磐雄他「長野県東筑摩郡宗賀村平出遺跡第四次発掘調査概報」信濃Ⅲ 4 の 2
平出遺跡調査会編「平出」(昭 30 年)

41 上原遺跡

所在地 大町市平上原 1955 の 143～189

調査期日 昭和 26 年 11 月 7 日～11 月 11 日

主催者 旧平村 担当者 大場磐雄

調査概要 第一次調査により発見された配石址と周辺地域の調査を行い、この結果、環状石籬 2 ケが復元でき、小竪穴 1 ケが露呈した。

文献 大場磐雄、猿田文紀他「長野県北安曇郡平村上原遺跡第二次調査概報」信濃Ⅲ 4 の 5.6.
上原遺跡調査会「上原(長野県埋蔵文化財発掘調査報告書 2.)」(昭 32 年)

42 浄心寺遺跡

所在地 南安曇郡三郷村小倉浄心寺南

調査期日 昭和 26 年 11 月 10 日～11 月 14 日

主催者 南安曇郡誌編纂会 担当者 一志茂樹

調査概要 縄文中期の遺跡で、トレンチを設定して調査したが、住居址等の遺構は検出されなかった。

43 狐久保遺跡

所在地 駒ヶ根市東伊那上の原

調査期日 昭和 26 年 11 月 10 日～11 月 27 日

主催者 旧伊那村文化財保存会 担当者 大場磐雄 宮坂英式

調査概要 山田遺跡の第二次調査で、縄文中期竪穴 1 ケを発掘した。

文献 大場磐雄、友野良一他「長野県上伊那郡伊那村遺跡第二次調査概報」信濃Ⅲ 4 の 11

44 殿村遺跡

所在地 駒ヶ根市東伊那

調査期日 昭和26年11月10日～11月27日

主催者 旧伊那村文化財保存会 担当者 大場磐雄、宮坂英式

調査概要 山田遺跡の第二次調査で灰釉陶器を伴う竪穴1ヶを発掘した。

文献 大場磐雄、友野良一他「長野県上伊那郡伊那村遺跡第二次調査概報」信濃Ⅲ4の11

45 庄の畑遺跡

所在地 岡谷市小口区6488

調査期日 昭和26年11月15日～11月18日

主催者 諏訪市 藤森栄一 担当者 藤森栄一

文献 戸沢充則「長野県岡谷市庄の畑遺跡の再調査」信濃Ⅲ5の10

46 古墳

所在地 南安曇郡小倉村

調査期日 昭和26年11月18日～11月20日

主催者 宇留賀嘉惣治 担当者 一志茂樹

調査概要 径5mほどの小円墳で、盗掘されており、内部主体は検出できず、副葬品も存在しなかった。

47 松節遺跡

所在地 長野市篠の井塩崎松節2399

調査期日 昭和26年12月1日～12月31日

主催者 長野市 田中武夫 担当者 米山一政

調査概要 以前に広形銅剣破片の発見された遺跡で、伴出遺物究明のため調査した。遺跡は天地返しで深耕されていたため良好ではなく、特別な遺構等は存在しなかった。そのおりに出土した遺物は土師器の甕数点である。

48 大矢沢古窯

所在地 下伊那郡豊岡村河野1068

調査期日 昭和26年12月5日～12月7日

主催者 豊丘村 神谷敏臣 担当者 市村威人

調査概要 全長9mを有する長大なもので、半地下式登窯構造を有し、窯底には一種の有段装置が認められている。出土遺物は須恵器のみであり、甕、壺、高台付坏、坏、蓋などが出土している。

文献 久志卓真「大矢沢須恵器窯跡発掘」伊那296号

武田彦左衛門「長野県下伊那郡河野村大矢沢須恵器窯跡の発掘調査」信濃Ⅲ5の3

3) 昭和 27 年度

49 百瀬遺跡

所在地 松本市寿 1349

調査期日 昭和 27 年 5 月 3 日～5 月 17 日

主催者 信州大学 鈴木誠 担当者 藤沢宗平

調査概要 中世、鎌倉、室町期に比定される 2 ヶの竪穴建造址を発掘した。一つの建造址は四隅に柱穴をもち、 $1.6 \times 2.0 m$ の長方形をなし、地表面下 $1.4 m$ の床面から元豊通宝、鉄釘、小鉄板片を発見した。

文献 藤沢宗平「長野県松本市百瀬遺跡」日本考古学年報 5

50 与助尾根遺跡

所在地 茅野市豊平東岳 4734 の 242、3089、3295

調査期日 昭和 27 年 6 月 1 日～6 月 20 日

主催者 茅野市 小平吉一 担当者 宮坂英式

調査概要 第 23 号址から 28 号址まで縄文中期の住居址 6 ヶを発掘した。

文献 宮坂英式「尖石」茅野町教育委員会（昭 32 年）

51 伊久間原遺跡

所在地 下伊那郡喬木村伊久間 16896

調査期日 昭和 27 年 6 月 30 日～8 月 6 日

主催者 喬木村 松葉乙弥 担当者 大沢和夫

調査概要 桑の抜根作業中住居址（第 1 号址）が発見された。方形プランで一辺 $5.2 m$ を算え、東壁に石組竈を有している。出土遺物は土師器と須恵器破片である。

文献 大沢和夫、今村善興「長野県下伊那郡喬木村伊久間原住居址」信濃Ⅲ 4 の 12

52 樋沢遺跡

所在地 岡谷市樋沢 10174

調査期日 昭和 27 年 8 月 1 日～8 月 2 日

主催者 諏訪考古学研究所 担当者 藤森栄一

文献 戸沢充則「樋沢押型文遺跡」石器時代 2

53 九兵衛尾根遺跡

所在地 諏訪郡富士見町落合九兵衛尾根 4084

調査期日 昭和 27 年 8 月 10 日～8 月 12 日

主催者 富士見町 埴松弥 担当者 宮坂英式

調査概要 縄文中期前半に位置する住居址 2 ヶを調査した。

文献 宮坂英式「長野県諏訪郡九兵衛尾根遺跡」日本考古学年報 5、
宮坂英式「烏帽子・九兵衛尾根遺跡」井戸尻所収（昭 40 年）

54 三ツ塚古墳

所在地 上伊那郡宮田村南割駒ヶ原 4324、4303の2～3

調査期日 昭和27年8月15日～8月20日

主催者 宮田村 担当者 大場磐雄

調査概要 東塚、中塚、西塚と三基あり、いずれも円墳である。東塚は径13、高さ2.4mで特別な内部構造は認められなく、地下30cmで須恵器甕を発見したのみである。(昭和18年時に直刀と管玉2点が発見されている)中塚は発掘前から墳丘の大部分が崩されており、調査の結果、何も存しなかった。西塚においてはこれも石室の発見はなかったが墳頂下1mあたりから鉄鏃、鹿角装刀子、人骨が発見された。

文献 友野良一「長野県上伊那郡宮田三ツ塚古墳発掘概報」伊那329号

55 新開古窯

所在地 小県郡丸子町依田岳堂新原田、新開2481

調査期日 昭和27年9月19日～9月23日

主催者 上田市 宮下三男 担当者 八幡一郎、吉田章一郎

文献 吉田章一郎、倉田芳郎、五十嵐幹雄「長野県小県郡依田村における窯址の調査」信濃Ⅲ6の2

56 深町遺跡

所在地 小県郡丸子町依田生田深町3350

調査期日 昭和27年9月19日～9月23日

主催者 上田市 宮下三男 担当者 八幡一郎、吉田章一郎

57 茶白山遺跡

所在地 諏訪市上諏訪茶白山

調査期日 昭和27年10月1日～12月5日

主催者 諏訪考古学研究所 担当者 藤森栄一

調査概要 住宅建設のための敷地工事中、黒曜石を主原料とする約800点の石器、石片が発見された。遺構としてはローム上面から15～25cmの深さに上縁を持つように落ちこんでいる2ヶ所の炉址状遺構を発見した。なお石器について、その主体となるものは刃器であり、局部磨製石器も1点出土している。

文献 藤森栄一、戸沢充則「茶白山石器文化」考古学集刊4.

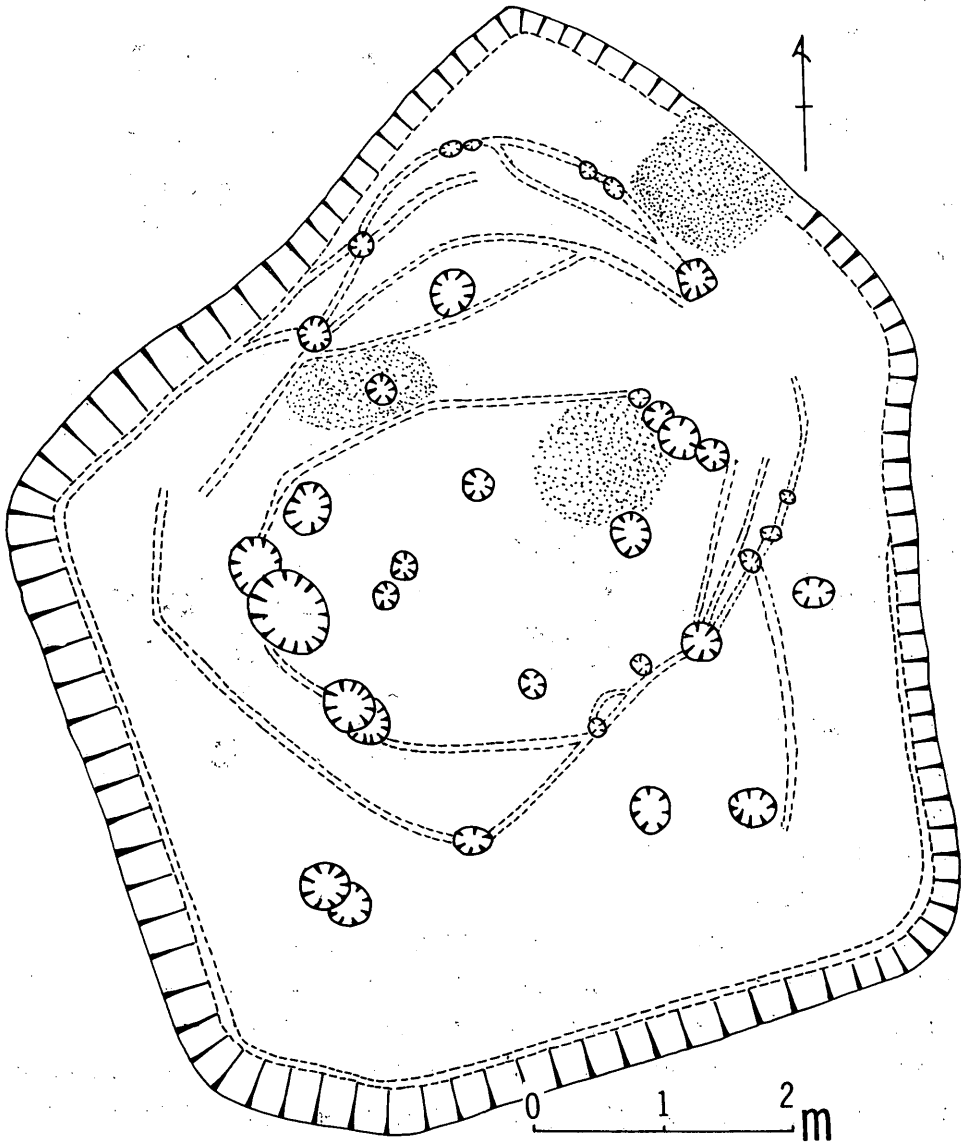
58 上の段遺跡

所在地 茅野市北山湯川上の段1063

調査期日 昭和27年10月19日～10月25日

主催者 諏訪考古学研究所 担当者 藤森栄一

調査概要 トレンチ2本を設定、発掘したが、中心部をはずれていたため住居址等の遺構は発見できなかった。遺物は縄文後期から晩期前半にかけての土器破片30点ほどである。



第 5 図 神の木遺跡出土土器

59 松井遺跡

所在地 南佐久郡八千穂村畑八八郡八ヶ岳下 2049

調査期日 昭和 27 年 10 月 25 日～10 月 30 日

主催者 八千穂村 担当者 八幡一郎

文献 畑八公民館「長野県南佐久郡畑八村中松井遺跡発掘概報」

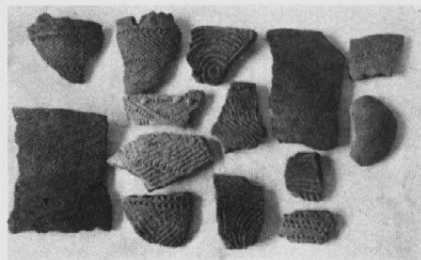
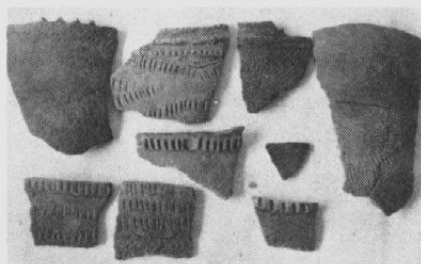
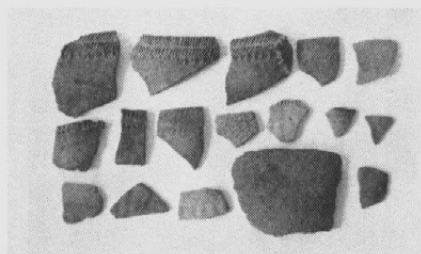
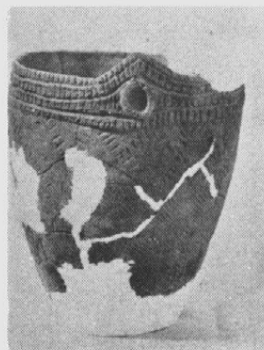
60 上田療養所遺跡

所在地 上田市常
盤城弁慶

調査期日 昭和27年
11月1日～11月
3日

主催者 上田市水
野鼎蔵 担当者
五十嵐幹雄

文献 五十嵐幹
雄「獸角、骨を出
した長野県上田市
北上田遺跡」信濃
Ⅲ 9の11



61 神の木遺跡

所在地 茅野市北
山芹が沢

調査期日 昭和27年
11月8日～12月
30日

主催者 茅野市小
口清志 担当者 宮坂英式

第6図 神の木遺跡出土土器

調査概要 不正五角形状の竪穴住居址で、この竪穴は埋れた後、再度利用されたい。壁外に周溝があり、北壁には無い。竪穴内にも溝が、ほぼ3重認められる。このことから4回は拡張、利用されたものだろう。床面上の施設として柱穴は23ヶ、地床炉2ヶを算える。

遺物について、土器には上層からは含繊維厚手の第1群土器、下層からは無繊維薄手の第2群土器とがあり、第1群土器には無文の深鉢と有文の甕、深鉢とがあり、文様には菱形縄文、綾紐縄文、羽状縄文、異方向縄文、斜縄文等があり、この他に器上半にボタン状突起、竹管による直曲線を付したものもある。底部は尖底に近い小さい上底、平底をとる。第2群土器はいわゆる神の木式土器で、尖底と平底とがある。

文様は爪形文と条痕文を組合せたもの、縄文、櫛状器具による施文、細線指痕文がある。石器は打製石斧、石鏃、石槍、石錐、石匙、石刃、玦状耳飾りがあり、石鏃(94点)、石匙(17点)が多い。土製品としては径2.5、内径1.2、厚さ2cmの土製飾輪がある。

62 東原遺跡

所在地 飯山市岡山照岡東原

調査期日 昭和27年11月8日～11月11日

主催者 飯山市 小田切茂夫 担当者 神田五六

調査概要 縄文中期末の土器から後期の加曾利B式にかけての土器が出土した。石器の検出はなかった。配石状の遺構が存したが全貌を明らかにすることはできなかった。

63 上原遺跡

所在地 大町市平上原

調査期日 昭和27年11月11日～11月23日

主催者 大町市 担当者 大場磐雄

調査概要 上原遺跡第三次調査で特に環状石籬周辺に存在を予想された附属遺構の調査に重点がおかれた。この結果、12ヶを算える円形積石やピット4を発見した。

文献 大場磐雄、永峯光一、樋口昇一他「長野県北安曇郡平村上原遺跡第三次調査概報」信濃Ⅲ5の3、4

上原遺跡調査会「上原（長野県埋蔵文化財発掘調査報告書2）」（昭32年）

64 有尾遺跡

所在地 飯山市飯山有尾3560、3561

調査期日 昭和27年11月15日～11月22日

主催者 飯山市 田中修一 担当者 神田五六

調査概要 縄文前期、黒浜式比定の土器を出土する住居址1ヶが調査されている。竪穴のプランは円形で径7.5mを計る。

文献 神田五六「長野県下水内郡飯山町有尾遺跡発掘概報」信濃Ⅲ5の8

65 須釜原遺跡

所在地 南佐久郡浅科村蓬田1251

調査期日 昭和27年11月20日～11月21日

主催者 南牧村 宮沢太郎 担当者 池田寛二

66 立沢遺跡

所在地 諏訪郡富士見町本郷立沢547の1

調査期日 昭和27年11月20日～28年6月30日

主催者 富士見町 有賀愷友 担当者 宮坂英式

調査概要 重複し合っている4ヶの縄文中期竪穴を調査した。

文献 宮坂英式「長野県諏訪郡本郷村立沢遺跡発掘調査報告」信濃Ⅲ6の5

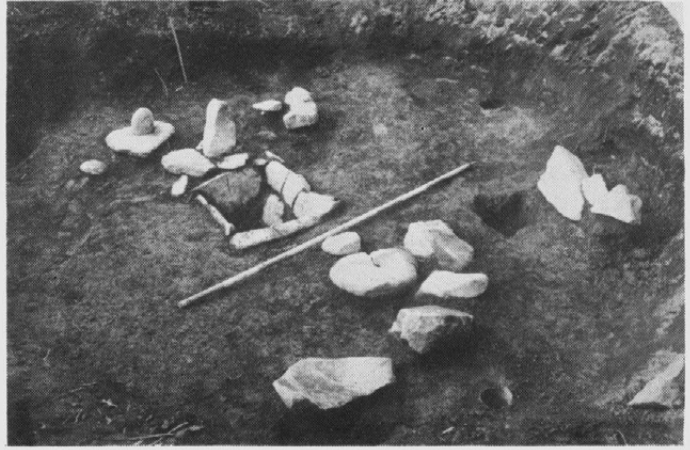
67 大桜遺跡

所在地 茅野市米沢北大
塩 5111

調査期日 昭和27年11月
20日～28年5月31日

主催者 茅野市 宮坂英式
担当者 宮坂英式

調査概要 縄文中期の集落
址で、2本トレンチを設
定したが、中心部にあた
らず、住居址等の発見は
なかった。出土土器には
完形品なく、すべて破片
のみであった。



第7図 広原遺跡住居址

68 広原遺跡

所在地 諏訪郡富士見町富士見休戸 5194

調査期日 昭和27年11月20日～28年12月30日

主催者 富士見町 伊東喜由 担当者 宮坂英式

調査概要 縄文中期末葉に位置する第1号住居址と第2号住居址を調査した。第2住居址は3号
址と一部重複している。なお3号址は耕作の関係で未調査に終わった。

文献 宮坂英式「長野県諏訪郡無坊塚遺跡」日本考古学年報5
宮坂虎次「休戸・広原遺跡」井戸尻所収(昭40年)

69 むじな沢遺跡

所在地 諏訪郡富士見町本郷立沢むじな 2811の2

調査期日 昭和27年11月20日～28年6月30日

主催者 富士見町 有賀徳良 担当者 宮坂英式

調査概要 縄文中期の遺跡であって、調査の結果、住居址等の遺構は発見できなかった。出土し
た土器は勝坂式に比定できる豪華なものである。

70 上の平遺跡

所在地 茅野市米沢塩沢 7573

調査期日 昭和27年11月20日～28年5月30日

主催者 茅野市 宮坂英式 担当者 宮坂英式

調査概要 縄文中期後半の加曾利E期に属する遺跡で、竪穴住居址が2ヶ発見されている。

71 中沢遺跡

所在地 木曾郡開田村末川中沢

調査期日 昭和27年12月6日～12月7日

主催者 木曾教育会 担当者 藤沢宗平

調査概要 径1.7、深さ0.3mほどのピット2ヶを発見、各々に拳大の石が多量につまっていた。
また木炭、焼土が発見され、1ヶのピットには底部に一枚の平板石が焼けて5片になっていた。
土器は縄文前期の諸磯A・B式、北白川下層式が発見されている。

文献 藤沢宗平「長野県西筑摩郡中沢遺跡」日本考古学年報5

72 上の平遺跡

所在地 下伊那郡天竜村神原上の平3949

調査期日 昭和27年12月6日～28年6月30日

主催者 天竜村神原公民館 担当者 宮坂英式

調査概要 縄文後期から晩期にかけての遺跡で遺構の発見はなかった。

73 高見原遺跡

所在地 駒ヶ根市中沢中割4159

調査期日 昭和28年3月12日～4月9日

主催者 林茂樹 担当者 藤沢宗平

調査概要 南北5.35、東西4.74mの不整楕円形プランの竪穴住居址1ヶを調査した。床面上の施設としては、中央北寄りに、石囲炉があり、北西隅と南東隅に大ピットが穿たれている。柱穴は9ヶ発見された。出土土器は中期初頭、型式、石器は量多く、打製石斧20、磨製石斧4、乳棒状磨製石斧1、石匙1、石錘12、石鏃3、石棒2、凹石5、石皿1が出土している。

文献 林茂樹「長野県駒ヶ根市中沢地区高見原遺跡調査概報」信濃Ⅲ7の12

74 丸山遺跡

所在地 上伊那郡辰野町上辰野丸山

調査期日 昭和28年3月26日～3月28日

主催者 担当者 藤森栄一、戸沢充則、赤羽篤

調査概要 土木工事で破壊された遺跡で、工事が急ピッチに進行したため、完全な調査はできなかった。わづかに縄文前期諸磯式土器片多量に、早期諸型式、北白川下層式、加曾利E式等の諸型式土器片若干、および打製石斧、磨製石斧、石鏃、石匙、石錘、石皿、石棒、石錐等を収容し得たにすぎない。

文献 藤森栄一「長野県上伊那郡丸山遺跡」日本考古学年報6

75 塚原遺跡

所在地 松本市笹賀神戸

調査期日 昭和28年3月28日～3月29日

主催者 信州大学 鈴木誠 担当者 藤沢宗平

調査概要 一辺3.3mを計る方形の平安期竪穴住居址と柱穴址が調査されている。出土土器は土師器、須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器である。

文献 藤沢宗平「長野県松本市笹賀地区神戸塚原遺跡調査概報」信濃Ⅲ7の7

4) 昭和 28 年度

76 中原遺跡

所在地 小県郡東部町和 2704

調査期日 昭和 28 年 4 月 14 日～4 月 16 日

主催者 上田市 五十嵐幹雄 担当者 五十嵐幹雄

調査概要 鉄平石を用いた敷石住居址が発見された。

炉は鉄平石を用いて方形につくり、炉中には炭、灰が多量に認められた。出土した土器は完形品全くなく、破片であった。縄文中期の加曾利 E 式が主体であり、後期の加曾利 B 式土器片もわずか存在した。石器では打製石斧が多く、短冊形が大部分だった。

文献 五十嵐幹雄「石器文化時代の和村」和村誌歴史編所収（昭 34 年）

77 顔戸遺跡

所在地 飯山市外様顔戸

調査期日 昭和 28 年 4 月 20 日～4 月 27 日

主催者 飯山北高校 担当者 神田五六

調査概要 住居址の床面が既に攪乱されていたので、全面発掘は断念した。炉址は発見されたが住居址の全貌は不明である。遺物は縄文中期加曾利 E 式土器が出土しているが量は少なかった。

文献 小湊渥美「下水内郡外様村顔戸遺跡発掘調査報告」飯山北高校郷土研究会会報

78 尾崎遺跡

所在地 飯山市外様尾崎

調査期日 昭和 28 年 4 月 20 日～4 月 27 日

主催者 飯山北高校 担当者 神田五六

調査概要 東長峯 11 号址と命名されたもので、長径 5.4 cm、短径 3.6 m の規模をもつ。壁は西側のみ残り、床面上には中央に円形の地床炉が設けられ、それを囲んで 4 ヶの主柱穴が穿たれ、中には平石が据えられている。出土した土器は弥生後期の箱清水 I 式である。

文献 桐原健「北信濃長峯丘陵における弥生式遺跡」考古学雑誌 45 の 1

79 松井遺跡

所在地 南佐久郡八千穂村畑八八郡 2049

調査期日 昭和 28 年 5 月 6 日～5 月 10 日

主催者 八千穂村 担当者 八幡一郎

80 加増遺跡

所在地 小諸市北大井加増浦屋敷 99

調査期日 昭和 28 年 5 月 8 日～5 月 10 日

主催者 北佐久郡誌編纂会 担当者 八幡一郎

調査概要 敷石住居址 2 ヶが発見された。1 号住居址では、南北 4.2 m、東西 4.2 m の範囲に鉄

平石が敷きつめられ、東南隅に炉、東北隅に貯蔵用と思われるピット、西南に入口施設と考えられる敷石の張り出しがある。柱穴は5ヶ発見された。敷石の間より凹石6、敲石1ヶが検出された。ロ号住居址は径4.2mで、中央に6ヶの炉縁石を持つ炉があり、その内底に口縁を欠く土器が伏せてあった。共に縄文後期堀の内式土器が出土しているが、ロ号址には油壺状の完形土器が存在した。

なお上層からは中世の火葬墓が6基あり、うち1基は石を箱状に寄せて、その中に人骨があった。すべての火葬墓から宋銭が数枚ずつ発見されていて、時期は鎌倉時代に求められる。

文 献 与良清「北佐久郡の原始古代」北佐久郡誌二巻所収（昭31年）

81 次郎淵遺跡

所在地 小県郡東部町和次郎淵 263

調査期日 昭和28年5月14日～5月18日

主催者 上田市 神田乾 担当者 五十嵐幹雄

文 献 五十嵐幹雄「石器文化時代の和村」和村誌歴史編所収（昭34年）

82 込山廃寺址

所在地 埴科郡坂城町込山 6234、6235

調査期日 昭和28年6月2日～6月8日

主催者 坂城町 鈴木甚四郎 担当者 米山一政

調査概要 坂城町小学校の校庭拡張工事に際して礎石列が二列発見された。残存していた礎石は東列で4ヶ、西列で3ヶである。出土遺物は無かったが、坂城廃寺址に関係する堂宇の一つと推察される。

83 林里遺跡

所在地 下伊那郡豊丘村林里 3659

調査期日 昭和28年7月20日～8月20日

主催者 旧神稲村公民館 担当者 市村威人

調査概要 壺棺と石積群が調査されている。壺棺は遠賀川式壺形土器胴部の一部と頸部を欠く土器の上に采痕文土器の大破片をかぶせ更に30cm大の花崗岩磔をのせてあった。

文 献 神林透「豊丘村林里遺跡」長野県考古学会誌4

84 上の平遺跡

所在地 諏訪市上諏訪上の平

調査期日 昭和28年7月21日～7月31日

主催者 明大考古学研究室 担当者 杉原荘介

調査概要 ローム層の上面より50cmまで遺物が発見されている。黒曜石製のボイレト40、ナイフブレイド20、サイドスクレーパー30、エンドスクレーパー6、コンケイブスクレーパー5、ハンドドリル5点が発見された。

文 献 杉原荘介「長野県諏訪市上の平遺跡」日本考古学年報6

85 新道遺跡

所在地 諏訪郡富士見町境新道9505の1

調査期日 昭和28年8月30日
～9月10日

主催者 諏訪考古学研究所
担当者 藤森栄一

調査概要 2ヶの縄文中期竪穴が発掘された。1号址は径5mほどの円形プランで、内側に重複する2号竪穴によって中心部が切りとられている。



第8図 新道遺跡出土土器

この竪穴は火災によって廃滅したもので中期前半の一セットを構成する5ヶの土器及び3点の乳棒状石斧をはじめとする石器の良好なセットが発見された。

文献 藤森栄一「長野県諏訪郡新道遺跡」日本考古学年報6

戸沢充則「高森・新道遺跡」井戸尻所収(昭和40年)

86 ヨシガタ遺跡

所在地 下伊那郡高森町吉田943

調査期日 昭和28年9月5日～9月12日

主催者 飯田市 市村威人 担当者 市村威人

調査概要 リンゴ園で施肥のため溝を掘ったところ、多量の土師器が出土したので施肥用の溝を拡張して調査を行ったが、遺構は発見されなかった。

文献 市村威人「下伊那志3」

87 堀岡遺跡

所在地 上伊那郡小布施町都住中松

調査期日 昭和28年11月5日～11月8日

主催者 上高井教育会 担当者 永峯光一

調査概要 隅丸方形をなす竪穴住居址で6.35×5.7mを計る規模のもので、北壁中央に石組竈が設けられている。出土した土師器は和泉Ⅱ式に比定できる一セットと須恵器の破片1点である。

文献 永峯光一「長野県上高井郡小布施町中条堀岡古墳時代住居址調査報告」信濃Ⅲ7の3

88 馬場平遺跡

所在地 南佐久郡川上村御所平

調査期日 昭和28年11月10日～11月20日

主催者 東京都 芹沢長介 担当者 芹沢長介

調査概要 第1トレンチは遺物ほとんどなし、第2トレンチはローム層中10～15cmからポイント数点出土、第3、第4トレンチは成績不良、第5トレンチは良好で、ローム層中20～30cmあたりからポイント多く出土、これと共に加工礫を中心とした礫群を発見した。

文 献 芹沢長介「長野県馬場平遺跡略報」石器時代1

89 梨木平遺跡

所在地 南佐久郡南牧村野辺山梨木平

調査期日 昭和28年11月10日～11月20日

主催者 東京都 芹沢長介 担当者 芹沢長介

調査概要 地表にほとんど遺物の散布が認められないためピットを3ヶ所あけた。東と中央のピットからは、多数の石屑とポイントを発掘した。遺物はいずれもローム層中10～50cmの深さから出土し、プライマリの状態を示すものと思われた。発掘した遺物はポイントを主とし、これにスクレーパーを伴う。石質は黒曜石あるいは安山岩である。

文 献 麻生優「信濃・中ツ原の無土器文化」石器時代2

90 大深山遺跡

所在地 南佐久郡川上村大深山西原944の1

調査期日 昭和28年11月20日～11月25日

主催者 川上村 由井正衛 担当者 八幡一郎

調査概要 林道開鑿中、縄文中期の竪穴に伴う炉址2ヶを発見した。1号址の炉はコの字形の石囲炉で、炉中に完全な甕が埋められてあり、2号址の炉は5枚の板石をもって矩形箱状に組んであった。

91 藤内遺跡

所在地 諏訪郡富士見町落合藤内3722の23

調査期日 昭和28年11月10日～11月20日

主催者 茅野市 宮坂英式 担当者 宮坂英式

調査概要 縄文中期中葉時の住居址2ヶが調査された。

文 献 宮坂英式「長野県諏訪郡藤内遺跡(第一次)」日本考古学年報6

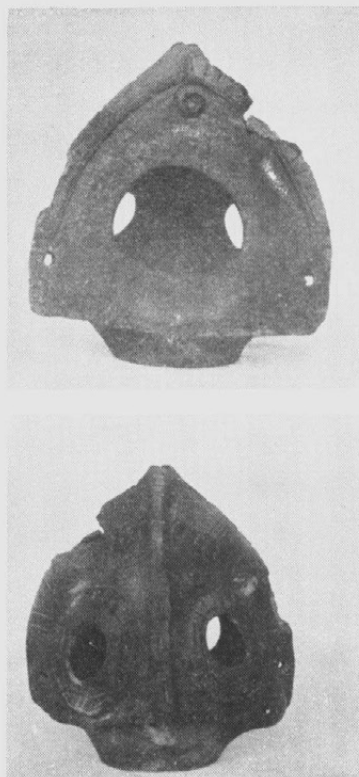
宮坂英式、武藤雄六、小平辰夫「烏帽子・藤内遺跡」井戸尻所収(昭40年)

92 藤内遺跡

所在地 諏訪郡富士見町落合藤内

調査期日 昭和29年3月19日～3月28日

主催者 茅野市 宮坂英式 担当者 宮坂英式



第9図 大深山遺跡出土香炉形石器
上・・・正面 下・・・裏面

文 献 宮坂英式「長野県諏訪郡藤内遺跡（第二次）」 日本考古学年報7

93 荊谷原遺跡

所在地 上伊那郡中川村片桐荊谷原 7004

調査期日 昭和29年3月26日～3月27日

主催者 旧片桐村公民館 担当者 藤沢宗平

調査概要 ほぼ中央に石組炉をもつ竪穴とV字溝が発見された遺跡である。出土した土器では弥生中期初頭にくる条痕文系土器片が主体を占めていた。

文 献 藤沢宗平「南信荊谷原遺跡出土の遺物について」 上代文化25

94 東馬古窯

所在地 上田市塩田町東塩田古安曾

調査期日 昭和29年3月27日～3月31日

主催者 上田市 五十嵐幹雄 担当者 五十嵐幹雄

調査概要 本窯址は江戸時代末から明治初年にかけて、林東馬氏が陶工を招来させて営んだ窯址で、東面した約20度の傾斜面を利用した登り窯である。焚口より煙道部まで6段あり、第一段は練瓦の小口積みであるが、第二段以上は一辺35cm内外の粘土のブロックの二段積みである。窯址内にあった遺物は甕のみで、口径33、高さ35cm内外の厚手の素焼のものであった。

95 杉久保遺跡

所在地 上水内郡信濃町信濃尻野尻湖

調査期日 昭和29年3月28日

主催者 東京都 芹沢長介 担当者 芹沢長介

調査概要 野尻湖底の北岸、杉久保地籍にボーリングを3ヶ所ほど試みたが包含層は全く見られず発掘を中止した。

5) 昭和 29 年度

96 穴場遺跡

所在地 諏訪市岡村穴場 6297

調査期日 昭和 29 年 4 月 5 日～4 月 7 日

主催者 諏訪考古学研究所 担当者 藤森栄一

調査概要 遺構の発見はなく、出土した縄文中期土器も全く毀れはてた再堆積であった。

文献 藤森栄一「長野県諏訪市穴場遺跡」日本考古学年報 6

97 神郷遺跡

所在地 上水内郡豊野町神郷

調査期日 昭和 29 年 4 月 10 日

主催者 豊野町 倉石義次 担当者 神田五六

98 五束遺跡

所在地 飯山市太田豊田 3886

調査期日 昭和 29 年 4 月 24 日～4 月 25 日

主催者 飯山市 江沢雄孝 担当者 神田五六

調査概要 土師期の住居址 1ヶを発見したが、ホップの支柱などにより破壊が著しく、プラン、規模等を明らかにしえなかった。

99 明科廃寺址

所在地 東筑摩郡明科町中川手石堂 3772 の 2

調査期日 昭和 29 年 6 月 23 日～6 月 30 日

主催者 中川手公民館 担当者 一志茂樹、原嘉藤

調査概要 礎石、基壇の発見はできなかったが、相当なひろがりをもつ礎敷部が存在し、同上から古瓦が多く出土した。古瓦には白鳳期・奈良期、平安期にわたる三様式のあることが指摘されている。又、この附近から瓦塔の破片が発見されている。

文献 原嘉藤「長野県東筑摩郡明科町明科廃寺址について」信濃Ⅲ 7 の 7

100 大郷路遺跡

所在地 小県郡長門町大門小茂谷 3393

調査期日 昭和 29 年 6 月 27 日～7 月 1 日

主催者 上田市 五十嵐幹雄 担当者 五十嵐幹雄

調査概要 石組竈を有する住居址 1ヶが発見されている。出土した遺物は須恵器、土師器、鉄鏃で、この他、トレンチ内からは縄文早期の押型文土器と前期の繊維土器が発見されている。

文献 五十嵐幹雄「長野県小県郡大郷路遺跡」日本考古年報 7

101 稲葉遺跡

所在地 長野市松代町西条稲葉 1775 の 14

調査期日 昭和29年8月5

日～8月10日

主催者 西条小学校

担当者 米山一政

永峯光一

調査概要 高処に発見された遺跡で2ケの灰釉陶器を出土した平安期住居址が調査されている。また、トレンチ内からは縄文早期、前期の土器片を比較的多量検出した。



第10図 矢出川北遺跡

文献 永峯光一、鈴木孝

志「長野県埴科郡松代町西条地区入組稲葉遺跡調査概報」信濃Ⅲ9の4

102 中の沢遺跡

所在地 南佐久郡南牧村野辺山中の沢

調査期日 昭和29年9月20日～9月30日

主催者 東京都 芹沢長介 担当者 芹沢長介

調査概要 道路工事中に発見された遺跡で縄文後期の安行Ⅱ、晩期の安行Ⅲ a、大洞B、大洞B C式土器、石鏃、石匙、土製耳飾りが出土している。

文献 芹沢長介、「長野県南佐久郡中ノ沢遺跡」日本考古学年報7

103 矢出川北遺跡

所在地 南佐久郡南牧村野辺山矢出川

調査期日 昭和29年9月20日～9月30日

主催者 東京都 芹沢長介 担当者 芹沢長介

調査概要 出土した石器の主体となるものは小形石刃と小形石核で、この他に不定形のスクレーパー、小形の片面加工のポイント、礫器等がある。

文献 芹沢長介「長野県南佐久郡矢出川遺跡」日本考古学年報7

104 池の平遺跡

所在地 北佐久郡立科町芦田八ヶ野5150の5

調査期日 昭和29年10月1日～10月10日

主催者 茅野市 守矢仁作 担当者 宮坂英式

調査概要 白樺湖北岸の中央から三角形半島が湖中に突出し、その先端に御座岩なる熔岩塊がある。この周辺より押型文土器から中世陶磁器まで各種時期にかかる遺物の出土があった。

文 献 宮坂英式「諏訪郡茅野町北山地区大門峠池の平遺跡調査概要」 信濃Ⅲ 8の9

105 三ツ屋遺跡

所在地 木曾郡三岳村三ツ屋

調査期日 昭和29年10月30日～10月31日

主催者 木曾教育会 担当者 大場磐雄

調査概要 縄文中期に属する6ヶの竪穴住居址が発掘され、うち、第2号住居址については上屋構造の復元が為された。なお2号址からは釣手土器が出土している。

文 献 大場磐雄、藤島亥治郎、藤沢宗平、樋口昇一「長野県西筑摩郡三岳村若宮遺跡調査概報」 信濃Ⅲ 9の3

106 上の平遺跡

所在地 下伊那郡天竜村郡原上の平3934

調査期日 昭和29年11月6日～11月30日

主催者 且開小学校 担当者 宮坂英式

調査概要 縄文晩期の平地式住居址1ヶを発掘した。プランは4.8×3.5mの方形をなし、床の中央やや南に径60cmの地床炉を設ける。柱穴は12ヶで、炉を中心として長軸3.5、短軸2.5mの楕円形に穿たれている。遺物は縄文晩期土器片と滑車形耳飾り破片、石鏃、打石斧、石剣、砥石、石冠が出土している。

文 献 宮坂英式「長野県下伊那郡上ノ平遺跡調査概報」 日本考古学年報7

107 八雲台古墳

所在地 上水内郡豊野町伊豆毛神社

調査期日 昭和29年11月20日～11月30日

小 催 者 豊野町 倉石義次 担当者 神田五六

調査概要 横穴式石室内蔵の円墳で、玄室のプランは三味線胴張りで左右の壁は持送り式に積んで天井を狭くしてある。玄室、羨道共に長さ3mで玄室の高さは2.1mを計る。

108 崎田原遺跡

所在地 南佐久郡八千穂村穂積崎田919

調査期日 昭和29年12月5日～12月12日

主 催 者 八千穂村教育委員会 担当者 八幡一郎

調査概要 縄文中期に属する炉址3ヶを発掘した。炉址はいずれも石囲炉で、うち1ヶは立石を有していた。

文 献 五十嵐幹雄「長野県南佐久郡穂積村崎田原遺跡調査概報」 信濃Ⅲ 7の4

109 藤内遺跡

所在地 諏訪郡富士見町落合藤内3722の22

調査期日 昭和30年3月26日～4月10日

主 催 者 岡谷東高等学校 担当者 小林正人

調査概要 おたがいに重複し合っている3、4、5号址の一群と、東方15m離れて発見された同じく重複し合っていた6、7、8号址の一群を発掘した。

文 献 宮坂英式、武藤雄六、小平辰夫「烏帽子・藤内遺跡」井戸尻所収(昭40年)

6) 昭和30年度

110 氷遺跡

所在地 小諸市柳沢 601、604、615

調査期日 昭和30年4月23日～4月26日

主催者 東京都 永峯光一 担当者 永峯光一

調査概要 規模の小さい遺跡で特別な遺構にはあたらなかったが、縄文晩期後半の良好な資料を多量に得ることができた。

文献 永峯光一「長野県小諸市氷遺跡」日本考古学年報8
永峯光一「氷遺跡の調査とその研究」石器時代9

111 池の平古墳

所在地 長野市上松池平峯

調査期日 昭和30年5月1日～5月5日

主催者 長野市 原春苗 担当者 米山一政

調査概要 円墳で、内部主体は中央に合掌式石室があり(天井石は2枚)、これと主軸を平行して左右に小規模な竪穴式石室が設けられてあった。すでに盗掘されていて、合掌式石室の中から小刀が一点出土したのみである。

112 堂の入遺跡

所在地 塩尻市筑摩地 3374

調査期日 昭和30年7月1日～11月
20日

主催者 塩尻市教育委員会

担当者 青木英夫

調査概要 縄文中期の住居址1ヶが調査された。南壁部が不明瞭だが、径5mほどの円形プランをとる。炬は中央より北寄りにあり、炬縁石はすべて抜かれている。柱穴は12ヶほどあるが、本来は6ヶで、改築の跡が明瞭に窺われる。柱穴と柱穴の間には周溝がめぐっている。



113 鼠穴遺跡

所在地 北安曇郡松川村鼠穴 4481

調査期日 昭和30年8月15日～8月25日

主催者 東京都 永峯光一 担当者 永峯光一

第11図 堂の入遺跡住居址

調査概要 火災に遭遇した円形の竪穴1ヶを発掘した。径は4.1 m、地表より床面までの深さ1.5 m。床面は固く、その上に厚さ5 cmの木炭層があった。中央に径50 cmの炉址があり、壁にそって40ヶの柱穴があり、炭化した柱材が20本も残っていた。出土した土器型式は竹管工具による平行沈線文が主体をなしており、縄文前期末葉に位置させることができる。

文 献 鈴木孝志「長野県北安曇郡松川村鼠穴字桜沢遺跡」 考古学雑誌 42の2

114 桜ヶ丘古墳

所在地 東筑摩郡本郷村浅間 265

調査期日 昭和30年8月25日～8月31日

主催者 本郷村 担当者 大場磐雄

調査概要 径およそ15 mの円墳で、内部主体は副室を有する竪穴式石室の系統に入るも、天井石はなく、石室内に木棺を安置したのち、その上面を粘土で覆うという、特殊なケースである。出土遺物としては、主室より刀、剣、鉞、銚、衝角付冑、短甲、頸鎧、副室からは天冠、剣が発見されている。

文 献 大場磐雄、金谷克己、原嘉藤「信濃浅間古墳」長野県東筑摩郡本郷村（昭41年）
大場磐雄「筑摩の金冠」 信濃Ⅲ 10の5

115 尾崎遺跡

所在地 飯山市外様東長峯

調査期日 昭和30年10月7日～10月10日

主催者 豊田村 桐原健 担当者 神田五六

調査概要 弥生後期の集落址であるが、今回の発掘においては竪穴等の遺構は検出できなかった。高坏、甕の破片が出土している。

116 崎田原遺跡

所在地 南佐久郡八千穂村穂積9の4

調査期日 昭和30年11月25日～11月27日

主催者 八千穂村教育委員会 担当者 八幡一郎

調査概要 崎田原遺跡の第二次調査で、縄文中期の竪穴1ヶを露呈した。竪穴は径7.2 mの円形プランで柱穴は6ヶ、中央やや北寄りに石囲炉、そして北壁と南壁寄りに副炉が設けられてあった。

文 献 五十嵐幹雄「長野県南佐久郡八千穂村崎田原遺跡第二次調査概報」 信濃Ⅲ 10の2

117 諏訪畑遺跡

所在地 上田市塩田町上本郷諏訪畑 81

調査期日 昭和30年12月10日～12月14日

主催者 上田市 滝沢不二 担当者 八幡一郎

調査概要 弥生後期の遺跡で、第1地点では遺構にあたらなかったが、第2地点においては住居址床面を検出し、径60 cmほどの円形プランの地床炉を発見した。この住居址は一辺4 m以上

の大形なものと考えられたが
時日の都合上完掘することは
できなかった。

118 岡屋遺跡

所在地 岡谷市岡屋除ヶ入

調査期日 昭和31年3月10日
～12月31日

主催者 岡谷市 林功郎

担当者 宮坂英式

調査概要 縄文前期諸磯C式土
器を出す堅穴1ヶ、弥生後期
土器を出す堅穴5ヶを発掘し、
後にうち二ヶにつき上屋構造
の復元を行った。

文献 宮坂英式「岡屋遺跡
第一輯」岡屋遺跡保存会（昭
33年）

伊藤正和「岡屋遺跡第二輯」
岡屋遺跡保存会（昭35年）



第12図 岡屋遺跡復元住居

7) 昭和 31 年度

119 梓木遺跡

所在地 上田市塩田町中塩田

調査期日 昭和 31 年 4 月 3 日～4 月 10 日

主催者 東京都 八幡一郎 担当者 八幡一郎

120 池の平キャンプ場遺跡

所在地 北佐久郡立科町芦田ハケ野

調査期日 昭和 31 年 5 月 1 日～10 月 31 日

主催者 茅野市 北沢与一郎 担当者 宮坂英式

調査概要 白樺湖南岸の夏期キャンプ場で使用される草原で、層序は第 1 層が 40～50 cm の黒土層、第 2 層は 5～10 cm の褐色土層でローム層に移行する。調査区域の東の部分でローム層上面とローム層深さ 20 cm にわたり尖頭器 3 点と揉錐器 3 点、石核、剥片が出上した。

文献 宮坂英式 宮坂虎次 「蓼科」 尖石考古館研究報 2 (昭和 41 年)

121 八幡林古墳

所在地 長野市上野西条山の神 1,052 の 2

調査期日 昭和 31 年 6 月 10 日

主催者 長野工業高校 担当者 松本久義

調査概要 林檎樹栽培のため、鋤平されようとしている既掘古墳を調査した。横穴式石室はすでに半壊しており側壁基盤の若干が残存するのみ。遺物の検出はなかった。

122 古屋敷遺跡

所在地 木曾郡開田村末川

調査期日 昭和 31 年 8 月 13 日～8 月 17 日

主催者 信州大学 鈴木 誠 担当者 藤沢宗平

文献 藤沢宗平 「古屋敷遺跡の発掘について」 信州ローム 1

123 渋川 I 遺跡

所在地 茅野市北山笹平 5,513 の 1

調査期日 昭和 31 年 8 月 15 日～10 月 31 日

主催者 茅野市 宮坂英式 担当者 宮坂英式

文献 宮坂英式 宮坂虎次 「渋川」 尖石考古館研究報 1

124 鰻沢古墳

所在地 長野市上野西条鰻沢

調査期日 昭和 31 年 8 月 17 日～8 月 18 日

主催者 長野工業高校 担当者 神田五六

調査概要 円墳で築造は土石混合である。横穴式石室で羨道は大部分破壊されてしまっていた。

玄室も天井石が崩壊している。出土遺物はなかった。

125 平出I号古墳

所在地 塩尻市宗賀平出

調査期間 昭和31年8月24日～8月27日

主催者 塩尻市 担当者 大場磐雄

調査概要 平出遺跡考古博物館背後の山腹に築かれている径20mほどの円墳である。発掘の結果、石室は存在せず封土中より鉄剣、鉄鏃を発見したのみであった。

文献 大場磐雄 亀井正道「長野県東筑摩郡宗賀村平出第1号古墳調査概報」信濃Ⅲ9の3

126 妙見山1.2.3号古墳

所在地 東筑摩郡本郷村浅間6,265

調査期日 昭和31年10月1日～10月7日

主催者 本郷村 担当者 大場磐雄

調査概要 1号古墳は、頂部径23m、基底部で35mを計る円墳で2基の陪塚的な小円墳(2・3号墳)を下方に置いている。ただ発掘調査の結果、内部主体としての遺構は発見されなかった。陪塚的な性格の強い2号墳は径9mの円墳で内部主体は一種の堅穴式石室とよぶべき構造で、金環、勾玉、切子玉、丸玉などの装身具、刀、刀子、鏃、馬具が出土した。3号墳は径9～12mの円墳で内部主体と認むべき遺構は全く存在しなかった。

文献 大場磐雄 金谷克巳

原 嘉藤「信濃浅間古墳」長野県東筑摩郡本郷村(昭和41年)

127 栃久保遺跡

所在地 塩尻市塩尻栃久保509

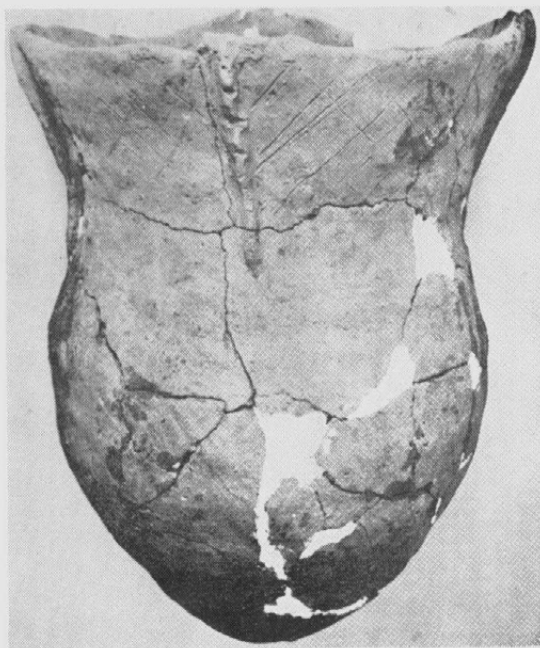
調査期日 昭和31年10月27日～10月28日

主催者 平出博物館

担当者 藤沢宗平

調査概要 径4mの円形プランをとる堅穴住居址を発掘した。炉は石組炉で、炉を中心に8ヶの柱穴がめぐっていた。遺物には縄文土器(諸磯C、中期初頭、勝坂式、加曾利E式)、石器(石鏃、打製石斧、敲石)、土偶がみられた。

文献 藤沢宗平「長野県東筑摩郡栃久保遺跡」日本考古学年報9



第13図 中越遺跡出土中越I式土器

128 中越遺跡

所在地 上伊那郡宮田村中越西原 7, 555

調査期日 昭和 31 年 11 月 2 日～11 月 6 日

主催者 宮田村、太田保 担当者 藤沢宗平

調査概要 所謂縄文早期の中越式土器を出土した住居址の発掘で、プランは円形で東西径 3.6、南北径 3.5 m、ほぼ中央に炉址が存在し、4ヶの支柱穴が発見された。

文献 藤沢宗平「中越遺跡について」伊那路 1 の 3

129 笠倉遺跡

所在地 下水内郡豊田村豊津

調査期日 昭和 31 年 11 月 10 日～11 月 17 日

主催者 飯山市 桐原 健 担当者 神田五六

文献 桐原 健 「下水内郡豊田村笠倉の弥生式遺跡」高井 6

130 月夜平遺跡

所在地 南佐久郡白田町田口青沼月夜平

調査期日 昭和 32 年 3 月 25 日～3 月 30 日

主催者 白田町公民館 担当者 竹内 恒

8) 昭和 32 年度

131 中越遺跡

所在地 上伊那郡宮田村中越 7,555

調査期日 昭和 32 年 4 月 4 日～4 月 8 日

主催者 宮田村、太田保 担当者 八幡一郎・藤沢宗平

調査概要 中越遺跡第二次調査で、第 2 号、第 4 号住居址を発掘した。第 2 号址は $4.8 \times 5.0 m$ の隅丸のつよいプランで北に偏して炉址があり、4 ケの支柱穴をもつ。

第 4 号住居址も $4.4 \times 4.1 m$ の隅丸長方形をとっている。

文献 藤沢宗平「宮田村中越西原遺跡について」伊那路 1 の 9

132 男女倉遺跡

所在地 小県郡和田村男女倉

調査期日 昭和 32 年 4 月 28 日～5 月 5 日

主催者 信州大学 鈴木 誠 担当者 藤沢宗平

文献 児玉司農武・鈴木 誠・藤沢宗平他「男女倉遺跡第 1 回発掘調査の結果について」
信州ローム 3

133 柳町遺跡

所在地 飯山市寿柳町 423

調査期日 昭和 32 年 6 月 15 日～6 月 20 日

主催者 飯山北高校 担当者 神田五六

調査概要 飯山市長峯丘陵上の遺跡において 3 ケの弥生後期土器及び古式土師器を出土する 3 ケの堅穴住居址を発掘した。プランはいずれも隅丸方形で、箱清水式土器を出土した住居址を埋めたてて、古式土師器（柳町式土器）を出土する堅穴が構営されていた。

文献 桐原 健「北信濃長峯丘陵柳町遺跡調査概報」信濃Ⅲ 9 の 12

134 西和田（国鉄長野工場）遺跡

所在地 長野市西和田 29 の 1

調査期日 昭和 32 年 6 月 20 日

主催者 長野市 長沢芳郎 担当者 長沢芳郎

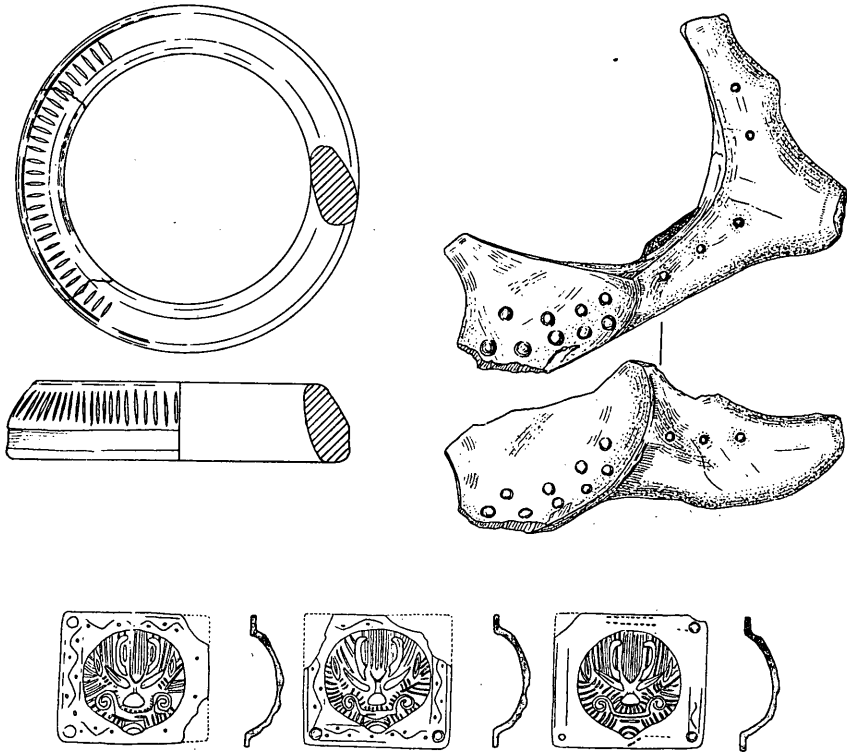
135 城の内遺跡

所在地 更埴市屋代 1,342、1,391、1,184、1,166

調査期日 昭和 32 年 7 月 25 日～8 月 20 日

主催者 旧屋代町教育委員会 担当者 木代修一・岩崎卓也

調査概要 今後数年に亘る継続調査を予定し、本年度は遺跡の概況を知ることが目的として遺跡の中心部に 2 ケ所、その西部に 1 ケ所、西端部に 1 ケ所をえらんでトレンチを設定した。



第 14 図 鎧塚 1. 2 号古墳出土遺物 (石釧・貝釧… 1 号墳出土)
 帯金具… 2 号墳出土

発見された遺構としては、土師期の住居址を 3ヶ確認した。

文 献 木代修一・岩崎卓也「城の内」(昭和 36 年)

136 鎧塚 1 号、2 号古墳

所 在 地 須坂市八丁鎧塚

調査期日 昭和 32 年 8 月 10 日～8 月 16 日

主 催 者 上高井郡誌編集会 担当者 亀井正道・永峯光一

調査概要 2 基とも積石塚で円墳である。内部主体は盗掘の厄をうけて検出できなかったが、組合せ式石棺が内蔵されていたものと推察される。1 号墳は径 23、高さ 2.5 m で、出土遺物として方格規矩四神鏡破片、碧玉製石釧破片、水字貝製釧破片、碧玉製勾玉、管玉、ガラス小玉、鉄鏃、鉄鉾が検出されている。

2 号墳は 1 号墳よりも時期の下るもので径 25 m 高さ 3.6 m で、これも内部主体は検出されなかった。出土遺物は金銅製帯金具、鉄杏葉、轡、鉄鏃、ガラス小玉等が発見された。

文 献 永峯光一・亀井正道「長野県須坂市鎧塚古墳の調査」考古学雑誌 45 の 1

137 蒲田遺跡

所在地 南安曇郡安曇村稲核

調査期日 昭和32年8月11日～8月13日

主催者 梓川高校 担当者 樋口昇一

調査概要 灰釉陶器を出土する。重複した2ヶの竪穴住居址と、縄文早期から前期、中期初頭にかけての土器片を出す遺物包含層とを発掘調査した。

文献 中島豊晴 樋口昇一「長野県南安曇郡安曇村蒲田遺跡調査概報」 信濃Ⅲ 10の3

138 管沢遺跡

所在地 木曾郡開田村西野管沢

調査期日 昭和32年8月14日～8月15日

主催者 木曾東高校 担当者 樋口昇一

調査概要 長径4.2、短径3mの小形楕円形プラン竪穴と推定径5mの円乃至楕円プランの竪穴が発掘された。完掘された1号住居址内の南壁寄りに積石が発見されたのみで、炉址は発見されず、柱穴も不規則である。出土土器は縄文前期の有尾式が主体を占めている。

文献 樋口昇一「長野県西筑摩郡開田村管沢遺跡調査概報」 信濃Ⅲ 10の7

139 南大原遺跡

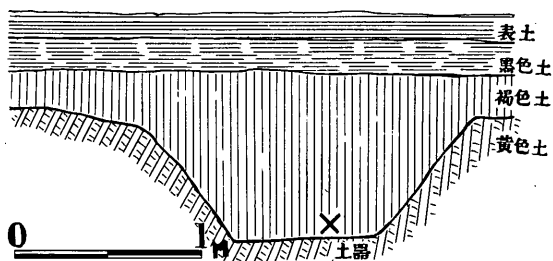
所在地 下水内郡豊田村上今井386

調査期日 昭和32年8月20日～8月26日

主催者 豊田村 神田五六

担当者 神田五六

調査概要 旧千曲川に臨む涯端に、東西方向に走る一条の溝を発見し、溝内より一点の弥生後期、箱清水式壺形土器を検出した。溝は断面台形で、上の幅は1.8、底部幅0.8、深さ0.7mで、溝中には黒色土が充満していた。



第15図 南大原遺跡V字溝実測図

文献 桐原 健「南大原遺跡のV字溝」 高井5

140 横倉遺跡

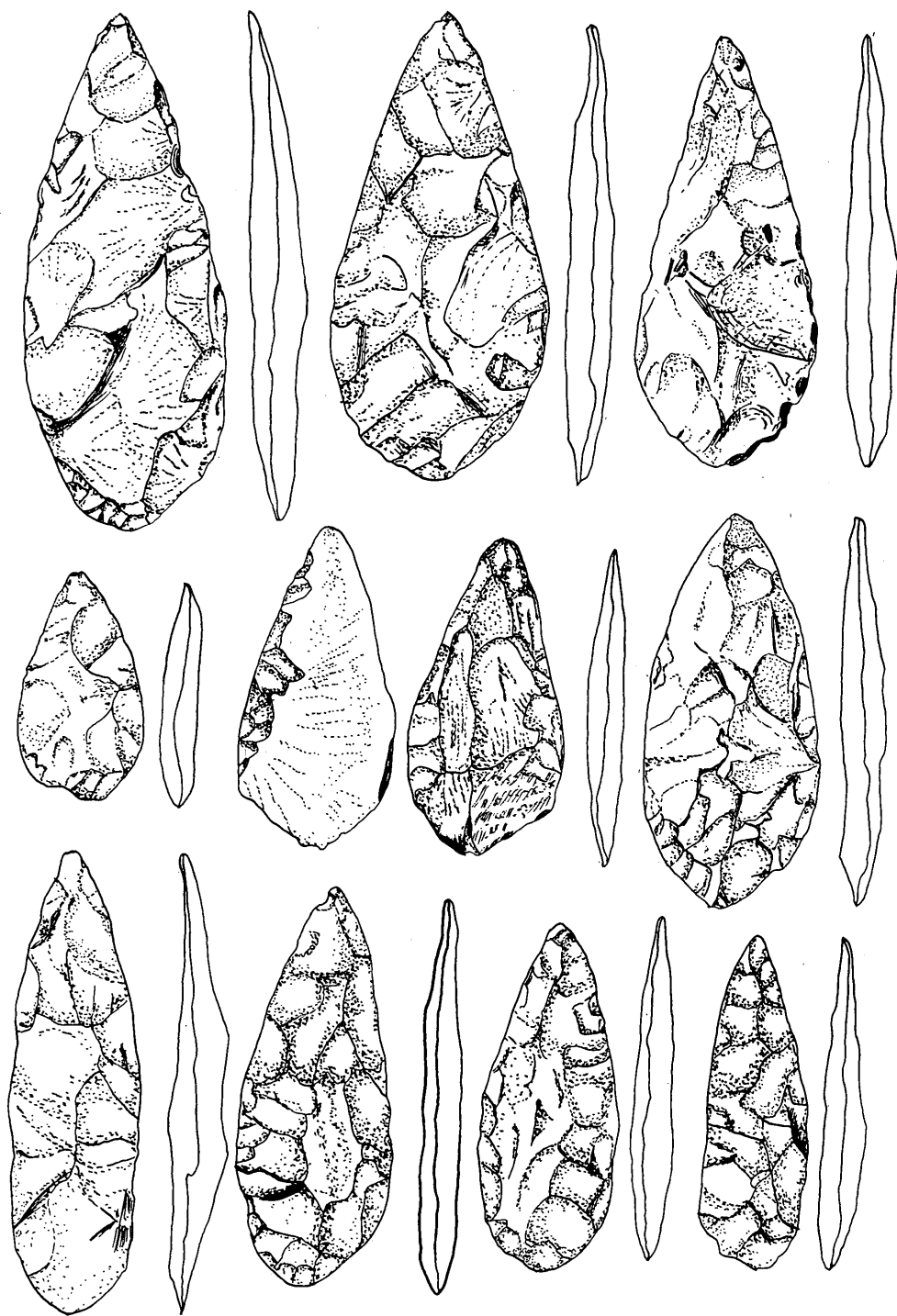
所在地 下水内郡栄村北信地藏堂231

調査期日 昭和32年10月26日～10月29日

主催者 長野市 桐原 健 担当者 神田五六

調査概要 千曲川に臨んだ段丘上のごく小範囲なところから玄武岩のポイント43点が発見されている。

文献 神田五六・永峯光一「奥信濃・横倉遺跡」 石器時代5



第 16 图 横倉遺跡出土尖頭器

141 柳町遺跡

所在地 飯山市寿柳町 423

調査期日 昭和 32 年 11 月 8 日～ 11 月 10 日

主催者 長野市 桐原 健 担当者 神田五六

調査概要 隅丸方形プランをとる弥生後期の竪穴 1 ケを発掘した。柱穴は 4 ケで、炉は地床炉で、北に偏って設けられている。箱清水式の壺、甕、鉢、高環形土器が出土している。

文献 桐原 健「北信濃長峯丘陵における弥生式遺跡」 考古学雑誌 45 の 1

142 井戸尻遺跡

所在地 諏訪郡富士見町境井戸尻 6, 618

調査期日 昭和 33 年 3 月 3 日～ 4 月 30 日

主催者 富士見町 平出勝一 担当者 宮坂英式

調査概要 縄文中期中葉の竪穴住居址 4 ケを発見した。出土遺物は完形土器 36 ケ、打製石斧 90 磨製石斧 6、石鏃 40、石錐 16、石匙 20、石皿 3 ケである。

文献 宮坂英式「長野県諏訪郡井戸尻遺跡」 日本考古学年報 11 宮坂英式「池袋・井戸尻遺跡」井戸尻所収（昭和 40 年）

143 山寺遺跡

所在地 茅野市茅野豊平 1, 842

調査期日 昭和 33 年 3 月 7 日～
10 月 31 日

主催者 茅野市 小平実人

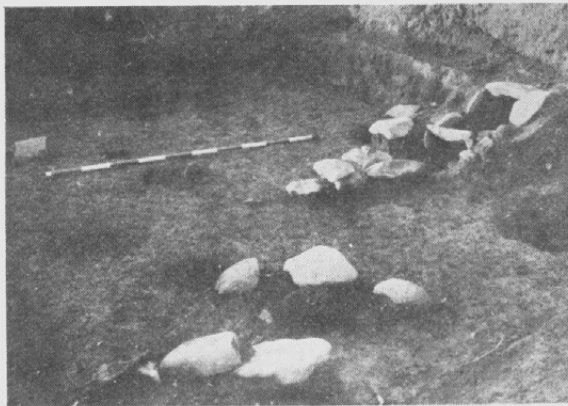
担当者 宮坂英式

調査概要 南大塩の旧郷と云われ、また往昔、相当大規模な密教系寺院のあったところである。今回の調査では 3 ケの住居址と井戸 1 ケが発掘された。住居址はいずれも長方形プランをとる竪穴で、北壁の中央に石組竈が構築されていた。遺物では土師器碗、甕、壺、須恵器碗、長首瓶、施釉陶器および滑石製品 1 点、鉄片 1 点が出土している。

文献 宮坂虎次「長野県茅野市山寺遺跡について」
信濃Ⅲ 20 の 4



第 17 図 井戸尻遺跡復元住居



第 18 図 山寺遺跡住居址

9) 昭和 33 年度

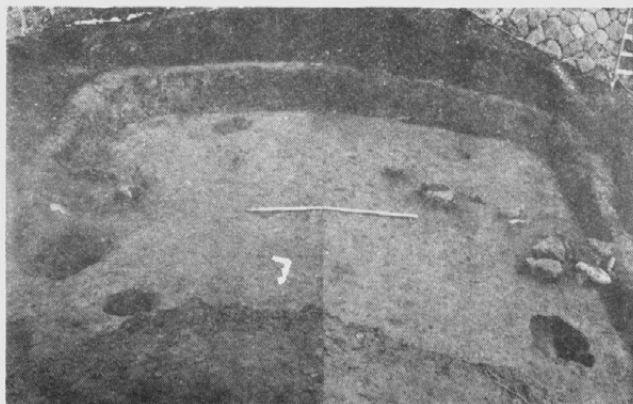
144 神宮寺下遺跡

所在地 中野市科野赤岩神宮
寺下 568

調査期日 昭和 33 年 4 月 12 日
～ 4 月 15 日

主催者 長野市 桐原 健
担当者 神田五六

調査概要 高社山麓に発見され
た土師器を出す堅穴で 7×6.3
m の規模の大きい方形プラン
をとる。北壁中央に粘土竈、



第 19 図 赤岩神宮寺下遺跡住居址

その横に貯蔵穴が設けられている。土師器は鬼高期の良好なセットを構成している。

文 献 金井汲次・桐原 健「長野県中野市赤岩神宮寺下遺跡調査概報」信濃Ⅲ 10 の 8

145 臥龍堂公園遺跡

所在地 諏訪郡原村払沢 5,980

調査期日 昭和 33 年 4 月 12 日～ 4 月 13 日

主催者 原村教育委員会 担当者 宮坂英式

調査概要 東西径 5.5、西北径 5.9 m の円形堅穴住居址で、中央からやや北寄りのところに石囲
炉がある。柱穴は 14 ケで、うち 6 ケが主柱穴と目せられる。土器は加曾利 E 式で、復元でき
たものは 4 ケである。石器は少なく凹石 1、打製石斧 2 点のみである。

文 献 宮坂英式「長野県諏訪郡臥龍堂公園遺跡」日本考古学年報 11

146 丘中学校遺跡

所在地 塩尻市広丘野村 1,302

調査期日 昭和 33 年 4 月 20 日～ 4 月 25 日

主催者 塩尻市教育委員会 担当者 藤沢宗平

調査概要 学校敷地内で土師期堅穴住居址 6 ケが調査されたが、うち、完掘され全形プランの判
明したものは第 2・第 6 の 2 住居址のみである。

文 献 藤沢宗平 原 嘉藤、他「塩尻市高出遺跡とその周辺」長野県考古学会研究報告書 1

147 男女倉遺跡

所在地 小県郡和田村男女倉 5,308

調査期日 昭和 33 年 4 月 27 日～ 5 月 5 日

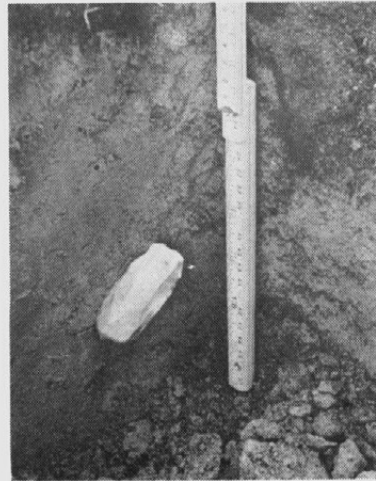
主催者 信州大学 鈴木 誠 担当者 藤沢宗平

文 献 鈴木 誠・藤沢宗平「第3回男女倉発掘日誌」信州ローム5

148 小坂遺跡

所在地 下水内郡栄村小坂1,380
調査期日 昭和33年5月20日～5月23日
主催者 豊田村 神田五六
担当者 永峯光一・神田五六
調査概要 大久保の小盆地へぬける切通しに発見された遺跡で、ローム面下10～35cmの範囲から石器が出土した。石器には黒曜石製のナイフ、搔器、頁岩による彫器がある。

文 献 高橋桂「北信濃小坂遺跡の調査」考古学雑誌48の3



第20図 小坂遺跡石器出土状態

149 城之内遺跡

所在地 更埴市屋代城之内1,343
調査期日 昭和33年7月28日～8月15日
主催者 更埴市教育委員会 担当者 岩崎卓也・木代修一
調査概要 遺跡中心部に3本のトレンチを設置し土師期の竪穴1ヶ(6号址)を完掘した他、6ヶの住居址を確認した。出土遺物は土師器、須恵器がもっとも多く、この他鉄、鎌、刀子、砥石小形勾玉、管玉が検出された。

文 献 木代修一・岩崎卓也「城之内」(昭和36年)

150 男女倉遺跡

所在地 小県郡和田村男女倉5,308
調査期日 昭和33年8月7日～8月13日
主催者 信州大学 鈴木 誠 担当者 藤沢宗平
文 献 鈴木 誠・藤沢宗平「第4回男女倉遺跡発掘日誌」信州ローム5

151 間山遺跡

所在地 中野市日野間山石動下1,532
調査期日 昭和33年9月28日～10月2日
主催者 豊田村 神田五六 担当者 神田五六
調査概要 昭和31年に青銅鏃1点の出土があり、その確認のため調査を行ったところ、灰釉陶器を出土する遺構が検出された。遺構は、緩やかなV字溝をはさんで西に二列の柱穴、東に石塊群があるというもので、その性格については不明である。遺物としては鉄製手斧1点、太形の土錘4点、それに土師器碗、灰釉陶器碗が出土している。

文 献 桐原 健「長野県中野市間山石動下遺跡調査予報」信濃Ⅲ10の12

152 西和田（国鉄長野工場）遺跡

所在地 長野市西和田 29 の 1
調査期日 昭和 33 年 10 月 10 日～
10 月 16 日
主催者 国鉄長野工場
担当者 長沢芳郎



第 21 図 間山石動下遺跡鉄製品出土状態

153 山崎遺跡

所在地 飯山市寿山崎 35
調査期日 昭和 33 年 11 月 10 日～
11 月 15 日
主催者 飯山北高校
担当者 神田五六

調査概要 弥生中期後半の土器を出す遺跡で水道管敷設工事によって破壊された。調査の結果遺構には当たらなかったが、土器破片多量を得た。

154 赤萱平 A 遺跡

所在地 長野市浅川西条赤萱平 280
調査期日 昭和 33 年 10 月 11 日～10 月 22 日
主催者 豊田村 神田五六 担当者 神田五六

調査概要 林檎園で果樹栽培の折に発見され調査のはこびとなった。遺構は検出できなかったが、縄文前期初頭から諸磯 A 式までの土器片が出土し、その中には、円底の破片もあった。石器の量は多く、打製石斧、磨製石斧、石匙、石鏃等がある。

155 仁之倉遺跡

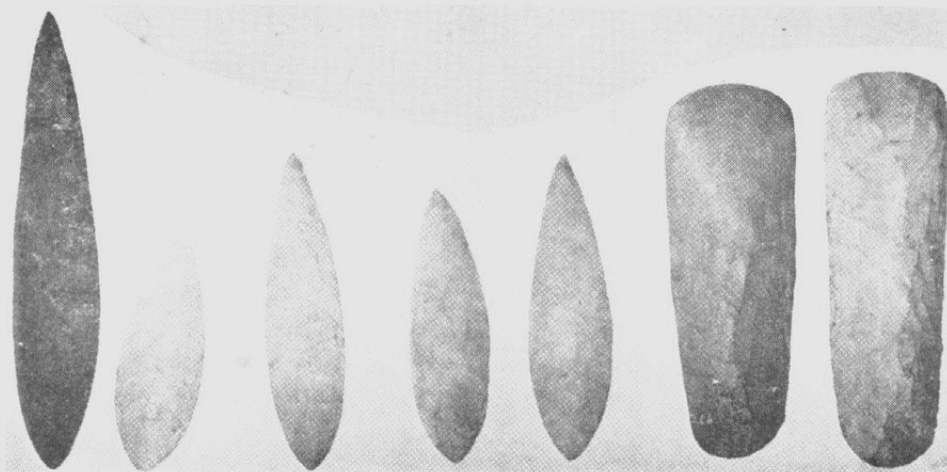
所在地 上水内郡信濃町仁之倉 508
調査期日 昭和 33 年 11 月 2 日～11 月 6 日
主催者 信濃町教育委員会 担当者 神田五六

調査概要 縄文晩期の遺跡で、発掘の結果住居址は発見されなかった。土器の型式は大洞 A が主体である。石器の出土量は僅少であった。

156 神子柴 A 遺跡

所在地 上伊那郡南箕輪村神子柴 7,888
調査期日 昭和 33 年 11 月 22 日～11 月 23 日
主催者 駒ヶ根市 林 茂樹 担当者 藤沢宗平

調査概要 A 地点第 3 層（軟質黄褐色粘土層）内 10～20 cm の層位においてポイントおよび局部磨製石斧を主体とする石器 51 点が平面形約 5×3 m の楕円状に配列されて出土した。その配置から、住居址の傾向は乏しく特殊な遺跡と考えられ、特にデポ、或いは墳墓説が提出されている。



第 22 図 神子柴遺跡出土尖頭器・丸鑿形石斧

文 献 林 茂樹「長野県上伊那郡南箕輪村神子柴遺跡発掘調査覚書」伊那路 30 の 3

藤沢宗平「神子柴遺跡発掘について」伊那路 30 の 3

藤沢宗平・林 茂樹「長野県神子柴遺跡」古代学 8 の 4

157 佐野遺跡

所在地 下高井郡山之内町佐野 3,419

調査期日 昭和 33 年 11 月 29 日～12 月 2 日

主催者 豊田村 神田五六 担当者 神田五六

調査概要 遺跡の北寄りに 29 m のトレンチを設定、

この中ほどに河原石を集めて不規則に積んだかと思われる遺構があり、木炭片、火熱をうけた
獣骨片、石鏃、縄文晩期前半の土器片多量を検出した。

文 献 永峯光一・金井汲次・田川幸生・高橋 桂「佐野」長野県考古学会研究報告書 3

158 曾根遺跡

所在地 諏訪市上諏訪大和、諏訪湖底

調査期日 昭和 34 年 1 月 20 日～1 月 30 日

主催者 藤森栄一 担当者 藤森栄一

文 献 藤森栄一「諏訪湖底曾根の調査」信濃 III 12 の 7

159 与良古墳

所在地 小諸市甲下与良 2,064 の 1

調査期日 昭和 34 年 2 月 18 日～2 月 20 日

主催者 小諸市教育委員会 担当者 岡村 節

調査概要 長径 9、短径 7、高さ 1.8 m の小円墳で横穴式石屋を内蔵している。すでに盗掘され
ていて玄室、羨道には土砂、小石が充満しており、この中から人骨 1 体と、須恵器破片数点



第 23 図 諏訪湖曾根遺跡

を検出した。

160 九兵衛尾根遺跡

所在地 諏訪郡富士見町落合むじな沢 3,804 の 1

調査期日 昭和 34 年 3 月 15 日～10 月 30 日

主催者 富士見町教育委員会 担当者 宮坂英式

調査概要 第 2 次調査で区域の西北端に縄文中期の堅穴 4 ケを発掘した。このうち 3.4.5.7 号址の炉は埋甕炉で、中期初頭の型式を有していた。

文献 宮坂英式「長野県諏訪郡九兵衛尾根遺跡」日本考古学年報 12

宮坂英式「鳥帽子・九兵衛尾根遺跡」井戸尻所収（昭和 40 年）

161 馬の瀬遺跡

所在地 木曾郡南木曾町読書 3,172

調査期日 昭和 34 年 3 月 25 日～3 月 31 日

主催者 木曾福島町 樋口昇一 担当者 樋口昇一

調査概要 不定形ピット数ヶが発見された他、住居址とみられる遺構にはあたらなかった。包含層より出土した土器は楕円押型文土器片数点と前期末から中期初頭にかけての土器片および灰釉陶器片である。遺跡の中心部は把握することは出来なかったが、所謂山地性遺跡の一つである。

10) 昭和 34 年度

162 山の神遺跡

所在地 茅野市宮川西茅野山の神 6,735

調査期日 昭和 34 年 4 月 5 日～5 月 20 日

主催者 旧宮川村誌編纂会 担当者 宮坂英式

調査概要 縄文中期の竪穴住居址 4ヶが発掘された。第 2 号址の炉址においては、炉の奥壁後に平盤な石を立て、その背後にピットが穿たれてあった。

文献 今井すみ江「長野県茅野市宮川西茅野（山ノ神・横山）遺跡概報」旧宮川村誌編纂会研究 5

163 西組洞穴遺跡

所在地 小県郡真田町菅平 1,232 の 1,186

調査期日 昭和 34 年 4 月 10 日～4 月 12 日

主催者 東京都 八幡一郎 担当者 八幡一郎

文献 上野佳也「長野県小県郡菅平遺跡」日本考古学年報 12



第 24 図 野尻湖狐久保遺跡

164 狐久保遺跡

所在地 上水内郡信濃町信濃尻狐久保 2,158

調査期日 昭和 34 年 4 月 19 日～4 月 22 日

主催者 豊田村 神田五六 担当者 神田五六

調査概要 ローム層中より、黒曜石、硅岩の剥片が 10 点ほど検出されたが明確に石器と認められるものは存在しなかった。

165 東組 D 遺跡

所在地 小県郡真田町菅平 1,223 の 79

調査期日 昭和 34 年 4 月 20 日～4 月 27 日



第 25 図 旧御射山遺跡

主 催 者 東京都 八幡一郎 担当 者 八幡一郎

文 献 上野佳也「長野県小県郡菅平遺跡」 日本考古学年報 12

166 旧御射山遺跡

所 在 地 諏訪市霧ヶ峰 7,718 の 11

調査期日 昭和 34 年 4 月 29 日～5 月 5 日

主 催 者 東京都 直良信夫 担当 者 直良信夫

調査概要 遺跡の盆地部と階段部丘陵各 1ヶ処にトレンチを入れたところ大量の土師器片が出土した。この他常滑焼、摺鉢片などの生活用具も発見され、そこで単なる宗教儀礼が行なわれたのみでなく、参籠的祭祀の性格の強いことを示していた。尚トレンチの一部に炉跡らしい火熱をうけた環状の石群が発見された。

167 池の平 D 遺跡

所 在 地 茅野市北山 3,419 の 1

調査期日 昭和 34 年 5 月 20 日～11 月 30 日

主 催 者 池の平遺跡保存会 担当 者 宮坂英式

調査概要 発掘区域は 58 m²で地層は第 1 層 50 cm の黒土層、第 2 層は 10 cm の褐色土層で基盤のローム層となる。黒土層より条痕文繊維土器及び諸磯 C 式が数点出土し、ローム層 20 cm 前後の深さよりナイフ、彫器、搔器、尖頭器等が出土した。

文 献 宮坂英式・宮坂虎次「蓼科」 (昭和 41 年)

168 棚畑遺跡

所 在 地 茅野市米沢埴原田 2,418

調査期日 昭和34年5月24日～11月30日

主催者 諏訪清陵高校 担当者 宮坂英弼

調査概要 遺構としては、径1m前後のピット3ヶとその上に重複築営されていた敷石遺構がある。3ヶのピットのうち、1号ピットの底面には径5、深さ20cmの穴が6ヶあり、3号ピットからは炭層と骨が検出された。

文 献 宮坂英弼「長野県茅野市棚畑遺跡」 日本考古学年報12

169 藤塚遺跡

所在地 茅野市玉川藤塚3,595の1

調査期日 昭和34年5月30日～11月30日

主催者 玉川中学校 担当者 宮坂英弼

調査概要 径5mの縄文中期の竪穴住居址1ヶを発掘した。中央には径1m深さ55cmの平面方形の石囲炉、四隅には柱穴が穿たれてあった。

文 献 宮坂英弼「長野県茅野市藤塚遺跡」 日本考古学年報12

170 曾根遺跡

所在地 諏訪市上諏訪大和諏訪湖底

調査期日 昭和34年6月1日～10月30日

主催者 藤森栄一 担当者 藤森栄一

文 献 藤森栄一「諏訪湖底曾根の調査」 信濃Ⅲ12の7

171 長峯遺跡

所在地 茅野市北山長峯7,962の1

調査期日 昭和34年7月22日～11月30日

主催者 茅野市 宮坂英弼 担当者 宮坂英弼

調査概要 竪穴住居址に伴なう石囲炉を確認したのみで、全てを調査することはできなかった。炉は四方を石で囲み、径0.9、深さ0.6mの大形方形で、炉北西隅に有頭石棒（高さ19、軸部径9cm）が樹立していた。この他遺物には石鏃、石皿、阿玉台式、勝坂式、加曾利E式土器片がある。

文 献 宮坂英弼「長野県茅野市長峯遺跡」 日本考古学年報12

172 山の神古窯

所在地 上水内郡豊野町石1,586

調査期日 昭和34年7月25日～7月27日

主催者 長野市 桐原 健 担当者 神田五六

調査概要 残存部長さ9.88mの竈窯で須恵器、甕、蓋、坏、高台付坏、長頸瓶、高坏、小瓶が残存していた。

文 献 岩野見司・桐原 健「長野県上水内郡豊野町山の神古窯址の調査」 長野県考古学会誌2



第26図 長峯遺跡出土遺物

173 柳又 A 遺跡

所在地 木曾郡開田村西野柳又

調査期日 昭和 34 年 7 月 26 日～8 月 1 日

主催者 木曾福島町 樋口昇一 担当者 樋口昇一

調査概要 御岳の東北麓柳又部落から西野川につくった田切り様の胸壁をめぐる道路を登りきった台地の縁辺にあり、遺跡は道路の切通しによって発見された。遺物はほぼ 2 群の内容を示していて、I 群はナイフ形石器を主体とするものであり、II 群は細石刃を主体とする。この関係は発掘所見ではより下層、上層、そして同一遺跡内における出土地点別群にも関係している。

文献 樋口昇一・森島 稔「木曾開田高原の無土器文化遺跡」信濃Ⅲ 11 の 11

174 佐野遺跡

所在地 下高井郡山の内町佐野 3,419

調査期日 昭和 34 年 8 月 1 日～8 月 7 日

主催者 山の内町教育委員会 担当者 神田五六・永峯光一

調査概要 佐野遺跡の第 2 次調査で、遺跡の中心に 2 本のトレンチを設定、この結果石囲みの炉址や埋設土器等を検出した。遺物は甚だ多く、縄文晩期前半の土器片多量と石鏃 500 点、石刀石剣、土偶、耳飾り、剣状土製品、スタンプ状土製品、土製円板が発見されている。

文献 永峯光一・金井汲次・田川幸生、高橋 桂「佐野」長野県考古学会研究報告書 3

175 五斗林遺跡

所在地 塩尻市片丘北内田五斗林 2,695・2,696

調査期日 昭和 34 年 8 月 1 日～8 月 5 日

主催者 松本市 藤沢宗平 担当者 藤沢宗平

調査概要 縄文早期から中期にかけての複合遺跡で特に押型文土器は 80 余片もの多くを出土している。押型文のうち主位をしめるのは楕円文で、第一地点 A 区において著しい。

文献 藤沢宗平・小松 虔「五斗林遺跡について」信州ローム 6

藤沢宗平「長野県松本市五斗林遺跡」日本考古学年報 12

176 吉 2・3 号古墳

所在地 長野市若槻吉、南ゴウロウ

調査期日 昭和 34 年 8 月 5 日～8 月 10 日

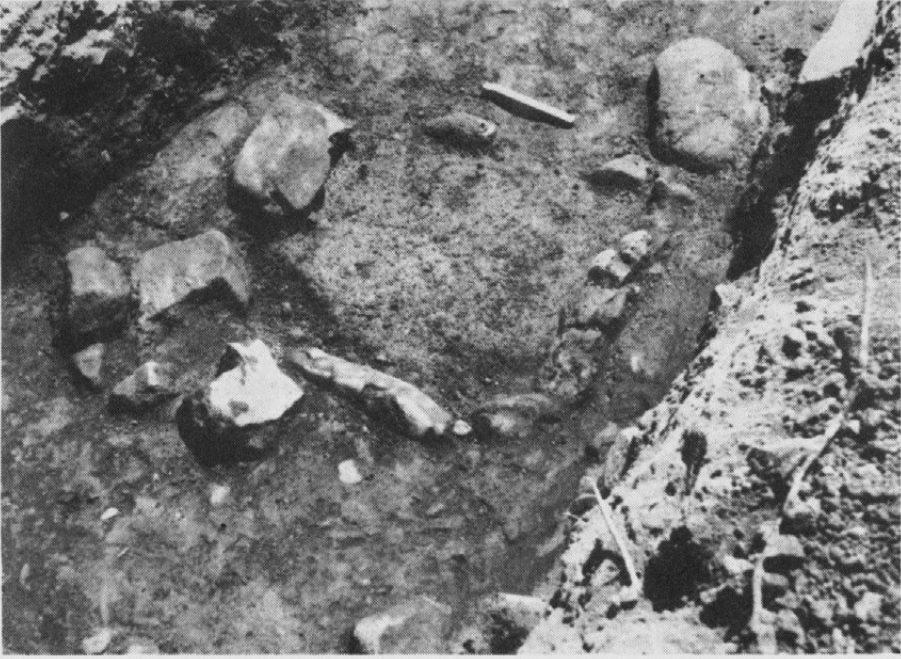
主催者 長野市 五十嵐幹雄 担当者 五十嵐幹雄

調査概要 吉古墳群のうちでも田子池上の古墳群と称されるもので五基あるうちの 2 基を調査した。2 号墳は末期的な横穴式石室墳、3 号墳も同様であるが、奥壁の鏡石に人物像が陰刻されていた。人物像は座像で手は胸のところで合掌した姿となり、頭には冠をのせている。

文献 五十嵐幹雄「長野市田子池上の古墳調査」信濃Ⅲ 17 の 4

177 吉ヶ沢遺跡

所在地 飯田市三穂立石立沢 1,123



第 27 図 佐野遺跡 (上) 炉址
(下) 埋設土器

調査期日 昭和 34 年 8 月 9 日～8 月 30 日

主催者 三穂公民館 担当者 塩沢正人

文献 大沢和夫・塩沢正人「長野県飯田市三穂吉ヶ沢遺跡」 信濃Ⅲ 17 の 12

178 城の内遺跡

所在地 更埴市屋代城の内 1,343

調査期日 昭和 34 年 8 月 10 日～8 月 30 日

主催者 更埴市教育委員会 担当者 木代修一・岩崎卓也

調査概要 5ヶの土師期住居址を完掘し更に3ヶ以上の住居址の確認をした。また祭祀跡と思われる扁平な大石を中心とし、その周辺に土製鏡、勾玉、釧、小形丸底土器、多量の炭化材を検出した遺構を露呈させた。

文献 木代修一・岩崎卓也「城の内」 (昭和 36 年)

179 棺護山古墳

所在地 松本市中山 94,301

調査期日 昭和 34 年 9 月 24 日～9 月 30 日

主催者 松本市教育委員会 担当者 下川頼人

調査概要 1号、2号墳が開成中学校建設工事により破壊されることになり調査をうけた。円墳で1号墳は径 18、高さ 1.8m、2号墳は直径 14.9、高さ 1.6mで、内部主体は共に木棺直葬であったらしい。出土遺物としては2号墳より剣5、直刀1、鉄鏃6、砥石1が発見された。

文献 桐原 健「信濃における古墳出土の鉄剣」 信濃Ⅲ 22 の 4

180 最中遺跡

所在地 木曾郡上松町小川 3,859

調査期日 昭和 34 年 10 月 10 日～10 月 15 日

主催者 木曾福島町 樋口昇一 担当者 樋口昇一

調査概要 水田中の微高地にあり、水田耕作中にたびたび遺物出土が報ぜられたので調査を行った。しかし遺構らしいものの検出は無理で、遺物として縄文後期の良好な破片 50 点などの出土にとどまった。

181 曾根古墳

所在地 飯山市常郷大明神 2,455

調査概要 昭和 34 年 10 月 25 日～10 月 30 日

主催者 太田小学校 担当者 神田五六

調査概要 古墳と考えられていたところで今回、開墾されるにつき調査した。調査前の景観はマウンドがあり、上に蓋石らしい大石がのぞいていたが、調査をしてみると石下は全くの地山で遺物の出土も見られず、結局遠い以前に築かれたヤツカであることが判明した。

182 神子柴遺跡

所在地 上伊那郡南箕輪村神子柴 7,888

調査期日 昭和34年11月14日～11月15日

主催者 駒ヶ根市 林 茂樹

担当者 藤沢宗平

調査概要 藤沢宗平・林 茂樹「神子柴第
2次発掘調査概報」 信州ローム6

183 大花遺跡

所在地 諏訪郡富士見町境滝沢6,461
7,053

調査期日 昭和35年3月15日～10月30日

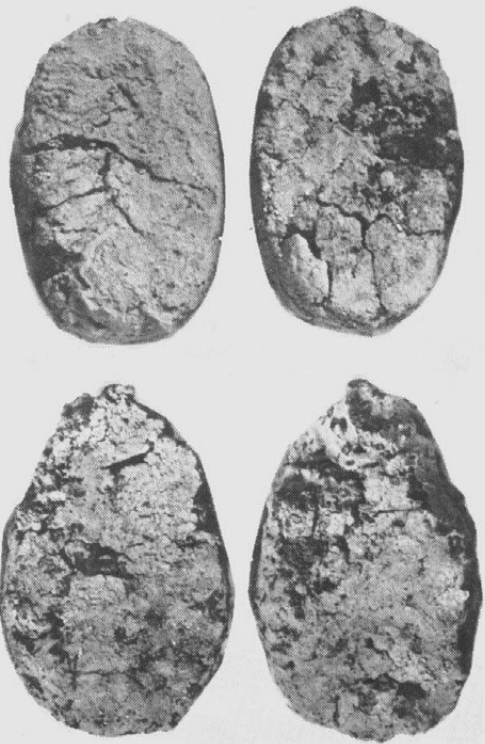
主催者 富士見町教育委員会

担当者 藤森栄一

調査概要 土製耳飾りを出した第1号住居
址の調査で、プランは長方形、大きさは
4.5×3.5mで発掘の所見では三度に互
って利用されたことが推察されている。
住居址内の層序は第1層大洞A、第2層
真福寺、第3層安行I、第4層加曾利B
1で土製耳飾りは第4層で8、第3層で
9、第2層で7(破片9)、第1層で7

(破片10)点と多量である。なおその他の土製品として土偶が各層から1点ずつ出土している。

文献 藤森栄一・武藤雄六「長野県富士見町信濃境大花第1号堅穴調査概報」 信濃Ⅲ 13
の2



第28図 曾利遺跡出土パン状炭化物

184 曾利遺跡

所在地 諏訪郡富士見町境池袋

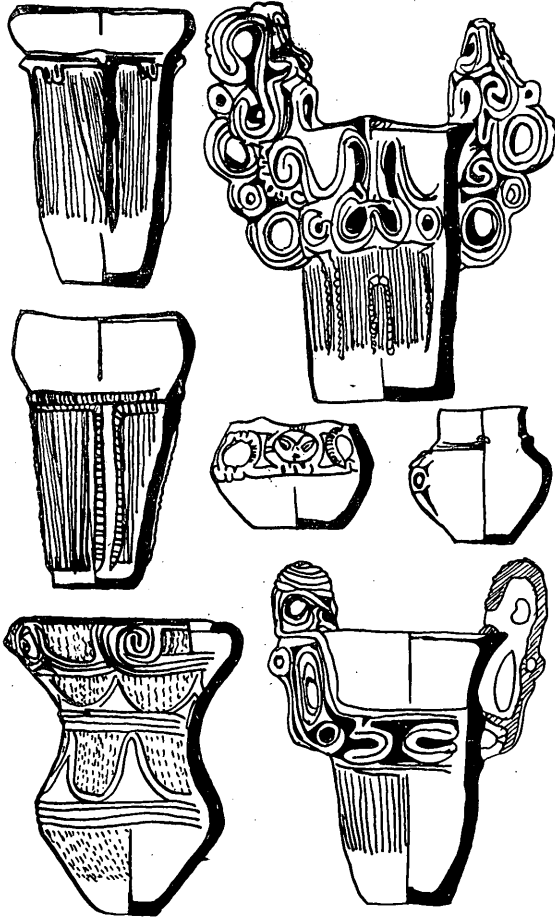
調査期日 昭和35年3月15日～3月25日

主催者 富士見町教育委員会 担当者 藤森栄一

調査概要 縄文中期の堅穴住居址11ヶを調査した。土器は堅穴の重複、切り合い関係から、曾
利I式からV式までに分類できた。

土器以外の出土品としては、5号址の炉脇において、石皿を中心に、焼けたロームの中から検
出された5ヶの食品の炭化物がある。

文献 藤森栄一・武藤雄六「信濃境曾利遺跡調査報告」 長野県考古学会誌創刊号
藤森栄一「池袋、曾利遺跡」 井戸尻所収(昭和40年)



第 29 图 曾利遺跡出土土器

11) 昭和 35 年度

185 中組 A 遺跡

所在地 小県郡真田町菅平 1223 - 2424

調査期日 昭和 35 年 4 月 20 日～4 月 27 日

主催者 東京都 八幡一郎 担当者 八幡一郎

文献 八幡一郎、上野佳也「長野県菅平東組の早期縄文式文化遺跡について」考古学雑誌
48 の 2

186 大深山遺跡

所在地 南佐久郡川上村大深山西原 944 のイ

調査期日 昭和 35 年 3 月 25 日～11 月 15 日

主催者 大深山遺跡保存会 担当者 八幡一郎

調査概要 縄文中期に属する 10ヶの竪穴住居址が調査されている。

文献 八幡一郎「長野県南佐久郡大深山遺跡調査(第一回)」信濃Ⅲ 12 の 8

187 殿村遺跡

所在地 諏訪郡下諏訪町殿村 9407

調査期日 昭和 35 年 3 月 27 日～5 月 10 日

主催者 岡谷東高校 担当者 小林正人

188 御小屋久保遺跡

所在地 茅野市北山 3418

調査期日 昭和 35 年 6 月 16 日～11 月 30 日

主催者 茅野市 篠原良一 担当者 宮坂英式

調査概要 第 1 址から石器製造址と推定される一大盤石遺構、第 2 址からは炉址と思われる石囲遺構が発見され、両者とも、それを中心にほぼ 3 m の範囲から、ナイフ、スクレーパー、ノッチ、尖頭器などの石器石片が集中出土した。

文献 宮坂英式「長野県茅野市御小屋ノ久保無土器文化遺跡の調査」考古学雑誌 46 の 3
宮坂英式「長野県茅野市北山御小屋久保遺跡」日本考古学年報 13

189 八丁原遺跡

所在地 下高井郡山ノ内町須賀川八丁原 10701 の 26

調査期日 昭和 35 年 6 月 18 日～6 月 19 日

主催者 山の内北中学校 担当者 神田五六

調査概要 高地に存在する平安期の竪穴住居址の調査で、3.5 × 4.5 m の規模をもつ不整形の竪穴 1ヶが発見された。竈は石組みで北壁中央よりやや右に位置している。出土遺物は土師器の碗、皿、甕の破片のみである。

文 献 桐原 健「長野県下高井郡 山の内町八丁原遺跡調査畧報」信濃Ⅲ 13 の 6

190 赤 塩 遺 跡

所 在 地 上水内郡三水村赤塩西原 772

調査期日 昭和 35 年 7 月 16 日～7 月 20 日

主 催 者 豊田村 神田五六 担当者 神田五六

調査概要 ローム上に幾つかのピットが検出されたが住居址の確認はできなかった。土器は縄文
中期初頭から加曽利Ⅴ式の古いところまでで、石器としては打製石斧が相当量出土した。

191 前の髪古墳

所 在 地 南安曇郡堀金村烏川 378 の 8

調査期日 昭和 35 年 7 月 23 日～8 月 2 日

主 催 者 豊科町 新田実造 担当者 原 嘉藤

調査概要 高さ 2 m の円墳で、南半部が破壊されている。内部主体は横穴式石室で、これも以然
に盗掘、破壊されてしまっている。羨道部より須恵器の高坏、蓋付盤、平瓶、皿等が発見され
ている。

192 男 女 倉 遺 跡

所 在 地 小県郡和田村男女倉

調査期日 昭和 35 年 8 月 7 日～8 月 9 日

主 催 者 信州大学 鈴木 誠 担当者 小松虔

調査概要 男女倉の第 5 次調査で、みつけ地点、第Ⅲ地点の発掘を行い、第Ⅲ地点では黒土層よ
りポイント 1、ナイフ 1、褐色土層からポイント 5、ローム層でポイント 18、スクレイパー
1、および黒曜石礫、フリイクを多数検出した。

文 献 鈴木 誠、小松虔 「長野県小県郡男女倉遺跡」日本考古学年報 13

193 治部坂峠遺跡

所 在 地 下伊那郡浪合村蛇峠 1192 の 4

調査期日 昭和 35 年 8 月 7 日～9 月 30 日

主 催 者 下伊那歴史同好会 担当者 大沢和夫

文 献 大沢和夫、松島透、宮沢恒之 「長野県治部坂遺跡」上代文化 33
大沢和夫「治部坂遺跡」伊那 8 の 10

194 城 の 内 遺 跡

所 在 地 更埴市屋代城の内 1343

調査期日 昭和 35 年 8 月 7 日～8 月 25 日

主 催 者 更埴市教育委員会 担当者 木代修一・岩崎卓也

調査概要 第 4 年次の調査で、本遺跡発見のうち規模の最も大きい 7 号住居址を完掘し、また罫
釜を伴う一括の土師器群の性格を知ることができた。

文 献 木代修一、岩崎卓也「城の内」(昭 36 年)

195 柳又 B 遺跡

所在地 木曾郡開田村西野柳又

調査期日 昭和35年8月8日～8月13日

主催者 木曾郡福島町 樋口昇一 担当者 樋口昇一

文献 樋口昇一「木曾柳又遺跡第一次調査について」信州ローム7

196 物見岩遺跡

所在地 諏訪市霧ヶ峯7718の14

調査期日 昭和35年8月20日～8月25日

主催者 東京都 直良信夫 担当者 直良信夫

文献 金井典美、石井則孝「長野県霧ヶ峯物見岩遺跡調査概報」考古学雑誌50の2

197 古屋敷遺跡

所在地 北安曇郡白馬村北城細野古屋敷5045

調査期日 昭和35年9月10日～9月30日

主催者 白馬中学校 担当者 原 嘉藤

調査概要 縄文前期の住居址1ヶが調査された。プランは不整楕円形で中央やや南寄りに石囲みの小形炉があり、周壁に沿って10ヶの柱穴が発見された。遺物の多くは諸磯B式の土器で、ただ一点、早期の穀粒様押捺文土器片が混入していた。

文献 原 嘉藤、塩島照衛「長野県北安曇郡白馬村細野遺跡について」信濃Ⅲ13の3

198 片塩遺跡

所在地 中野市片塩道下355

調査期日 昭和35年10月22日～10月25日

主催者 中野市教育委員会 担当者 神田五六

調査概要 一辺ほぼ4mほどの方形の堅穴住居址で西壁の中央に一枚の平瓦を含んだ石組竈が築かれていた。柱穴や周溝等は発見されていない。土器は新しい型式の土師器、甕、埴、須恵器坏である。

文献 金井汲次「長野県中野市片塩遺跡調査予報」信濃Ⅲ13の6

199 池の平遺跡

所在地 下伊那郡松川町大島池の平2750の13、2750の116～118

調査期日 昭和35年11月19日～11月23日

主催者 松川町 山下生六 担当者 大沢和夫

調査概要 山麓の遺跡で、トレンチ2本を設定したところ、平安期と思われる布目瓦をはじめ、土師器、縄文中期加曾利E式土器片の出土をみた。遺構は検出できなかった。

文献 市村成人「下伊那志3」

200 阿島遺跡

所在地 下伊那郡喬木村阿島五反田549の1

調査期日 昭和35年12月29日～1月31日

主催者 下伊那郡教育会歴史調査部
担当者 大沢和夫

文献 佐藤甦信、宮沢恒之「喬木村
阿島遺跡」長野県考古学会誌4

201 大花遺跡

所在地 諏訪郡富士見町境滝坂6461、
7053

調査期日 昭和36年3月15日～10月30日

主催者 富士見町教育委員会
担当者 藤森栄一

調査概要 第2、第3号住居址の発掘調査でこの堅穴からも多くの土製耳飾りが出土している。共に方形プランで2号址からは大洞BC乃至B式に比定される土器、3号址からはB₂式土器が出土している。耳飾りは破片をふくめて2号址より44、3号址より1ヶが出土した。なお土製品として土偶が2号址より2ヶ発見されている。

文献 藤森栄一、武藤雄六「信濃境
大花第二、第三号堅穴調査概報」
信濃Ⅲ 14の7

202 検田見遺跡

所在地 上田市塩田町新町196

調査期日 昭和36年3月17日～3月21日

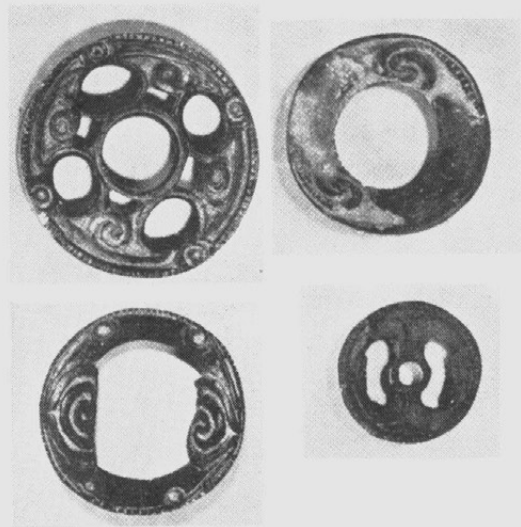
主催者 上田市 小林幹男
担当者 小林幹男

調査概要 区画整理によって破壊された遺跡で、縄文中期の円形プランをなす堅穴住居址と、4m離れて粘土で固められた石組が発見された。

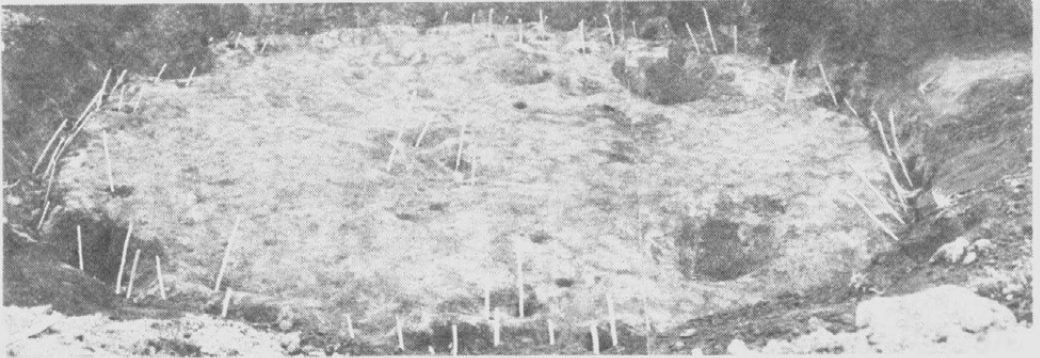
文献 小林幹男「長野県小県郡塩田町検田見遺跡」信濃Ⅲ 13の9



第30図 阿島遺跡出土壺形土器



第31図 大花遺跡出土土製耳飾



第 32 図 駒形遺跡(上)住居址(下)出土土器

203 駒形遺跡

所在地 茅野市米沢 5117～5120

調査期日 昭和36年3月20日～4月30日

主催者 茅野市 宮坂英式 担当者 宮坂英式

調査概要 縄文早期の堅穴を露呈させた調査で、その住居址(1号)は4.3×3.7mの隅丸長方形プランをとり床面中央に地床炉が設けられている。壁にそって周溝があり、その底面に56ヶの小孔がほぼ3cmの間隔で並列し、どれも外に向って傾斜58度に穿たれてあった。支柱穴は4ヶ整然と穿たれている。出土した土器は木島式に比定されるものが主体をなしている。

2 文献 宮坂英式「縄文早期終末の住居址」信濃Ⅲ 13の8

204 曾利遺跡

所在地 諏訪郡富士見町境、池袋

調査期日 昭和36年3月20日～3月23日

主催者 富士見町教育委員会 担当者 藤森栄一

文献 藤森栄一、武藤雄六「信濃境曾利遺跡調査報告」長野県考古学会誌創刊号
藤森栄一「池袋、曾利遺跡」井戸尻所収(昭40年)

12) 昭和 36 年度

205 大深山遺跡

所在地 南佐久郡川上村大深山西原 944 のイ

調査期日 昭和 36 年 4 月 13 日～11 月 20 日

主催者 大深山遺跡保存会 担当者 八幡一郎

調査概要 第二回調査で、縄文中期の竪穴住居址 7 ケと石組 2 ケ処を発見した。

このうち、15 号住居址からは完形をなす香炉形土器と胴膨れした甕が床面上 25cm 上に見出された。

文献 八幡一郎「長野県南佐久郡大深山遺跡調査(第二回)」 信濃Ⅲ 13 の 7

206 南石堂遺跡

所在地 北佐久郡軽井沢町茂沢南石堂 1024、1025、1046

調査期日 昭和 36 年 5 月 1 日～5 月 10 日

主催者 軽井沢町教育委員会 担当者 三上次男

調査概要 南石堂遺跡の第一調査で縄文中期の竪穴 3 ケ、縄文後期の竪穴 1 ケ、及び敷石を主とする規模の大きい配石遺構を発見した。特に配石遺構を追求して行くうちに、縄文後期の組み合せ石棺や石囲い配石遺構が出現した。

文献 三上次男、上野佳也「軽井沢町茂沢南石堂遺跡」 軽井沢町教育委員会(昭 43 年)

三上次男、上野佳也「長野県北佐久郡茂沢南石堂遺跡」 日本考古学年報 14

207 鷹山遺跡

所在地 小県郡長門町大門鷹山 3639

調査期日 昭和 36 年 5 月 2 日～5 月 7 日

主催者 信州大学 鈴木 誠 担当者 小松 虔

調査概要 第 1、第 2、第 3 トレンチを設定した。石器の出土状態は第 2 トレンチに最も多く、その出土状態は黒土層の厚さ 20～25 cm 内からポイント 3 点、褐色土層(20～30 cm)よりポイント 5 点、ローム層(15～20 cm)からポイント 5 点、コア 1 点を見出した。

208 上ヶ屋遺跡

所在地 長野市上ヶ屋原 2471

調査期日 昭和 36 年 6 月 2 日～6 月 6 日

主催者 松本市 樋口昇一 担当者 森島 稔

文献 樋口昇一、森島 稔、小林達雄「長野市飯縄高原上ヶ屋遺跡」上代文化 31、32

209 臥龍遺跡

所在地 諏訪郡原村払沢 5980 のイ

調査期日 昭和 36 年 6 月 10 日～7 月 10 日

主催者 茅野高校 担当者 宮坂英弐

調査概要 地表下30cmに安山岩の不規則な配石が認められ、同一面から縄文後期の堀の内式土器破片や、地床炉が発見された。しかし、不規則な配石以外確たる遺構の発見はできなかった。

文 献 宮坂英弐「長野県諏訪郡臥竜堂公園遺跡」 日本考古学年報 14

210 ゴルフ場内遺跡

所在地 木曾郡日義村新地

調査期日 昭和36年7月22日～8月30日

主催者 日義村 松島 透 担当者 松島 透

文 献 松島 透「長野県西筑摩郡新地遺跡」 日本考古学年報 14

211 七本松遺跡

所在地 東筑摩郡本郷村浅間鈴ヶ洞 1135

調査期日 昭和36年7月24日～7月29日

主催者 松本市 樋口昇一 担当者 樋口昇一

調査概要 浅間温泉と美鈴湖を結ぶバス路線開発の際に発見された遺跡で、3ヶの平安期に属する方形竪穴を調査した。出土遺物は土師器、須恵器、灰釉陶器、鉄製品として釘、鏝、鑿、鉄鏝、その他砥石、罫口、鉄滓が発見されている。

文 献 松本県ヶ丘高等学校風土研究部「長野県東筑摩郡本郷村三才山七本松遺跡調査概報」
信濃Ⅲ 14 の 11

212 柳又 A 遺跡

所在地 木曾郡開田村西野 1005

調査期日 昭和36年7月28日～8月7日

主催者 名古屋市 澄田正一 担当者 澄田正一

調査概要 二本のトレンチを設ける。表面から5～10cmの黒土層からは縄文時代の遺物が発見された。その下、ソフトローム層に移行する漸移層から、細石刃、尖頭器、搔器を検出。ソフトローム層からハードローム層の上面にかけて石刃、石槍が出土した。注意せねばならないのは細石刃(核)と尖頭器の共存であった。

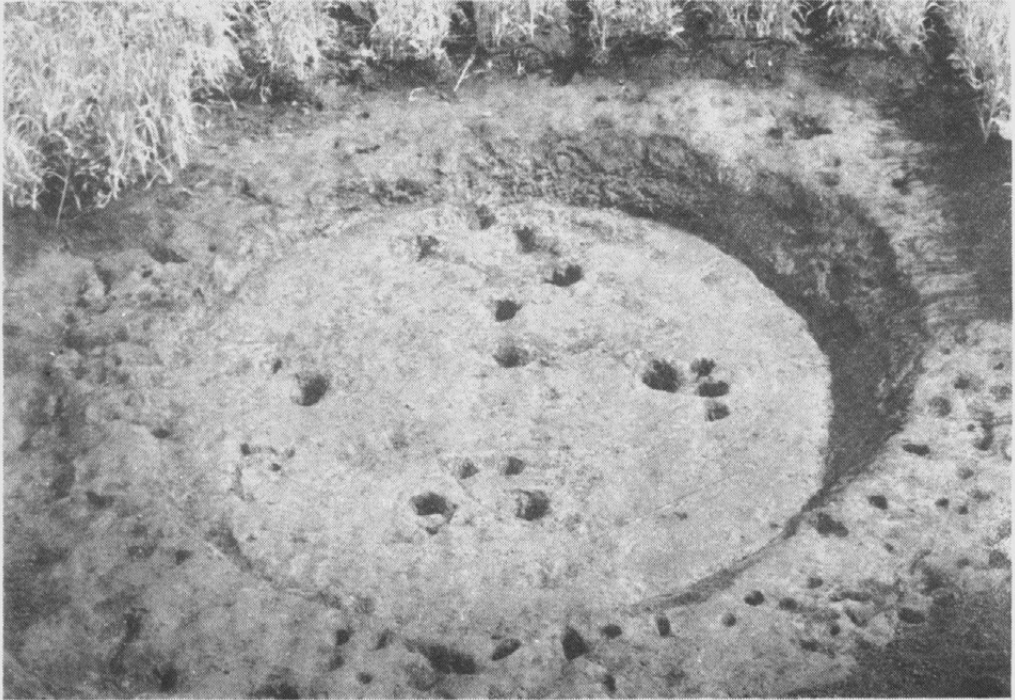
213 管 沢 遺 跡

所在地 木曾郡開田村西野 6800

調査期日 昭和36年7月28日～8月7日

主催者 名古屋市 澄田正一 担当者 澄田正一

調査概要 遺跡は部落の南側に延びる小舌状台地の中部に位置し、東方に傾斜している。住居址は長径4.7、短径4.1mを数える楕円形を呈し、柱穴は七本検出されたが、主柱穴は5本である。炉址は明確にできなかったが、西南隅に木炭片と焼土が多量にみられた。住居址にて注意されたことは木炭、焼土の中から石器製造の際に生ずる細石屑が多く発見されたことで、本住居址内にて石鏝等の製作されたことを物語っている。



第33図 管沢遺跡住居址

文 献 大参義一「長野県西筑摩郡管沢遺跡」 日本考古学年報 14

214 渋川遺跡

所在地 茅野市北山滑忽沢 5513 の1

調査期日 昭和36年8月3日～8月6日

主催者 茅野市 宮坂英式 担当者 宮坂英式

文 献 宮坂英式、宮坂虎次「渋川」尖石考古館研究報告 1

215 枳窪遺跡

所在地 茅野市北山池の平 3297

調査期日 昭和36年8月20日～10月31日

主催者 茅野市 篠原良一 担当者 宮坂英式

調査概要 乞食岩と俗称されている岩窟で堆積層は8層に分けられる。第1層からは陶器、磁器、当小判、第3層からは一文銭、陶器、磁器、弥生式土器、第4層からは陶器、磁器、弥生式土器、縄文晚期土器、第5層、弥生式土器、縄文晚期・中期・前期土器、第6層、縄文各期土器、第7層からは縄文中期、前期土器が出土した。

文 献 宮坂英式「長野県茅野市枳窪岩窟遺跡」 日本考古学年報 14

宮坂英式、宮坂虎次「蓼科」尖石考古館研究報告 2 (昭41年)

216 物見岩遺跡

所在地 諏訪市霧ヶ峯 6718 の 3

調査期日 昭和 36 年 8 月 22 日～8 月 27 日

主催者 東京都 直良信夫 担当者 直良信夫

文献 金井典美、石井則孝「長野県霧ヶ峯物見岩遺跡調査概報」考古学雑誌 50 の 2

金井典美「長野県諏訪市霧ヶ峯物見岩遺跡」日本考古学年報 14

217 駒形遺跡

所在地 諏訪郡下諏訪町小田野駒形

調査期日 昭和 36 年 11 月 15 日～11 月 29 日

主催者 諏訪郡下諏訪町教育委員会 担当者 藤森栄一

調査概要 台地の縁辺に 14 ヶの縄文中期の住居址を発見調査すると共に、ローム層中 30 cm に及ぶ深いロート状の石積と、これに接しての尖頭器 8 点を検出した。

文献 藤森栄一、宮坂光昭、中村竜雄「ポイント文化期の堅穴住居址」上代文化 31. 32

藤森栄一「長野県諏訪郡駒形遺跡」日本考古学年報 14

218 野口遺跡

所在地 伊那市手良野口 1004

調査期日 昭和 36 年 12 月 16 日～12 月 18 日

主催者 伊那市 伊藤泰輔 担当者 林 茂樹

調査概要 縄文晩期に属する堅穴式石積遺構と、その上部を覆う配石址が主体で、堅穴式石積遺構は地表下 50 cm を掘って設けられた長方形の堅穴(4.6 × 2.5 m)の四周の壁を自然石で積みあげたもので、この中から人骨は七体以上、火熱をうけた状態で発見された。遺物は石刀、石剣、石斧、石棒、耳栓、大洞 B 式壺、甕がいずれも欠損した状態で出土している。

文献 林 茂樹、本田秀明「野口墳墓遺跡調査概況」伊那路 6 の 10

219 立ヶ花遺跡

所在地 中野市立ヶ花表 371 のイ

調査期日 昭和 37 年 1 月 6 日～1 月 7 日

主催者 中野市教育委員会 担当者 神田五六

調査概要 昭和 35 年、中野市が市営し尿処理場建設のためブルドーザーで土取り工事中に遺物の発見があったもので、ナイフ形石器、彫刻器、搔器、石刃が出土している。石材の多くは黒耀石で、諏訪八ヶ岳山麓の該期文化に非常に近似している。

文献 中野市教育委員会「立ヶ花遺跡発掘調査畧報」1962 年

金井汲次、川上元「長野県中野市浜津ヶ池と立ヶ花遺跡発見の先土器時代遺物」信濃Ⅲ19 の 7

220 熊久保遺跡

所在地 東筑摩郡朝日村小野沢 515 の 2

調査期日 昭和 37 年 1 月 10 日～1 月 31 日

主催者 朝日村 担当者 樋口昇一

調査概要 地主から耕作中に土器出土が報ぜられたので早速調査を行った。その結果、縄文中期の集落址と想定されたので調査は一住居址を半掘したのみで、次後の本格的調査にゆずった。

221 更埴条理遺跡

所在地 更埴市屋代町田、返町

調査期日 昭和37年2月4日～2月7日

主催者 長野県教育委員会 担当者 井関弘太郎

調査概要 更埴市条里遺跡調査団地理班がへびた堰附近でトレンチ調査を行い平安期の住居址を確認した。

文献 長野県教育委員会編「更埴市条理遺構調査報告書」(昭42年)

222 熊久保遺跡

所在地 東筑摩郡朝日村小野沢515の2

調査期日 昭和37年3月15日～3月31日

主催者 朝日村教育委員会 担当者 樋口昇一

調査概要 縄文中期住居址9ヶ、特殊遺構5ヶが検出されている。特殊遺構は小ピットのうち第V号址は径1.3m、深さ65cmの摺鉢状をなし内部には黒土と混合して人頭大から拳大の角が充満していた。

文献 樋口昇一、横山正、小松虔「長野県東筑摩郡朝日村熊久保遺跡調査概報」(1)(2)「信濃」16の4、7

223 藤内遺跡

所在地 諏訪郡富士見町落合藤内3722

調査期日 昭和37年3月20日～10月30日

主催者 富士見町教育委員会 担当者 藤森栄一

調査概要 町営水道の配水管理設工事によって発見された8ヶの竪穴住居址のうちの1ヶ(9号址)と遺跡の中央に住居址としての遺構のない特殊な遺物包含層(藤内特殊遺構)を調査した。このうち、特殊遺構中からは太陽と人を陽刻した有孔罎付土器を始めとする10点の完形土器が発見され、また9号址は火災の厄にあった竪穴内での生活状態が復元できる好資料を遺存させていた。

文献 宮坂英式、武藤雄六、小平辰夫「烏帽子・藤内遺跡」井戸尻所収(昭40年)



第34図 藤内遺跡特殊遺構出土有孔罎付土器

武藤雄六「藤内特殊遺構」 井戸尻所収(昭40年)

武藤雄六、藤森栄一「長野県諏訪郡藤内遺跡」 日本考古学年報 15

224 神の木遺跡

所在地 茅野市北山神の木 7352

調査期日 昭和37年3月21日～5月31日

主催者 尖石考古館 担当者 宮坂英弼

調査概要 昭和27年の調査で縄文前期の堅穴住居址1ヶを発掘したが、更に該文化の性格を究明するため、本年第二次調査を実施し、遺構の遺存を確認したが、作物植付に切迫せられ、その実体を把握するに至らず、単に堆土中の遺物を収集するに止った。

225 赤岩遺跡

所在地 小県郡東部町滋野甲 2209

調査期日 昭和37年3月25日～3月31日

主催者 上小郡誌編纂委員会 担当者 小林幹男

調査概要 さつま芋の種芋貯蔵用堅穴を発掘中遺物の出土があり、住居址と確認されたもので、住居址は東西7.75×4.25m、西側に1.5mの突出した間のある長方形堅穴の変形で、北壁中央に石組竈が設けられている。出土遺物は須恵器、土師器、灰釉陶器、そして用途不明の鉄器3点が知られている。

文献 桜井松夫、小林幹男、他「長野県小県郡東部町滋野赤岩遺跡第一次発掘調査概報」
信濃Ⅲ 14の8

226 杉久保遺跡

所在地 上水内郡信濃町野尻杉久保 385のイ

調査期日 昭和37年3月26日～3月31日

主催者 松本市 樋口昇一 担当者 樋口昇一

文献 樋口昇一、森島 稔「野尻湖底杉久保A遺跡の発掘調査」 信州ローム 8

樋口昇一、森島 稔「長野県上水内郡野尻湖底杉久保遺跡の調査——A地点について」 日本考古学年報 15

227 更埴条里遺跡

所在地 更埴市屋代雨宮返町 1256

調査期日 昭和37年3月29日～5月19日

主催者 長野県教育委員会 担当者 井関弘太郎・玉口時雄

調査概要 更埴市条理遺構調査団地理班が返町附近にてトレンチ設定、住居址の存在を確認、同調査団考古班はへびた堰地区で平安期の住居址を発掘、及び畦畔の一部を発見した。

文献 長野県教育委員会編「更埴市条理遺構調査報告書」(昭和42年)

13) 昭和 37 年度

228 東組 D 遺跡

所在地 小県郡真田町菅平東組 1223 の 79

調査期日 昭和 37 年 4 月 17 日～4 月 25 日

主催者 東京都八幡一郎 担当者 八幡一郎

文献 八幡一郎、上野佳也「長野県菅平東組の早期縄文式文化遺跡について」考古学雑誌
48 の 2

229 南石堂遺跡

所在地 北佐久郡軽井沢町茂沢南石堂 1045、1046

調査期日 昭和 37 年 5 月 3 日～5 月 15 日

主催者 軽井沢町教育委員会 担当者 三上次男

調査概要 南石堂遺跡の第二次調査で、第一次調査で発見された配石遺構の追求を行った。

文献 三上次男、上野佳也「軽井沢町茂沢南石堂遺跡」軽井沢町教育委員会(昭 43 年)

230 郷土遺跡

所在地 小諸市郷土甲 4951 の 1

調査期日 昭和 37 年 5 月 10 日～5 月 20 日

主催者 小諸市教育委員会 担当者 八幡一郎

調査概要 A 地点では、縄文中期(加曾利 E 式)の重複した竪穴住居址 2、これを覆う配石址 1
ヶを検出した。B 地点では敷石住居址 1 ヶを発掘した。この竪穴は火山灰面を床面としている
が、南端部付近の幅 1.5、奥行 0.5 m の範囲に鉄平石をモザイク状に敷きつめてあった。
この住居址は全掘できなかつたが中央やや北寄りに大きな石組炉があり、炉内には三石で支え
た土器が安置してあった。炉の南に接して埋甕もあった。時期は加曾利 E 期に属する。

文献 八幡一郎、岩崎卓也「長野県小諸市郷土遺跡」日本考古学年報 15

231 入道遺跡

所在地 諏訪郡下諏訪町入道 7642

調査期日 昭和 37 年 5 月 11 日

主催者 信州大学 鈴木 誠 担当者 小松 虔

文献 小松虔「下諏訪町入道遺跡発掘概報」信州ローム 9

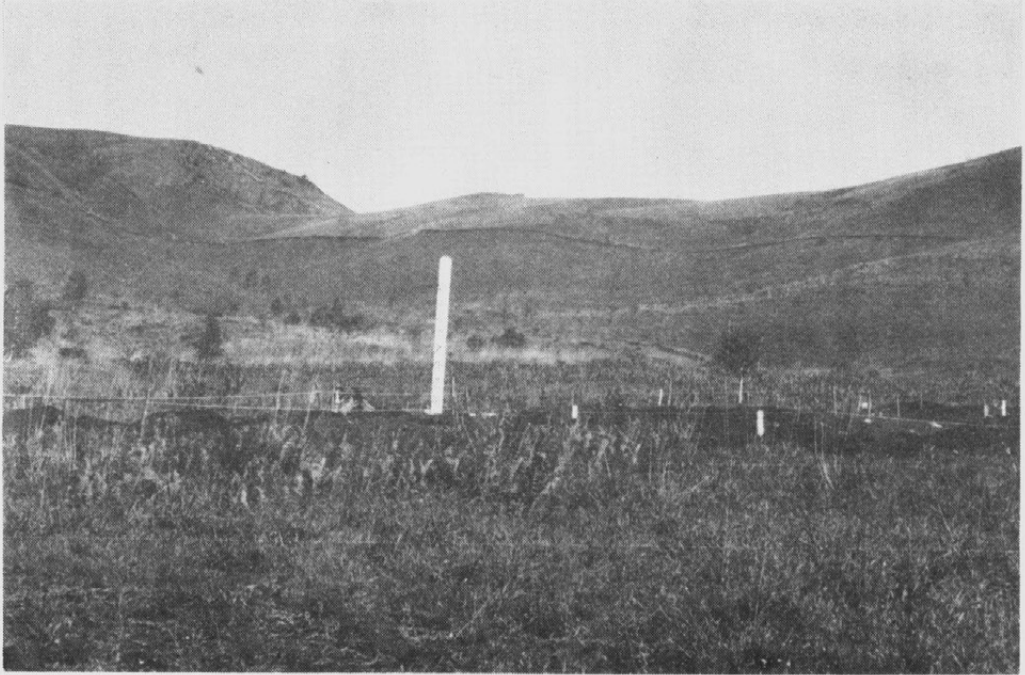
232 大畑遺跡

所在地 諏訪郡富士見町立沢大畑 2295

調査期日 昭和 37 年 5 月 15 日～7 月 31 日

主催者 富士見町教育委員会 担当者 宮坂英式

文献 宮坂虎次「立沢、大畑遺跡」井戸尻所収(昭和 40 年)



第35図 御小屋久保遺跡

宮坂英式「長野県諏訪郡大畑遺跡」 日本考古学年報 15

233 大明神遺跡

所在地 木曾郡大桑村殿大明神

調査期日 昭和37年5月26日～5月28日

主催者 松本市 樋口昇一 担当者 樋口昇一

文献 樋口昇一「長野県西筑摩郡大明神遺跡」 日本考古学年報 15

234 御小屋久保遺跡

所在地 茅野市北山本道 3418

調査期日 昭和37年6月1日～10月30日

主催者 柏原区遺跡保存会 担当者 宮坂英式

文献 宮坂英式「長野県茅野市北山御小屋久保遺跡」 日本考古学年報 15

宮坂英式、宮坂虎次「蓼科」 尖石考古館研究報告 2 (昭和41年)

235 柳又A、B遺跡

所在地 木曾郡開田村柳又 6502(A)、6541(B)

調査期日 昭和37年7月30日～8月5日

主催者 松本市 樋口昇一 担当者 樋口昇一

文 献 樋口昇一、森島 稔「長野県西筑摩郡柳又遺跡」 日本考古学年報 15

236 吉 8 号 古 墳

所在地 長野市 吉カウラフ 2201 ~ 2202

調査期日 昭和 37 年 8 月 6 日 ~ 8 月 16 日

主催者 長野吉田高校 担当者 米山一政・森島 稔

調査概要 径 13 m 前後、高さ 2.8 m の円墳で盗掘の厄をうけている。内部主体は横穴式石室で、両袖式で玄室は胴膨らみの形態をとっている。玄室と羨道の境には床面上に間仕切りがみられる。玄室の奥行 2.8、幅は最奥 1.5、中央部 2.15、玄間部 2.2 m、羨道は長さ 1.8、幅 1.22 m ほどである。遺物として、玄室内で土師器台付坏 1 点、羨口に近い部分で須恵器坏が発見されている。

237 大明神遺跡

所在地 木曾郡大桑村 殿 大明神

調査期日 昭和 37 年 8 月 6 日 ~ 8 月 10 日

主催者 松本市 樋口昇一 担当者 樋口昇一

調査概要 大明神遺跡第二次調査で、4 × 2 m の楕円形を呈した一種のケルン状遺構が検出されている。この積石を除去してみると(約 100 ケ) 20 cm ほど地山を掘りくぼめ、平坦な河原石を敷石住居址の様に整然と敷きならべてあった。出土遺物は縄文後期土器片と石鏃、磨製石斧少量で人骨の出土はなかった。

文 献 樋口昇一「木曾大明神遺跡」 長野県考古学会連絡誌 2

樋口昇一「長野県西筑摩郡大明神遺跡」 日本考古学年報 15

238 八 郎 沢 遺 跡

所在地 小県郡丸子町平井原 2521、2295

調査期日 昭和 37 年 8 月 11 日 ~ 8 月 15 日

主催者 丸子町教育委員会 担当者 小林幹男

調査概要 宅地造成で破壊されてしまった遺跡で重複している 2 ケの堅穴住居址を調査した。うち一ケは、土師後期の堅穴であり、もう一つの堅穴は縄文前期に属していた。縄文前期の堅穴は径 4 m 前後の円あるいは楕円と思われるプランを有し、有尾式土器を出土させている。

文 献 北沢 泰、小林幹男、他「長野県小県郡丸子町西内地方の遺跡(その二)」 信濃Ⅲ 15 の 7

239 ムジナ皮古窯

所在地 東筑摩郡四賀村反町猪皮 1049

調査期日 昭和 37 年 8 月 12 日 ~ 8 月 20 日

主催者 松本市 原 嘉藤 担当者 原 嘉藤

調査概要 半地下式無段登窯で、焚口、燃成室、煙出し部は無く、焼成室のみ検出された。残存部は長さ 3.5 m 巾は 0.95 と 1.45 m、高低差 2.5 m で平均傾斜度は 32° である。横断面は舟底

状をなしている。残存していた土器は環、埴、長頸瓶、甕、蓋の破片で、長頸瓶1ヶが僅かに復元できた。

240 物見岩遺跡

所在地 諏訪市霧ヶ峯7718
の15

調査期日 昭和37年 月28日
～9月10日

主催日 東京都 直良信夫
担当者 直良信夫

文献 金井典美、石井則孝「長野県霧ヶ峯物見岩遺跡調査概報」考古学雑誌50
の2



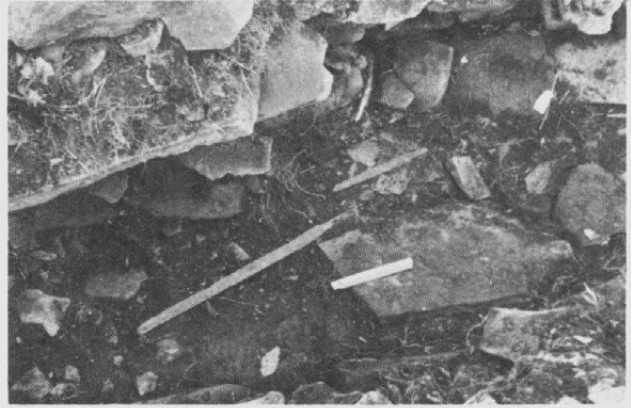
241 更埴条里遺跡

所在地 更埴市屋代雨宮、
馬口、返町、生仁、町裏

調査期日 昭和37年11月19日
日～12月30日

主催者 長野県教育委員会
担当者 斎藤 忠

調査概要 更埴市条里遺構調査団考古班は三地点に分れて発掘を行った。(1)寺院址の調査、(2)返町地区における畦畔と溝の調査、(3)生仁地区における住居址の調査



第36図 安坂將軍塚古墳(上)1号古墳
下(石室内遺物配列状態)

文献 長野県教育委員会編「更埴市条里遺構調査報告書」(昭42年)

242 安坂將軍塚1、2号古墳

所在地 東筑摩郡坂井村10076、10079

調査期日 昭和37年11月22日～11月30日

主催者 坂井村 担当者 大場磐雄

調査概要 麻績盆地を見おろす山上に築かれた、方形の積石塚古墳で、1号墳では2ヶの並列する竪穴式石室、2号墳においては1ヶの竪穴式石室が設けられていた。出土遺物としては1号墳第2号石室より鉄剣2、鉞1、直刀1、刀子状鏃、砥石が発見された。

文献 大場磐雄、原嘉藤、寺村光晴、桐原 健「長野県東筑摩郡坂井村安坂積石塚の調査(1)」信濃Ⅲ 16の4

大場磐雄、石井昌国、一志茂樹「長野県東筑摩郡坂井村安坂積石塚の調査(2)」信濃Ⅲ 16の6

243 修善寺墓地址

所在地 埴科郡坂城町御所沢蓬平5693の2

調査期日 昭和37年12月

8日～12月12日

主催者 更埴地方誌刊

行会 担当者 米山一政

調査概要 経塚と思はれていた1ヶのマウンドの横より、石造五輪塔列が発見され、その基壇より経石の破片が出土した。中世修善寺に関係のある墓地と考えられる。



244 下の城古窯

所在地 北佐久郡北御牧村下の城

調査期日 昭和37年12月

11日～12月17日

主催者 東京都 坂詰秀一

担当者 坂詰秀一

調査概要 2基の窯址を調査した。第1号窯址は焼成部と煙突部が明らかに分離し、焚口部には河原石をもってその閉塞をした状態がうかがわれた。窯底は舟底形をなしている。全長4.1、焚口部幅0.45、中央部幅1.5m、傾斜度は20度である。



第37図 上田国分寺古瓦出土状態

第2号址は、煙突部が焼成部の先端に見られるもので、全体が砲弾形をしている。全長4.45、焚口部幅1.6、中央部幅1.2m、傾斜度18度。

出土物は須恵器坏、高台付坏、甕、壺、蓋でその形態より平安時代初期から中期に比定される。

245 上田国分寺址

所在地 上田市国分寺仁王堂 1105～1201

調査期日 昭和38年2月16日～3月31日

主催者 上田市 担当者 内藤政恒

調査概要 金堂址、講堂址の検出に主力が注がれた。金堂址の基壇の大きさは東西29m(96尺)、南北推定21m(70尺)で、石敷と雨落ち溝が続っていた。溝の幅は60cm(2尺)前後で、平石を二列に立て並べ、底にも平石を配して構築されてあった。なお金堂北側中央部には雨落ち溝がなく、凝灰岩切石による階段が設けられてあった。金堂北・東側の石敷にはおびただしい瓦が落下堆積していた。講堂址は従来金堂址と考えられていたところで、その基壇の規模は東西29m(95.7尺)、

南北が 20.6 m (67.98 尺) で金堂より若干規模は小さい。西寄りの雨落石列の南に接して完形
宇瓦が屋上にふかれたと同じ状態でならんで発見された。

文 献 内藤政恒、大川 清、稲垣晋也、坂詰秀一「信濃国分寺跡」上田市教育委員会(昭40年)
上田市教育委員会「信濃国分寺跡発掘調査速報」 信濃Ⅲ 15 の 6

246 城山遺跡

所在地 松本市宮淵字城山 701 の 1

調査期日 昭和38年3月20日～3月22日

主催者 松本市立博物館 担当者 藤沢宗平・小松 虔

調査概要 3本のトレンチとピット2ヶ処を設定した。第1トレンチ東より弥生中期および土師
後期の堅穴が複合して発見され、第3トレンチからは弥生中期と推定される床面らしき焼土の
ある遺構と土師後期の堅穴住居址が発見された。

遺物は弥生中期のものとして貝殻腹縁や櫛様施文具による条痕風の斜状、縦羽状の沈線文の
鉢、石器として打製、磨製の石鏃がある。土師器は甕、皿の破片が主で、中に緑釉陶器皿の破
片も発見されている。

247 居平遺跡

所在地 諏訪郡富士見町落合居平 4436 の 4

調査期日 昭和38年3月23日～10月30日

主催者 諏訪清陵高校 担当者 藤森栄一

調査概要 トレンチを設定して4ヶの堅穴住居址を確認した。このうち2号址は、詳細な資料は
握れなかったがそう呼んでおく。土器が2ヶ体と河原石が1ヶあっただけで柱穴などの遺構は
認め得なかった。土器は曾利Ⅴ式である。

3号址の南半分では黒色土層～褐色土層上面にかけて晩期の大洞A式比定の土器片が散在し
ていた。また3号址を発掘した結果、その床上30cm内外にあった八ヶの自然石が注意された。
その位置から晩期の配石とみてさしつかえないと思う。堅穴の時期について1号址は曾利Ⅱ式

3号址は曾利Ⅴ式、4号址は曾利ⅢA式(期)である。

文 献 小林公明「烏帽子・居平遺跡」 井戸尻所収(昭40年)

248 新井遺跡

所在地 茅野市湖東下新井 5652

調査期日 昭和38年3月25日～4月14日

主催者 北部中学校 担当者 宮坂英式

調査概要 茅野市北部中学校建設工事中に発見された縄文中期の遺跡である。遺構についてはブ
ルトラーザーで削りとられてしまったため不明であるが、石皿、石棒、加曾利E式土器2点が発
見されている。

249 杉久保遺跡

所在地 上水内郡信濃町野尻杉久保

調査期日 昭和38年3月26日～3月31日

主催者 松本市 樋口昇一 担当者 樋口昇一

文 献 樋口昇一、森島 稔「野尻湖底杉久保A遺跡の発掘調査」信州ローム 8

14) 昭和 38 年度

250 大深山遺跡

所在地 南佐久郡川上村大深山西原 944 のイ

調査期日 昭和 38 年 5 月 1 日～7 月 10 日

主催者 大深山遺跡保存会 担当者 八幡一郎

調査概要 今回の調査においては、6ヶの縄文中期竪穴住居址が発見された。

251 クマンバ遺跡

所在地 大町市平青木湖底

調査期日 昭和 38 年 5 月 3 日～5 月 7 日

主催者 松本市 樋口昇一 担当者 樋口昇一

調査概要 青木湖の北岸に発見された遺跡で、遺物の散布範囲はごく小さい。表層が遺物包含層で、これはⅠ、Ⅱ層に区分できる。しかしながら遺物の上で一線を引くのはむづかしい。Ⅰ層出土土器片 163、Ⅱ層出土土器 345 点、第Ⅰ群土器（押型文土器、爪型文土器、貝殻文土器、無文土器）、第Ⅱ群土器（燃糸文土器、絡条体圧痕文土器、縄文土器）に分類できる。

文献 横田義章「青木湖湖底クマンバ遺跡第Ⅱ地点調査概報」 信濃Ⅱ 15 の 8.9.

252 南石堂遺跡

所在地 北佐久郡軽井沢町茂沢南石堂 19 45 の 1

調査期日 昭和 38 年 5 月 15 日～5 月 25 日

主催者 軽井沢町教育委員会 担当者 三上次男

調査概要 南石堂遺跡第三次調査で、今回も配石遺構の性格を明らかにすることに主力が注がれた。

文献 三上次男・上野佳也「軽井沢町茂沢南石堂遺跡」 軽井沢町教育委員会（昭和 43 年）

253 旧御射山遺跡

所在地 諏訪市霧ヶ峯 7718 の 11

調査期日 昭和 38 年 5 月 20 日～5 月 31 日

主催者 東京都 直良信夫 担当者 直良信夫

文献 金井典美「長野県霧ヶ峯旧御射山祭祀遺跡調査報告」 考古学雑誌 51 の 2

254 巴松遺跡

所在地 木曽郡日義村小沢

調査期日 昭和 38 年 6 月 16 日～11 月 3 日

主催者 日義村 松島 透 担当者 松島 透

調査概要 遺跡はゴルフ場、別荘地として開発されている地域の西端にあり、今回の調査では 2ヶの竪穴を発掘した。1号住居址は西半分だけ残っていたが、プランは東西に長い不整長方形

で、南北のほぼ中央に甕形土器の口縁を下にして火壺とした炉が設けられてあった。2号址は炉址のみ調査できなかったが、これも甕形土器の胴部が火壺に用いられていた。出土遺物は弥生後期の甕形土器のみで、壺は1点も存在していなかった。

文 献 松島透「木曾日義村巴松遺跡調査報告」 信濃教育 937

神村透「木曾日義村の考古学的調査(二)」 信濃Ⅲ 18の2

255 上の平遺跡

所在地 岡谷市長地中村上の平

調査期日 昭和38年6月27日～10月27日

主催者 岡谷南高等学校 担当者 藤森栄一

調査概要 トレンチ2本を設定、竪穴住居址と思われる遺構を発見したが完掘するには至らなかった。土器は縄文中期の梨久保式である。

256 枡窪洞穴遺跡

所在地 茅野市北山3297

調査期日 昭和38年7月15日～7月25日

主催者 茅野市 宮坂英式 担当者 八幡一郎・宮坂英式

文 献 八幡一郎・宮坂英式「長野県枡窪岩陰」日本の洞穴遺跡所収(昭和42年)

257 御牧の上古窯

所在地 北佐久郡御牧村下之城2390

調査期日 昭和38年7月16日～7月25日

主催者 東京都 坂詰秀一 担当者 坂詰秀一

調査概要 2基の窯址を調査した。このうち第1号窯址は半地下式無段登り窯で、長さ4.2、胴部最大巾1.3、焚口部0.5mを算し、勾配は20度を有する。全体的に見て煙突部はほぼ円形をなし、焼成部とは分離している。焚口部には5ヶの河原石をもって閉塞の機能をもっている。出土遺物は須恵器のみで、坏・高台付坏・甕・壺・蓋である。

258 中八重原古窯

所在地 北佐久郡北御牧村中八重原

調査期日 昭和38年7月17日～7月22日

主催者 東京都 坂詰秀一 担当者 坂詰秀一

調査概要 須恵器窯址1ヶを完掘、瓦窯址1ヶを部分的に調査した。須恵器窯は半地下式無段登り窯の構造を有し、全長6、焼成部巾1.7、燃焼部巾1.1mを算える。焼成部と燃焼部の境にピットがあり傾斜度は23～25度と急斜度である。出土遺物は須恵器の壺、甕、坏で平安初期に比定される。

瓦窯跡はトンネル式登窯構造を有するものであるらしいが、その詳細な構造は不明である。

出土遺物は瓦のみで女・男瓦で、時期は須恵器窯址と同一時期に考えられる。

259 石小屋遺跡

所在地 上高井郡東村仁礼山

3164 の 5

調査期日 昭和 38 年 7 月 25 日～

7 月 27 日

主催者 東京都 永峯光一

担当者 永峯光一

調査概要 石小屋洞窟の開口部における堆積層は 9 層に区別出来、そのうちの第 8 層である灰層と第 7 層の下部黒色混土礫層からは縄文草創期の微隆起線文土器が発見されている。殊にその中には口径 22 cm 器高 25 cm を計る 完形土器 1 点がふくまれている。

文献 永峯光一「長野県上高井郡東村仁礼山石小屋洞窟の調査について」信濃考古 14

永峯光一「長野県石小屋洞穴」日本の洞穴遺跡所収（昭和 42 年）



第 38 図 石小屋洞穴出土器

260 割橋遺跡

所在地 小県郡長門町大門割橋

調査期日 昭和 38 年 7 月 25 日～ 8 月 31 日

主催者 茅野市 宮坂英式

担当者 宮坂英式

文献 宮坂英式、児玉司農武、宮坂虎次「長野県大門峠割橋遺跡発掘調査報告」考古学雑誌 51 の 1
宮坂英式「長野県小県郡長門町割橋遺跡」日本考古学年報 16
宮坂英式、宮坂虎次「蓼科」尖石考古学研究報告 2（昭和 41 年）

261 池尻遺跡

所在地 更埴市桑原佐野山 877 の 16、18

調査期日 昭和 38 年 7 月 27 日～ 8 月 2 日

主催者 更埴地方誌刊行会

担当者 米山一政・森島 稔

文献 米山一政・森島稔「長野県更埴市桑原池尻遺跡調査報告」上代文化 34
下平秀夫「長野県更埴市桑原池尻遺跡調査概報」信濃 III 22 の 4

262 唐沢岩陰遺跡

所在地 小県郡真田町長十の原 278 の 244

調査期日 昭和 38 年 7 月 28 日～ 8 月 8 日

主催者 松本市 樋口昇一

担当者 永峯光一・樋口昇一



第39図 戸隠廃寺、講堂址

文 献 永峯光一・樋口昇一「長野県唐沢岩陰」日本の洞穴遺跡所収（昭42年）

263 長倉遺跡

所在地 茅野市豊平5957

調査期日 昭和38年8月1日～8月20日

主催者 岡谷南高等学校 担当者 宮坂英弼

調査概要 土師器の琿等が出土した遺跡で、山寺遺跡から続く古道に沿う奈良～平安時代の小集落址と考えられる。発掘では少量の土師器破片が出土したのみで、遺構等の発見には至らなかった。

264 黄金石上遺跡

所在地 飯山市飯山黄金石上653

調査期日 昭和38年8月9日～8月11日

主催者 飯山南高校 担当者 神田五六

調査概要 3.0×2.7mほどの規模をもつ方形プランの土師器竪穴で一隅に円形の張り出しがあり、それに接して竈があった。出土遺物は須恵器皿、土師器の甕、壺、皿、及び鉄製品として内径3.5cmの鉄環が発見された。

265 戸隠廃寺址

所在地 上水内郡戸隠村奥社3689

調査期日 昭和38年8月15日～9月5日

主催者 信濃毎日新聞社 担当者 小野勝年

調査概要 奥社に存する伝講堂址の発掘調査を行なった。その結果、四冊に雨落石を配し、南辺

中央に石段をもつ、5面9間の礎石群が発見された。土師器、須恵器、施釉陶器、釘、古銭などが出土している。

266 田溝第1号古窯

所在地 松本市岡田田溝868の105

調査期日 昭和38年8月15日～8月20日

主催者 松本市 原嘉藤 担当者 原嘉藤

調査概要 23基が発見されている田溝古窯址群中の一基で、全長7.4mの前郭の天井を高くしたナマコ状の竈窯である。遺物は須恵器、坏、壺、甕の破片220点で、いずれも復元不可能であった。

文献 中島豊晴・河西清光「松本市田溝古窯址の調査」信濃Ⅲ16の4

267 宮洞古窯

所在地 飯田市竜丘桐林宮洞

調査期日 昭和38年8月15日～8月20日

主催者 東京都 坂詰秀一 担当者 坂詰秀一

調査概要 窯跡は全長7.7m、最大幅約2mを有する半地下式無段登窯の構造をとり、窯底傾斜度は燃焼部で約30度、焼成部で40～45度を有し、焚口部にピットを認めるものであった。出土遺物は須恵器のみで、高台付坏、坏、蓋、甕、壺、高坏など出土し、特に風字硯の出土は注目された。

文献 遮那真周「桐林宮洞須恵器窯跡発掘略報」伊那137号
坂詰秀一「陶硯を出土する古窯址の性格」古代文化12

268 伊勢並遺跡

所在地 伊那市小黒原6532

調査期日 昭和38年8月16日～8月17日

主催者 伊那市 林茂樹 担当者 林茂樹

調査概要 トレンチ調査の結果、深さ1mまでの間に縄文時代早期、中期、弥生時代、古墳時代の各期の遺物が斉然とした層序をもって包含されていることがわかり、縄文中期末(加曾利E)の竪穴住居址の一部を検出することに成功した。

文献 林茂樹「伊勢並遺跡」上伊那誌歴史篇所収(昭和40年)

269 巾田遺跡

所在地 埴科郡戸倉町羽尾巾田 1611、1612、1617、1647

調査期日 昭和38年8月16日～8月25日

主催者 屋代高校 担当者 米山一政・森島 稔

調査概要 縄文前期黒浜期の竪穴1、中期加曾利E期竪穴1、同配石址2、土師器を出土する竪穴1を発掘調査している。

文献 屋代高校地歴班「埴科郡幅田遺跡第一次調査」長野県考古学会誌1

270 道場廃寺址

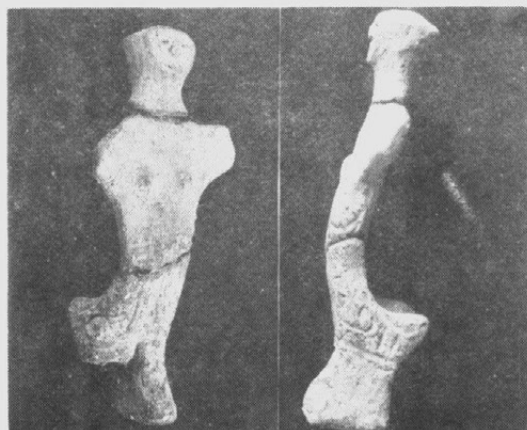
所在地 上田市国分道場1004

調査期日 昭和38年8月17日～8月19日

主催者 上小誌刊行会

担当者 五十嵐幹雄

調査概要 正明寺址と目せられる遺構で、井戸と基壇が存在する。井戸は比丘尼井戸と呼ばれ、長径1.25、短径0.9mの楕円形に自然石を組み、深さ0.75～1.1mで、その下に35cmの粘土層があって、基壇に敷石がある。湧水は粘土層上部に見られる。基壇には30cmほどの自然石を敷き、間に小礫をつめ、粘土で固めた3.6×3.6mの方形をなすものと、1.8×2.7mの長方形をなすものがあり、その間には礎石状の配石もあった。



第40図 新切遺跡出土土偶

井戸および基壇からの遺物は同一時期と思われるもので、丸瓦、平瓦片、内面黒色研磨の土師器皿、碗、須恵器皿破片、青磁、白磁片、天禧通宝、熙寧元宝、元祐通宝、慶元通宝、皇宋通宝、不明の9点を算える古銭がある。

271 牧ヶ原遺跡

所在地 伊那市御園1110

調査期日 昭和38年8月20日～8月21日

主催者 伊那市 林茂樹 担当者 林茂樹

調査概要 牧ヶ原丘陵の頂上部の地点から小形の尖頭器が搔器、小形石刃、ナイフ形石器を伴って70余点出土した。遺跡はローム層内15cmのレベルにあった石器加工場で石器を調整する台石2基、ハンマーと思われる打痕をもった磨石2点、そのまわりに石器の削り屑300余点が検出された。

文献 林茂樹「御園牧ヶ原遺跡」上伊那誌歴史篇所収(昭和40年)

272 新切遺跡

所在地 下伊那郡高森町山吹7716

調査期日 昭和38年10月10日～11月10日

主催者 飯田市 佐藤甞信 担当者 大沢和夫

調査概要 開田作業中に、10数ヶの竈穴住居址が発見され、そのうちの1号住居址を調査したが、この住居址においては床面上10～15cmの黒土をふみかためて石組がつけられ、その前から土偶の頭部、胴部、脚部がばらばらになった状態で発見された。

文献 佐藤甞信「長野県下伊那郡高森町増野新切遺跡出土土偶」信濃Ⅲ16の9

273 矢出川北遺跡

所在地 南佐久郡南牧村ニツ山

調査期日 昭和38年11月1日～11月5日

主催者 東京都 杉原荘介 担当者 杉原荘介

調査概要 矢出川遺跡の第3次調査で、発見当時の所見を再確認することと、開墾によって新たに明らかとなった遺物包含層を調査すること、完全な遺跡測量図を作成することを目的とし、その結果、遺物出土層について、前回の八ヶ岳泥流層最上端をローム層中10～20cmと訂正することができ、石器の組成についても、今までの細石刃以外にやや大形の石器を加えることができた。

文 献 戸沢充則「矢出川遺跡」考古学集刊2の3

戸沢充則「長野県南佐久郡矢出川遺跡」日本考古学年報16

274 伊勢見山遺跡

所在地 上水郡信濃町伊勢見山西浦 2610 の9

調査期日 昭和38年11月8日～11月14日

主催者 東京都 樋口清之 担当者 樋口清之・小林達雄

調査概要 調査地点での層位堆積は第1層、黒褐色土層(20～25cm)、第2層、漸移層(5cm)、第3層、ローム層(40cm)、第4層、礫混りハードローム(以下)で、遺物は全て石器で土製品はなく、無土器文化遺物と見なされる。遺物は安山岩を主体とする下層(伊勢見山Ⅰ)のインダストリーと、黒曜石を主体とする上層(伊勢見山Ⅱ)のインダストリーに分れる。Ⅱ群の石器はロームすれすれ、もしくは直上に見られ、Ⅰ群の石器はⅡ群石器面下15cm前後にみられた。

Ⅰ群の定形的な石器は中形の横剃ぎ技法によるナイフ形石器、縦長剃片の小形ナイフを主体とするもので、グレイバー、スクレーパーを持たない。第Ⅱ群インダストリーの定形的な石器は小形ナイフとオーデイ形類似ナイフ、ノーズスクレーパーで、ポイント、グレイバーは見られない。

275 東原遺跡

所在地 南佐久郡川上村原東原 1457 の3

調査期日 昭和38年11月18日～11月30日

主催者 川上村公民館 担当者 八幡一郎

276 若宮古窯

所在地 埴科郡戸倉町若宮

調査期日 昭和38年11月28日～12月3日

主催者 東京都 坂詰秀一 担当者 坂詰秀一

調査概要 地上式無段登窯の構造を有する須恵器の窯址を1基完掘した。窯底を地表面下に掘っておくと言うものではなく、当時の地表面上に近く窯底を構築していると言う特異なものである。窯跡は焚口部を欠失しているが、現存長5.6、巾3.5mと云う大形のものである。出土遺物は須恵器片と円面硯片で平安時代中期以降と考えられる。

277 深沢遺跡

所在地 飯山市蓮深沢 3481

調査期日 昭和38年11月30日～12月8日

主催者 飯山北高校 担当者 神田五六・高橋 桂

調査概要 遺物の散布地は20アールほどで、その中心に住居址の存在を期待してトレンチを設定したが、それと断定できる資料は得られなかった。出土遺物は縄文中期の阿玉台式、勝坂式の

大形鉢形土器 20ヶ分と、北信では珍しい土偶が 12ヶ発見された。これらは全長 4 cmの小さいものから、12cmのかなり大きなものもあり、多くのものが頭部、上下肢を破損させている。石器では打製石斧、磨製石斧、石皿等数ヶで非常に少ない。

278 草間古窯

所在地 中野市草間茶臼峯

調査期日 昭和 38 年 12 月 5 日～昭和 39 年 3 月 15 日

主催者 中野市教育委員会 担当者 神田五六・金井汲次

調査概要 遺跡地は雑木林であったが、林檎園地造成によりブルドーザーが入り、破壊される危険が生じ、調査にふみきった。その結果、1、2号古窯址を検出することが出来た。窯址の構造は共に半地下式無段登窯である。

文献 大川清・金井汲次「長野県中野市草間窯業遺跡」信濃 Ⅲ16の 11

279 更埴条里遺跡

所在地 更埴市雨宮森

調査期日 昭和 38 年 12 月 21 日～12 月 27 日

主催者 長野県教育委員会 担当者 斉藤 忠

調査概要 更埴市条里遺構調査団考古班はへびた堰の東にて 14 本のトレンチ調査を行ない、その結果各畦畔の巾に差のあることが明らかになった。

文献 長野県教育委員会編「更埴市条里遺構調査報告書」（昭 42 年）



第 41 図 葦原遺跡 敷石住居址

280 葦原遺跡

所在地 東筑摩郡波田村葦原

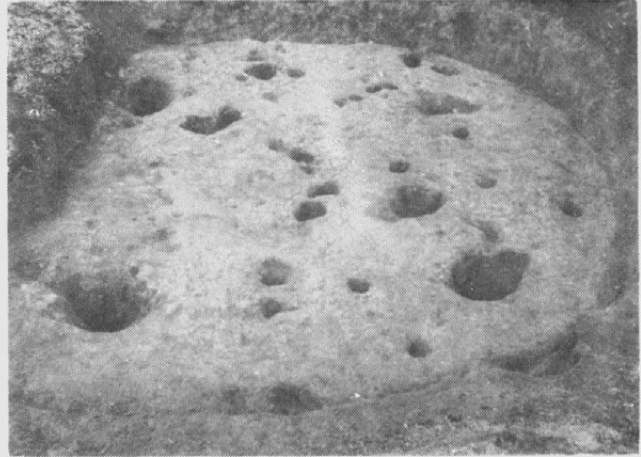
1888

調査期日 昭和39年3月10日
～3月16日

主催者 松商学園高校

担当者 小松 虔

文献 小松虔「長野県東筑
摩郡波田村葦原遺跡第一・第
二次調査概報」信濃Ⅲ18の4
小松虔「長野県東筑摩郡波田
村葦原遺跡」日本考古学年報17



第42図 舅屋敷遺跡住居址

281 舅屋敷遺跡

所在地 塩尻市片丘北熊井舅
屋敷9115

調査期日 昭和39年3月15日
～3月19日

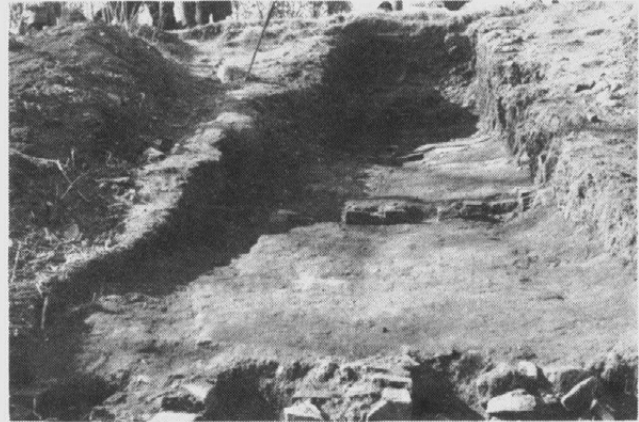
主催者 松本市立博物館

担当者 藤沢宗平・小松 虔

調査概要 9本のトレンチ設定、
うち第1トレンチからは80×
40cmの範囲に礫の集積があり、
そのほぼ中央から木炭と灰が
出土した。礫は火熱を受けて
おり、その周辺から前期縄文
土器片10点が発見された。

第2トレンチでは竪穴住居
址1ヶを検出させた。プラン
は4.65×4.0mの長楕円形で
中央の2ヶ所に炉址と思われ
る焼土がみられる。支柱穴は
四隅にあるが、この外に2ヶ
の柱穴が炉址の両端にある。
出土土器は縄文早期末と思わ
れる尖底土器破片と神の木式
土器破片が発見されている。

第3トレンチからは前期末
の遺物が主体となって発見さ
れたが、竪穴住居址は3重に
なっていて、全容を明らかに
することはできなかった。



第43図 染屋窯址

文 献 藤沢宗平「長野県塩尻市片丘北熊井遺跡」日本考古学年報 17

282 染屋古窯

所在地 上田市古里前城 2229

調査期日 昭和 39 年 3 月 22 日～3 月 31 日

主催者 上田市 小林幹男 担当者 小林幹男

調査概要 導水管埋設工事中に発見された 1、4、5号窯址を調査した。このうち完形を呈していたのは第 1 号窯址で、全長 14m、窯尻部巾 1.5m の半地下連房式登窯の型式をとる。出土品は各種土管破片、大甕等の破片が多量に発見されている。なおこの使用年代は明治 32 年から 36 年間であることが判明した。

283 明星屋敷遺跡

所在地 諏訪市有賀明星 8300

調査期日 昭和 39 年 3 月 23 日～4 月 3 日

主催者 諏訪考古学研究所 担当者 藤森栄一

調査概要 伊那谷と諏訪盆地を結ぶ峠に発見された遺跡で縄文早期に属すると思われるピットと、平安期の竪穴住居址を確認した。縄文早期土器片は押型文土器(山形文 27、格子目 4、楕円文 45) 篋描文土器(2)、条痕文土器(櫛目文 31、刺突文 10)、縄文繊維土器(斜縄文 31、無文 2)、半截竹管文土器(2)で、石器としては、石鏃(鋏形鏃、剝片鏃)、三角磨石などが出土している。

文 献 中村竜雄「諏訪市明星屋敷・ハタ河原遺跡調査報告」信濃Ⅲ 17 の 4

中村竜雄「伊那と諏訪をむすぶ高地性遺跡」伊那路 12 の 4

284 大久保遺跡

所在地 上伊那郡宮田村 5721 の 1

調査期日 昭和 39 年 3 月 23 日～4 月 20 日

主催者 宮田村 太田 保 担当者 林 茂樹

調査概要 土師期の竪穴住居址に伴う石組竈と煙道部が、耕作中に発見されたので調査したが、すでに鋤平されてしまっていて住居址の全貌を明らかにすることはできなかった。土師器、環、甕の破片が出土している。

285 ニツ塚遺跡

所在地 松本市宮淵ニツ塚 251

調査期日 昭和 39 年 3 月 25 日～3 月 26 日

主催者 松本市立博物館 担当者 藤沢宗平・小松 虔

調査概要 深耕により東側の破壊が甚だしいが、南北 2、東西 3m の楕円形の配石址が発見された。この配石には炉がなく、住居址とするよりも祭祀遺構であると思われる。縄文中期・後期、弥生後期の土器破片が出土しているが、配石にかぎって云うならば土器は堀の内式で、配石西側隅よりは石棒下部が発見されている。

文 献 藤沢宗平・小松虔「長野県松本市宮淵ニツ塚遺跡」日本考古学年報 17

286 杉久保遺跡

所在地 上水内郡信濃町野尻杉久保

調査期日 昭和 39 年 3 月 25 日～3 月 30 日

主催者 松本市 樋口昇一 担当者 樋口昇一

調査概要 石器セットの把握と、安山岩製石器群確認とを目的にして行なった。杉久保 AⅢ群には更に尖頭器が加えられることが確定した。この他問題となるものに、杉久保 A1 包含層下にピートの層があり、その下部に灰褐色砂礫土層があるが、その層から珪岩製と安山岩製の剝片が採集された。

文 献 森島稔「長野県上水内郡信濃町杉久保遺跡」日本考古学年報 17

15) 昭和 39 年度

287 東原遺跡

所在地 南佐久郡川上村原東原 1457 の 3

調査期日 昭和 39 年 4 月 10 日～ 4 月 30 日

主催者 川上村公民館 担当者 八幡一郎

288 草間古窯

所在地 中野市草間大久保 114 の 4 茶臼峯 1065、1062、1064、1060

調査期日 昭和 39 年 4 月 20 日～ 5 月 10 日

主催者 中野市教育委員会 担当者 神田五六

調査概要 草間古窯址の第二次調査で茶臼峯 3 号、4 号、5 号、6 号窯址と大久保 1 号、6 号窯址を発掘した。

文献 大川清・金井汲次「長野県中野市草間窯業遺跡」信濃Ⅲ 16 の 11

289 クマンバ遺跡

所在地 大田市平青木クマンバ

調査期日 昭和 39 年 5 月 3 日～ 5 月 7 日

主催者 松本市 樋口昇一 担当者 樋口昇一

文献 樋口昇一「大田市平区青木湖周辺の遺跡調査」長野県考古学会研究報告書 1

290 南石堂遺跡

所在地 北佐久郡軽井沢町茂沢南石堂 1045 の 1

調査期日 昭和 39 年 5 月 9 日～ 5 月 20 日

主催者 軽井沢町教育委員会 担当者 三上次男

調査概要 南石堂遺跡第 4 次調査で配石遺構群が環状をなすかどうかを確かめることと、その内側の状態の究明に主眼がおかれた。

文献 三上次男・上野佳也「軽井沢町茂沢南石堂遺跡」軽井沢町教育委員会(昭和 43 年)

291 狐久保遺跡

所在地 駒ヶ根市東伊那伊那耕地殿村 966

調査期日 昭和 39 年 5 月 15 日～ 5 月 31 日

主催者 駒ヶ根博物館 担当者 林 茂樹

調査概要 駒ヶ根市中学校建設工事のため、遺跡の三分の二が切り取られることになり、その断面にあらわれた竪穴を調査した。住居址は 7 ケでいずれも弥生後期に位置するものであった。

文献 友野良一「駒ヶ根市東伊那狐久保遺跡調査概報」伊那路 8 の 9

292 旧御射山遺跡

所在地 諏訪市霧ヶ峯 7718 の 11

調査期日 昭和 39 年 5 月 20 日～6 月 5 日

主催者 東京都 直良信夫 担当者 直良信夫

文献 金井典美「長野県霧ヶ峯旧御射山祭祀遺跡調査報告雑誌 51 の 2

293 物見岩遺跡

所在地 諏訪郡下諏訪町東俣国有林 138 林班

調査期日 昭和 39 年 5 月 20 日～5 月 30 日

主催者 東京都 直良信夫 担当者 直良信夫

文献 金井典美「長野県霧ヶ峯物見岩遺跡調査報告」考古学雑誌 52 の 2

294 御霊の森遺跡

所在地 木曾郡日義村宮越

調査期日 昭和 39 年 5 月 21 日～11 月 29 日

主催者 日義村 松島 透 担当者 松島 透

調査概要 村営水道工事によって縄文時代竪穴 2 ヶ、平安時代住居址 4 ヶ、及び V 字溝のカッティングがあらわれ、このうち縄文時代住居址 1 ヶ（イ号址）を調査した。この住居址は径 4 m の円形で、中央より東よりに 70 × 80 cm の大きな石囲炉が設けられていた。出土した遺物は加曾利 E 式の大形甕、短冊形打石斧、石鏃、石錐、石匙である。

文献 神村透「木曾日義村の考古学的調査(1)」信濃 III 17 の 11

295 波川Ⅳ遺跡

所在地 茅野市北山滑忽沢～笹平 5513

調査期日 昭和 39 年 6 月 15 日～10 月 31 日

主催者 茅野市 宮坂英式 担当者 宮坂英式

文献 宮坂英式・宮坂虎次「波川」尖石考古館研究報告 1

296 蝶葉遺跡

所在地 埴科郡戸倉町羽尾 3604

調査期日 昭和 39 年 6 月 27 日～6 月 30 日

主催者 東京都 永峯光一 担当者 永峯光一

調査概要 冠着山の峠にあたる鞍部に冠着トンネルが貫通しているが、遺跡はこのトンネル上方に位置している。土層は 4 層に分かれ、第 4 層（地山）においては 6 ヶのピットを発見した。ピット 6 ヶのうち 2 ヶは袋状をなし、うちより、土器の出土がみられた。土器は中期初頭のもので、全般的に新潟県地方における土器と類似する要素が強い。

文献 関孝一「長野県埴科郡戸倉町蝶葉遺跡の調査」信濃 III 18 の 4

297 巾田遺跡

所在地 埴科郡戸倉町羽尾巾田 1611、1612

調査期日 昭和 39 年 7 月 5 日～9 月 30 日

主催者 戸倉町教育委員会 担当者 森島 稔

調査概要 巾田遺跡の第二次調査で、配石址 3、環状列石址 1 を検出した。

文献 金子浩昌・米山一政・森島稔「長野県埴科郡戸倉町巾田遺跡調査報告 その 2」長野県考古学会誌 2

298 ハタ河原遺跡

所在地 諏訪市上諏訪角間沢西 12968 の 1

調査期日 昭和 39 年 7 月 5 日～7 月 10 日

主催者 諏訪市教育委員会 担当者 藤森栄一

調査概要 角間沢をのぼって霧ヶ峯に至る手前に科ノ木平なる小凹地があるが、その左の谷間に設けられた温水溜地池畦の道路拡張工事中に発見された遺跡で、縄文早期に比定される竪穴が発見された。竪穴のプランは 3.3 × 5.3 m ほどの長方形で、床面は凹凸に富み、更に 5 度傾斜している。周壁はあまり明瞭ではない。底面上より出土した土器片には山形文 2、格子目文 1、楕円文 6、縄文 3 点、石器には鍬形鏃 2、剝片鏃 2、三角磨石 1 点がある。

文献 中村竜雄「諏訪市明星屋敷、ハタ河原遺跡調査報告」信濃Ⅲ 17 の 4

299 位沢遺跡

所在地 南安曇郡安曇村 3996

調査期日 昭和 39 年 7 月 23 日～7 月 27 日

主催者 松本市 樋口昇一 担当者 樋口昇一

調査概要 乗鞍山中にひらけるテラス状の平坦地に遺跡はある。相当広範囲に遺物散布を見、縄文早期末（入海式、粕畑式）と縄文前期の黒浜式などの出土量が多かった。石器には不定形のフレークを加工した刃器的石器があるなど、今後、注意すべきであろう。なお、新しい型式の土師器をもつ石組の竈が発見されている。

300 鷹山遺跡

所在地 小県郡長門町大門鷹山 3513

調査期日 昭和 39 年 7 月 24 日～7 月 31 日

主催者 茅野市 宮坂英式 担当者 宮坂英式

調査概要 調査は 3 地点で行なった。第 1 地点での石器主要包含層は褐色土層からローム層 20 cm まででナイフ、尖頭器、搔器、削器、刃器状剝片、第 2 地点ではローム層内から削器、切出形石器、不定形石器、第 3 地点では第 1 層黒土層と第 2 層灰褐色粘土層から尖頭器、ナイフ、搔器、削器、細石刃核、刃器が出土した。

文献 宮坂英式・宮坂虎次「蓼科」（昭和 41 年）

301 戸隠十二坊址

所在地 上水内郡戸隠村奥社 3689

調査期日 昭和39年8月1日～8月15日

主催者 信濃毎日新聞社

担当者 小野勝年

調査概要 奥社杉並木裏に存する戸隠十二坊址の礎石を露呈した。出土遺物は古伊万里染付の水
瓶、香炉等の破片である。

302 鳥居原遺跡

所在地 伊那市鳥居原 2997 の2

調査期日 昭和39年8月3日～8月4日

主催者 伊那弥生ヶ丘高校

担当者 林 茂樹

調査概要 開田工事中に発見された遺跡で一住居址が破壊されてしまったが、全面積の五分の三
程度を調査することができた。住居址は一辺4mほどの隅丸方形プランをとり、北壁中央に石
組竈をもつ。支柱穴は推定4ヶが熙然と設けられていた。出土遺物は灰細陶器の小口壺1点、
須恵器壺、甕破片、土師器壺、甕破片である。

文献 林茂樹・堀口貞幸「伊那市鳥居原遺跡の発掘調査」信濃Ⅲ17の4

303 田溝入古窯

所在地 松本市岡田町田溝入168の2

調査期日 昭和39年8月5日～8月15日

主催者 松塩筑郡誌編集会

担当者 原 嘉藤

調査概要 林道拡張工事によって発見されたもので8号、24号古窯址の2基が調査された。8号
窯は半地下式無段登窯、24号窯は半地下式の平窯と考えられるもので、保存状態は8号窯の方
が良好であった。8号窯出土遺物は須恵器環、蓋、壺と丸瓦、平瓦、24号窯からは須恵器の
蓋、甕が出土している。

文献 河西清光「長野県松本市田溝中の沢古窯址の調査」信濃Ⅲ17の9

304 木曾殿アブキ洞穴遺跡

所在地 上水内郡鬼無里村日影西山国有林53班

調査期日 昭和39年8月5日～9月30日

主催者 鬼無里村教育委員会

担当者 樋口昇一・森島 稔

調査概要 裾花川の曲流部に面した洞穴で、内部の堆積層中から出土した自然遺物は第15層黄褐
色粗砂層より鹿の脊椎骨が出土し、第3層褐色砂層より伊万里染付の湯茶碗が二ヶ体確認され
たのみである。

文献 樋口昇一・森島稔「長野県上水内郡鬼無里村「木曾殿アブキ」の調査」洞穴遺跡調査
会会報15

305 中挾遺跡

所在地 小県郡青木村田沢3923、3482

調査期日 昭和39年8月7日～8月15日

主催者 上田市 小林幹男

担当者 小林幹男

調査概要 敷石住居址1ヶを発掘した。出土遺物として土器は縄文後期の加曾利B I式が主体を占める。この他黒曜石の原石、石屑が多く発見された。

文献 小林幹男「小県郡青木村田沢 中挾遺跡調査略報」長野県考古学会連絡紙12

306 六部塚古墳

所在地 上田市塩田町野倉

調査期日 昭和39年8月8日～8月12日

主催者 上田高校 担当者 五十嵐幹雄

調査概要 6基の古墳が群在しているが、このうち2基を調査の対象とした。墳高はいずれも80cm程度である。トレンチを設け、切断したところ、土層の変化は全くなく、出土品も発見されないところから、古墳ではないことが判明した。

307 芦内岩陰遺跡

所在地 南佐久郡白田町常和高トヤ 3535

調査期日 昭和39年8月9日～8月15日

主催者 松本市 樋口昇一 担当者 樋口昇一

調査概要 荒船・兜岩山・水落観音とをつなぐ山系には安山岩の露頭が各所に見られるが、この露頭の最西端部に位置し、前面に吉沢川が流れているところに、芦内岩陰の遺跡がある。開口部は巾1.75、奥行2.5cmの規模をもつ。出土遺物のうち土器には縄文草創期に属せしむるもの、木島式、関山式、黒浜式、諸磯A式で石器には石鏃、石匙、小形搔器、礫器、敲石、磨石、凹石が見られる。自然遺物は案外に少なく、シカ、イノシシ類の四肢骨の発見があったのみ、骨角器は皆無であった。

文献 樋口昇一・藤沢平治「長野県南佐久郡白田町芦内岩陰遺跡調査概報」信濃Ⅲ18の11

308 吉33号墳

所在地 長野市吉カウラフ 2069

調査期日 昭和39年8月17日～8月30日

主催者 長野吉田高校 担当者 米山一政

調査概要 吉古墳中でも高处にある古墳で、直径13、高さ3mの円墳である。内部主体としては南に開口する2ヶの石室が並列構築されていて、第一石室は全長2.3、巾0.4、深さ0.45m、第二石室は全長3.2、巾0.45、深さ0.5m内外で共に天井石を失っているが合掌型石室と推定される。出土遺物としては大刀身1、刀身2、鉄鏃(平根系3、尖根系10)、土師器片が残存していた。

文献 米山一政・下平秀夫「長野県長野市若槻吉三号古墳調査概報」信濃Ⅲ19の4

309 埴原牧監庁址

所在地 松本市中山乾田 3723の1

調査期日 昭和39年8月25日～9月1日

主催者 松本市教育委員会 担当者 一志茂樹・大場磐雄・斉藤 忠



第44図 埴原牧監庁址

調査概要 昭和25年に中山地区北埴原の鳥内、乾田の地に14ヶの礎石が発見され、建築跡の存することが知られていたが、今回の調査で間口の柱間は約11尺の間口9間、奥行推定3間の建築址であることが判明した。瓦は一点も発見されず、遺物の出土もなかったが、まづ平安時代のもので、信濃牧監の庁舎跡の一部と推察されている。

文献 一志茂樹・斉藤忠・大川清・原嘉藤「長野県松本市北埴原推定信濃牧監庁跡調査概報」
信濃Ⅲ16の12

310 深沢遺跡

所在地 飯山市蓮深沢3481

調査期日 昭和39年10月10日～10月18日

主催者 飯山北高校

担当者 高橋 桂

調査概要 今回の調査では住居址の検出につとめ、その結果、10ヶの柱穴を発見し、 5×6 mのやや楕円形をなす住居址プランを確認した。炬は中央東寄りに位置しており径30、焼土の厚さ3～5 cmであった。また柱穴の追求中、勝坂式の土偶が出土した。これは住居址の南側からである。土偶はこの他に4点出土している。

311 塞の神遺跡

所在地 上水内郡信濃町富濃勘蔵1101

調査期日 昭和39年10月10日～10月13日

主催者 上水内北部高校 担当者 森島 稔

調査概要 信濃町舟岳部落より500mほど上方の緩傾斜をもった地点で、付近には湿原がある。一辺2メートルのグリット12ヶを設けて発掘した。遺物包含層は表土下15cmの褐色土層上面に達する4～5cmの黒土層下部で、楕円押型文138、山形押型文7、変形押型文7、斜縄文5、燃糸文3、沈線文5、無文1点の土器破片を出土させた。

文 献 小林孚「押型文土器の出土せる塞ノ神遺跡」信濃考古11

笹沢浩・小林孚「長野県上水内郡信濃町塞ノ神遺跡出土の押型文土器」信濃Ⅲ18の4

312 大明神原遺跡

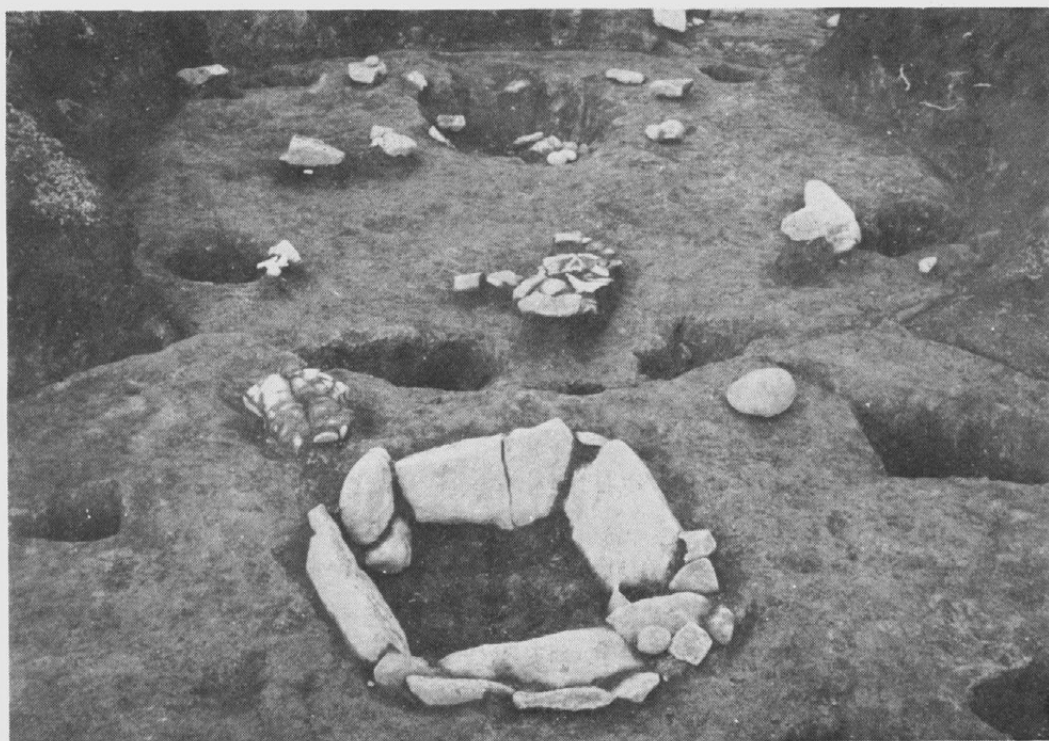
所在地 飯田市川路大明神原 5437

調査期日 昭和39年10月20日～11月20日

主催者 飯田市 遮那真周 担当者 大沢和夫

調査概要 6×5.45mの楕円形プラン堅穴1ヶが発掘された。柱穴は推定6ヶで石囲炉があり、南壁に近く埋甕が存在している。出土した土器は縄文中期の加曾利E式甕、石器としては石鍬、石錘、打製石斧がある。

文 献 遮那真周「飯田市川路大明神原遺跡発掘報告」伊那13の6.7



第45図 大畑遺跡8号、9号住居址

313 東原遺跡

所在地 南佐久郡川上村原東原

調査期日 昭和39年10月25日～11月30日

主催者 川上村公民館 担当者 八幡一郎

314 大畑遺跡

所在地 諏訪郡富士見町本郷4896、2297

調査期日 昭和39年10月30日～昭和40年4月30日

主催者 富士見町 担当者 武藤雄六

調査概要 大畑第三次調査で、縄文中期竪穴9ヶが発掘された。

文献 武藤雄六「長野県諏訪郡富士見町大畑遺跡第三次調査報告」長野県考古学会誌3

315 岡の峯遺跡

所在地 下高井郡野沢温泉村豊郷岡の峯4078

調査期日 昭和39年10月31日～11月1日

主催者 野沢温泉小学校 担当者 高橋 桂

調査概要 住居址等の遺構は検出されなかった。出土遺物は縄文中期末から後期前半にかけての型式土器が主体で、石器には打製石斧、磨製石斧、土製品として土偶の脚部が発見されている。

316 日鴨寺遺跡

所在地 茅野市泉野日鴨6859の1

調査期日 昭和39年11月1日～12月31日

主催者 茅野市 宮坂英式 担当者 宮坂英式

調査概要 縄文中期の勝坂式から後期の堀の内式(期)にかけての複合遺跡である。昭和17年には勝坂期の竪穴住居址1ヶが発掘調査されたことがあったが、今回は竪穴等の遺構を検出することはできなかった。

317 東大滝遺跡

所在地 下高井郡野沢温泉村東大滝矢ヶ沢65

調査期日 昭和39年11月7日～11月15日

主催者 飯山南高校 担当者 高橋 桂

調査概要 ピット、焼土、配石が検出されたが、明確に遺構を露呈するには至らなかった。土器は縄文後期の堀の内式が主体で、石器では打製石斧が出土している。

318 更埴条里遺跡

所在地 更埴市雨宮

調査期日 昭和39年11月22日～12月27日

主催者 長野市教育委員会 担当 齊藤 忠

調査概要 更埴市条里遺構調査団考古班は雨宮地区埋没条里遺構の全面発掘を行う。特に水の取り入れ口、落とし口の調査に重点を置いた。

文 献 長野県教育委員会編「更埴市条里遺構調査報告書」（昭和42年）

319 満島南遺跡

所在地 下伊那郡天竜村平岡 1288

調査期日 昭和40年1月3日～1月31日

主催者 飯田市大沢和夫 担当者 大沢和夫

調査概要 天竜川を西に臨む急斜面のやや平坦な地点で、長さ4.5、幅1mのトレンチを設定。

地表下30cmに大きな角礫を含む層につき当たったが、この角礫がどのような意味をもつものかについては不明である。土器片は縄文晩期後半のもので総数1000余点にのぼるがいずれも小破片で、うち92%は条痕文土器(42%)、無文土器(50%)の粗製土器、のこり8%の中に工字文、浮線文、浮線網状文、突帯文土器片がある。

文 献 丸山敏一郎「長野県下伊那郡天竜村平岡南遺跡出土遺物について」信濃Ⅲ18の4

320 深沢遺跡

所在地 松本市中山南中島深沢 6224 イ

調査期日 昭和40年1月10日～1月20日

主催者 松本市立博物館 担当者 小松 虔

調査期日 縄文中期の住居址2ヶと土師期の竪穴1ヶを調査した。第1、第3号址は円形乃至は隅丸方形プランをとるものと考えられ、南壁寄りにそれぞれ石蓋埋甕を有している。第2号址は方形プランで一隅に石組竈が設けられていた。

文 献 小松虔「長野県松本市中山深沢遺跡」日本考古学年報18

321 葦原遺跡

所在地 東筑摩郡波田村葦原 1888

調査期日 昭和40年3月10日～3月14日

主催者 松商学園高校 担当者 小松 虔

調査概要 昭和39年の第一次調査結果と合せて、3ヶの敷石住居址と2ヶの竪穴住居址が発見された。このうち興味のあるものは1号敷石住居址で、径3.4mの円形プランの敷石部を中心とする。この外縁は扁平な河原石を褐色土層中に規則的に立て並べ、内側に平坦な同じ河原石を敷いた特徴ある形態を示す。中央やや西寄りに方形石囲炉がつくられている。出土土器は縄文中期末から後期初頭に属する。

文 献 小松虔「長野県東筑摩郡波田村葦原遺跡 第一・第二次調査概報」信濃Ⅲ18の4

322 日向遺跡

所在地 諏訪郡富士見町境 6561、6618

調査期日 昭和40年3月15日～5月10日

主催者 富士見町教育委員会 担当者 武藤雄六

調査概要 宅地造成の削土作業の開始と同時に実施した調査で、縄文前期の5竪穴と中期の2竪穴を発見した。前期竪穴のプランは保存状態の悪かった4号址を除いて方形乃至長方形をとり、

3号と5号址には改増築の痕がみられた。出土土器は諸磯C式が主体をなしている。

なお第6号址は中期末、第7号址は中期初頭の竪穴で、前者からは曾利Ⅵ式、後者からは九兵衛Ⅱ式土器片が出土している。

文 献 武藤雄六「八ヶ岳南麓における縄文時代前期末の遺跡」信濃Ⅲ18の4

323 森將軍塚古墳

所在地 更埴市森大穴山

調査期日 昭和40年3月15日～4月15日

主催者 更埴市教育委員会 担当者 八幡一郎・岩崎卓也

調査概要 水田面との比高150mの山頂に築かれた全長100mほどの前方後円墳で、主体部は以前に盗掘されてしまっている。今回の調査は石室内の清掃がねらいでその結果、内部主体は後円部中央に古墳の長軸と同方向をとる全長約8m、幅2m、深さ1.6m以上の巨大な竪穴式石室で内面は全面に塗彩されていたことと、この石室を構築するために頑丈な石垣積みになる一辺6m、深さ2m以上の四壁をもつ墓壇の存在が明らかとなった。

文 献 岩崎卓也「長野県更埴市森將軍塚古墳(第1次調査)」日本考古学年報18

324 中原遺跡

所在地 塩尻市片丘中原 9850、9851、9856、9518

調査期日 昭和40年3月16日～3月20日

主催者 松本市深志高校 担当者 藤沢宗平

調査概要 縄文中期の竪穴住居址4ヶを発見。うち3ヶを完掘調査した。第1号址では埋甕炉を中心に6ヶの柱穴がめぐっており、第2号址は5.42×5.0mの規模をもつもので、大小10ヶの礫を用いた石囲炉を中心に柱穴6ヶが穿たれ、一隅に貯蔵穴が設けられている。第3号址は4.04×3.7mの規模で炉穴を中心に6ヶの柱穴が推定される。側壁の一方に石蓋埋甕があった。第4号址は径4.9mを計るが、西側に桑畑があって調査を打ちきった。

出土土器は中期初頭型式、勝坂式、加曾利E式で石器には打製石斧、敲石、凹石、石匙、石鏃があった。

文 献 藤沢宗平・小松虔「長野県塩尻市片丘中原遺跡」日本考古学年報18

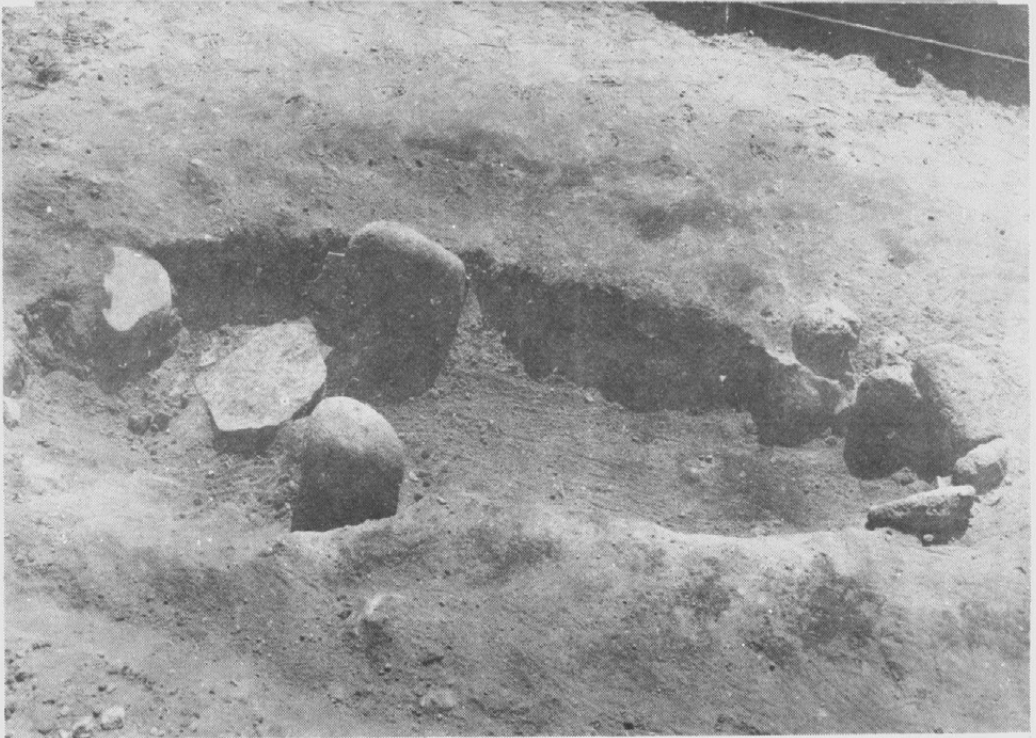
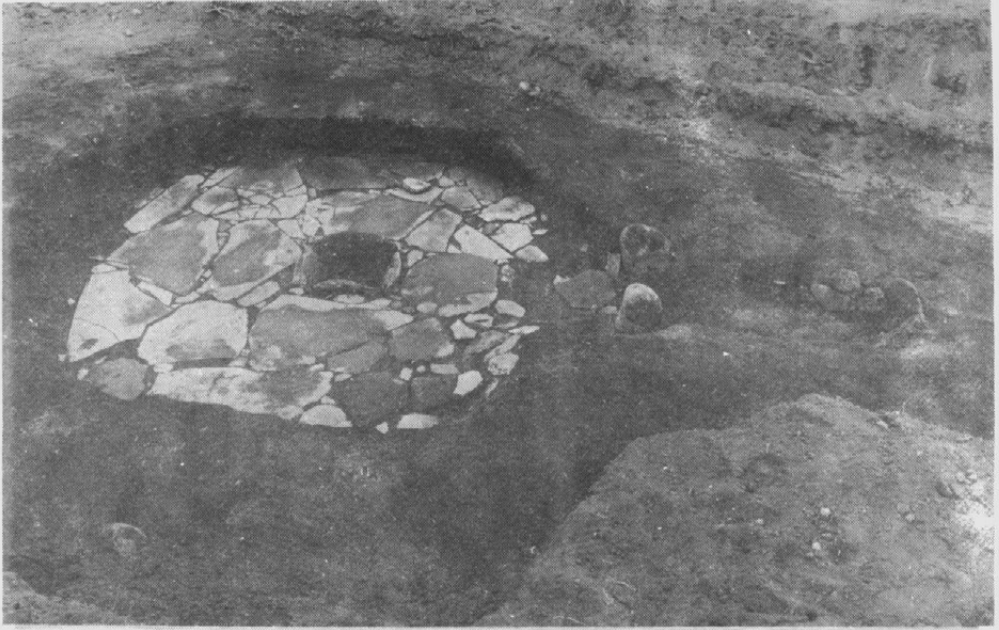
325 郷土遺跡

所在地 小諸市郷土4159の1

調査期日 昭和40年3月20日～6月10日

主催者 小諸誌教育委員会 担当者 八幡一郎

調査概要 敷石住居址と竪穴住居址が発見されている。前者は一辺2.8mのやや中ふくらみの方形プランで、火山灰層を25cm掘り下げて、そこに1.5～2cmの厚さの鉄平石を接合するよう打調して敷きつめてある。炉はほぼ中央部にあり、一辺50cmの方形石囲炉となっている。柱穴と思われるピットはなかった。竪穴住居は長辺5.3、短辺3.6mの長方形プランで、対角線の方が南北に一致する。20～25cmの壁高をもち、南隅に粘土製甕があったと思われるが、破壊



第 46 図 郷土遺跡 (上) 敷石住居址
(下) 墓 壇

されてしまっている。柱穴はない。この他に、敷石住居址の南壁に接して2.2×0.9 mの長方形プランをとる墓塚がある。肩部に石を立ててあり、足部にも石を置き、東側壁にも割石を積んである。

敷石住居址からは縄文中期加曾利E式のコップ形土器、短冊形打製石斧、竪穴住居址からは平安時代の坏、甕が出土している。墓塚からは遺物の出土を見ない。

文 献 岩崎卓也「長野県小諸市郷土遺跡」日本考古学年報18

326 英田地古墳

所在地 南佐久郡白田町田口英田地畑2414

調査期日 昭和40年3月23日～3月26日

主催者 佐久市 竹内 恒 担当者 竹内 恒

調査概要 薬用人蔘畑で天地返しを行っているうちに石室基部が露呈し、うちより蕨手刀1、直刀1、鉄鏃約10、三輪玉2、刀装具(青銅製品)1、須恵器、土師器が発見された。石室について、玄室は長さ2 m、幅1 mの箱形をなし、申し訳のない美道がついている。

文 献 竹内恒「蕨手刀を出土した南佐久郡白田町英田地畑古墳」信濃Ⅲ 18の4

327 杉久保遺跡

所在地 上水内郡信濃町野尻

調査期日 昭和40年3月25日～3月31日

主催者 松本市 樋口昇一 担当者 樋口昇一

調査概要 A・B 2本のトレンチを湖底に設定したが、遺物の分布範囲はごく限られた数m四方に集中する。地表下(湖底)20cmほどの青色粘土層中から、先土器時代の遺物である杉久保型ナイフを中心に、石器約50点が出土した。中には長さ30 cm弱の刃器も存在した。

文 献 樋口昇一・森島稔・小林達雄「湖底を掘る」科学の実験 1963. 8

328 下の原遺跡

所在地 上伊那郡高遠町上山田下の原2020

調査期日 昭和40年3月25日

主催者 河南小学校校長 担当者 林 茂樹

調査概要 開田工事中に発見された遺跡で、一種のピットが露呈された。出土遺物は土師器、須恵器甕破片、炭化物若干、そして文字不明の土印1点である。

16) 昭和 40 年度

329 保地遺跡

所在地 埴科郡坂城町南条 2289、2290

調査期日 昭和40年4月8日～4月14日

主催者 坂城町教育委員会 担当者 永峯光一

調査概要 長径5.5mほどの長楕円形状に配石があり、炭・灰の混在が顕著であった。抜歯のみ
られる人頭骨と縄文晩期前半型式の土器、石斧、石刀、石製装飾品、石冠などが出土している。

文献 関孝一「長野県埴科郡保地遺跡発掘調査概報」考古学雑誌 51 の 3

330 二本木遺跡

所在地 木曾郡日義村小沢二本木

調査期日 昭和40年4月28日～10月24日

主催者 日義村 神村 透 担当者 神村 透

調査概要 3ケの竪穴住居址と2ケのピット、及び押型文土器を包含する地点を発見している。
竪穴のうち完掘したのは2ケで、1号址は4.2×3.5mの楕円形プランで中央に小形の石囲炉、
柱穴は6ケあって、うち4ケが主柱穴と目せられる。出土土器は縄文中期初頭の型式をとって
いる。1号址は平安時代の方形の竪穴で北西壁の中央に石組竈が設けられている。ピット1、
同2は、径1.3m前後の規模のものでうちからは押型文土器片、茅山式土器片が検出されてい
る。

文献 神村透「木曾・日義村の考古学的調査(1)」信濃Ⅲ 17 の 11

331 緑ヶ丘遺跡

所在地 東筑摩郡明科町塩ヶ原 72 の 6

調査期日 昭和40年5月1日～5月23日

主催者 松本市 原嘉藤 担当者 原 嘉藤

調査概要 宅地造成で遺跡破壊が必至であったため急拠発掘調査を行ったもので、5×4mの範
囲に集石遺構が発見された。出土した遺物は弥生中期の須和田式併行の土器群である。

文献 太田喜幸・河西清光「長野県東筑摩郡明科町七貴緑ヶ丘遺跡調査」長野県考古学会研
究報告書 1

332 青木遺跡

所在地 大町市青木 21004

調査期日 昭和40年5月2日～5月7日

主催者 松本市 樋口昇一 担当者 樋口昇一

文献 樋口昇一「大町市平区青木湖周辺の遺跡調査」長野県考古学会研究報告書 1

333 物見岩遺跡

所在地 諏訪市霧ヶ峯 7718 の 13

調査期日 昭和 40 年 5 月 10 日～ 8 月 30 日

主催者 東京都 直良信夫 担当者 直良信夫

調査概要 長さ 6、巾 1.5 m のトレンチを設定し、表土・黒土・褐色土・褐色軟質ローム層・褐色硬質ローム層・赤色硬質ローム層の層序を確認した。地表から 2.4 m の深さまで遺物は出土した。もっとも、表土には見られず、黒色土層以下からブレイド、ナイフ型石器、スクレーパー、ドリルなどが出土し、いずれの層からもブレイドの出土が多く、下層にゆくに従って、コアと共に数を増した。しかし、小形の剣片やブレイド以外の石器類は褐色軟質ロームに最も多く含まれており、地表から 2.0～2.4 m の深さにかけて、多くのコア、石片などが幾つも重なって出土した。

文献 金井典美・石井則孝「長野県霧ヶ峯池のくるみ遺跡調査略報」古代 47

金井典美「長野県霧ヶ峯物見岩遺跡調査報告」考古学雑誌 52 の 2

金井典美・石井則孝・大脇潔「長野県霧ヶ峯池のくるみ先土器文化遺跡調査報告書」考古学雑誌 55 の 2

334 上の原遺跡

所在地 木曾郡日義村宮越上の原

調査期日 昭和 40 年 5 月 20 日～ 5 月 23 日

主催者 日義村 神村 透 担当者 神村 透

文献 神村透「西筑・上の原遺跡の調査」信濃考古 15

神村透「長野県日義村上の原遺跡」日本考古学年報 18

335 のたが沢遺跡

所在地 諏訪郡下諏訪町東俣 10618

調査期日 昭和 40 年 6 月 19 日～ 7 月 1 日

主催者 下諏訪町 中村竜雄 担当者 藤森栄一

調査概要 縄文中期初頭の高地性遺跡で住居址 1 ヶが発見された。住居址は炉址と北壁の一部が確認できただけで、プラン、規模については不明である。炉は南端にあり、炉内には鶏卵大～拳大の焼石があった。出土した土器は鬮場式、梨久保式、石器には磨石、凹石、黒曜石による定形化した石器、使用痕明らかな剣片、石鉄、黒曜石破片がある。

文献 中村竜雄「長野県諏訪郡下諏訪町東俣川溪谷遺跡」信濃 Ⅲ 18 の 10

336 青野原遺跡

所在地 木曾郡山口村神坂 5606 の 1

調査期日 昭和 40 年 7 月 25 日～ 10 月 24 日

主催者 山口中学校 担当者 神村 透

調査概要 縄文中期に位置する 1 号、2 号住居址と灰釉陶器を出土したイ号、ロ号住居址を発掘

した。1号址は長径3.9、短径3.6mの小規模な円形プランで中央に石囲炉があり、中期初頭の土器を出し、2号址は径4mの円形で支柱穴は4ヶあったと推察されている。時期は同じく中期初頭である。イ号址は長方形プランで南壁の東寄りに石粘土



第47図 須多ヶ峯1号墓坑

竈、ロ号址も同様長方形プランで、東壁の北壁に寄った位置に竈がつくられていた。共に火災にあっただけで炭化材が多く出土している。遺物には灰粘土陶器の他に鉄製紡錘車、吊り具鉄器がある。

文献 神村透・山田瑞穂・伊深智・伴信夫「木曾山口村青野原第二次調査及び原遺跡調査報告」信濃Ⅲ 18の5

337 鷹山遺跡

所在地 小県郡長門町大門鷹山3513

調査期日 昭和40年7月30日～8月30日

主催者 尖石考古館

担当者 宮坂英式

文献 宮坂英式・児玉司農武・宮坂虎次「鷹山遺跡第二次調査略報」信濃考古15

宮坂英式・宮坂虎次「長野県長門町鷹山遺跡」日本考古学年報18

宮坂英式・宮坂虎次「蓼科」尖石考古館研究報告2

338 須多ヶ峯遺跡

所在地 飯山市飯山須多ヶ峯7375

調査期日 昭和40年7月30日～7月31日

主催者 飯山南高校

担当者 高橋 桂

調査概要 周溝をもつ二基の土坑墓が発見された。共に弥生後期に属し、周溝の中から箱清水式の壺、甕、高坏が出土している。土坑は1号址が長軸2.9、短軸1.85mの小判形で、硬玉製大形勾玉、鉄釧が発見された。2号址は長軸3.3、短軸1.9mで同じく小判形をとっている。

文献 高橋桂「北信濃須多ヶ峯弥生式墓坑調査略報」考古学雑誌51の3

339 日影遺跡

所在地 下高井郡野沢温泉村豊郷8006の1

調査期日 昭和40年8月1日～8月30日

主催者 野沢温泉村 担当者 坂詰秀一

調査概要 スキー相談所の新築に伴い削平されるところで、トレンチを設定したところ、遺跡の主体物は工事によって既に煙滅していることが明らかにされた。出土した土器は縄文中期の土器片若干のみである。

340 わらび平遺跡

所在地 下高井郡野沢温泉村天ヶ沢65、66

調査期日 昭和40年8月1日～9月30日

主催者 野沢温泉村 担当者 坂詰秀一

341 二座遺跡

所在地 下高井郡野沢温泉村七巻二座682のイ

調査期日 昭和40年8月1日～8月30日

主催者 野沢温泉村 担当者 坂詰秀一

調査概要 2.9×2.7mの方形を呈する竪穴住居址が発見されている。炬は中央よりやや東寄りに設けられている。土器は縄文前期の上原式である。

文献 坂詰秀一「下高井野沢温泉村の二遺跡」信濃考古15
坂詰秀一「長野県野沢温泉村七ヶ巻遺跡」日本考古学年報18

342 深沢遺跡

所在地 飯山市蓮深沢3481

調査期日 昭和40年8月1日～8月3日

主催者 飯山北高校 担当者 高橋 桂

調査概要 第3次調査で縄文中期の住居址の確認と27ヶの土偶を発見した。

文献 長野県飯山北高校地歴部「深沢遺跡研究概報」（昭和41年）

343 庄の畑遺跡

所在地 岡谷市小口6476～6556

調査期日 昭和40年8月1日～8月10日

主催者 長野県教育委員会 担当者 藤森栄一

調査概要 昭和26年調査地点の隣地で、庄之畑期の石囲炉1ヶを発見した。出土遺物は縄文晩期と弥生中期初頭の土器が層位的に出土している。

文献 藤森栄一・桐原健・宮坂光昭他「岡谷市庄之畑遺跡」長野県考古学会研究報告書1
宮坂光昭「長野県岡谷市庄ノ畑遺跡」日本考古学年報18

344 高出遺跡

所在地 塩尻市高出2033～2029

調査期日 昭和40年8月3日～8月10日

主催者 長野県教育委員会 担当者 藤沢宗平

調査概要 第1地区（丘中学校敷地内）では土師期の竪穴2ヶと土壇A遺構、第2地区では平安期の竪穴1ヶ、第3地区では平安期竪穴2ヶと柱穴1ヶ、第4地区では縄文早期押型文土器の

包含層、第5地区では弥生後期の
の竪穴1ヶを発掘した。

文 献 藤沢宗平・原嘉藤・樋口昇一他「塩尻市高出遺跡とその周辺」長野県考古学会研究報告書1

345 吉2号古墳

所在地 長野市吉カウラウ
2069のイ

調査期日 昭和40年8月6日～
8月10日

主催者 長野吉田高校

担当者 米山一政

調査概要 円墳で、横穴式石室を
内蔵している。盗掘されていて、
出土遺物はなかった。



346 長縄手遺跡

所在地 小県郡東部町海野長縄
手1708

調査期日 昭和40年8月7日～
8月16日

主催者 上田染ヶ谷丘高校

担当者 小林幹男・
金井塚良一

調査概要 弥生後期の竪穴住居址

1ヶを発掘した。プランは主軸をNNW16度にとる長方形のもので、東壁6.45、西壁6.32、北壁3.75m、壁高は15～24cmであった。柱穴は6ヶで、中央とやや北側寄りに2ヶの炉址と思われる焼土があり、また南側には南北1.54、東西0.42、深さ0.43mの凹部があり玉石がつまっていた。



第48図 長縄手遺跡(上)住居址(下)土器出土状態

出土土器は、復元可能な箱清水式土器11点と多量の土器片で、器形には壺、浅鉢、甕、高環がある。

文 献 小林幹男「長野県東部町長縄手遺跡」日本考古学年報18

347 上の平古墳

所在地 上田市諏訪形中の平1557

調査期日 昭和40年8月7日～8月20日

主催者 上田高校

担当者 五十嵐幹雄

調査概要 深耕により荒されている。天井石は除去されたり、石室内に落ちこんだりしていた。

円墳で積石塚と考えられる。横穴式石室は入口が狭く、奥壁が広い。人骨数体分、鉄鏃数本、勾玉1、切子玉1、ガラス小玉7、金環2、須恵器、土師器が出土している。

文 献 五十嵐幹雄「長野県上田市上の平古墳」日本考古学年報18

348 堂垣外遺跡

所在地 伊那市伊那部 5327

調査期日 昭和40年9月4日～10月5日

主催者 伊那弥生ヶ丘高校 担当者 林 茂樹

調査概要 宅地造成によって破壊された遺跡で土師器の住居址が検出された。プランは一辺4.1 mの隅丸方形で、支柱穴4ヶが穿たれ、東壁より西に向けられて河原石を芯とし粘土でぬり固めた竈が設けられている。出土土器には灰釉陶器碗、同壺、須恵器甕、土師器壺、碗がある。

349 西浦遺跡

所在地 下高井郡野沢温泉村平林西浦 527～497

調査期日 昭和40年9月8日～9月30日

主催者 野沢温泉村 担当者 坂詰秀一

350 萱野遺跡

所在地 上伊那郡箕輪町三日町 2301

調査期日 昭和40年9月10日～9月30日

主催者 箕輪町 担当者 藤沢宗平・林 茂樹

調査概要 縄文早期の押型文土器を出土する小ピットを発掘調査した。

文献 藤沢宗平「萱野遺跡」伊那路9の10

351 城の平遺跡

所在地 茅野市蓼科城の平グラウンド

調査期日 昭和40年10月17日～10月18日

主催者 茅野市 東洋観光KK 担当者 宮坂英式

調査概要 東洋観光事業株式会社が城の平の盆地にスポーツグラウンドを施設するため、ブルドーザーで表土1 mを剥ぎとったところ、ナイフ形石器、黒曜石剣片が出土した。又、南北58、東西43 mの範囲内から23ヶの竪穴遺構を検出した。規模は長径1.5、短径0.8、深さ0.5 m前後で底中央辺には5ヶ前後の孔が穿たれている。

文献 宮坂英式・宮坂虎次「蓼科」(昭和41年)

宮坂英式・宮坂虎次「長野県茅野市蓼科高原字城之平遺跡」日本考古学年報18

352 丁字沢遺跡

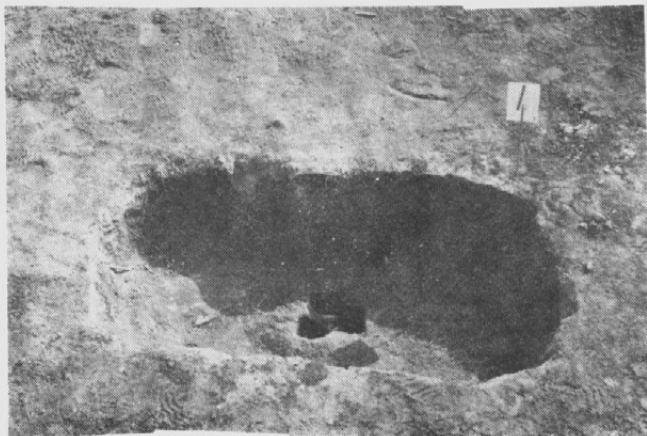
所在地 諏訪市下諏訪町丁字 3010

調査期日 昭和40年10月24日～11月24日

主催者 下諏訪町 中村竜雄 担当者 中村竜雄

文献 中村竜雄「長野県和田峠丁字沢遺跡の先土器文化」信濃Ⅲ17の10

中村竜雄「長野県和田峠丁



第49図 城の平遺跡1号竪穴

字沢遺跡先土器文化(続報) 信濃Ⅲ 20 の 4

353 日向遺跡

所在地 松本市中山坪の内日向 5156、5159

調査期日 昭和40年10月30日～11月7日

主催者 松本市立博物館 担当者 小松 虔

調査概要 4本のトレンチを設定、調査した。その結果、A・Bトレンチにおいては、地表下50cmの褐色土層中に縄文中期の住居址を確認、Cトレンチでは石組の炉址を発見、出土遺物により、縄文後期の平地式住居址の炉と推定した。

文献 小松虔「長野県松本市中山坪内遺跡」日本考古学年報18

354 志平遺跡

所在地 岡谷市川岸志平 9874

調査期日 昭和40年11月1日～11月20日

主催者 岡谷市教育委員会 担当者 中村竜雄

文献 中村竜雄「岡谷市志平遺跡の弥生式遺物」信濃考古23

中村竜雄「長野県岡谷市川岸志平遺跡」日本考古学年報18

355 井戸尻遺跡

所在地 諏訪郡富士見町境 6617

調査期日 昭和40年11月10日～12月31日

主催者 富士見町教育委員会 担当者 武藤雄六

調査概要 7ヶの堅穴住居址と堅穴遺構1、ならびに炉址1ヶを発掘した。7ヶの住居址は縄文中期の曾利Ⅰ期が2、曾利Ⅱ期が3、曾利Ⅴ期が1ヶと井戸尻Ⅰ期および後期の炉址であった。堅穴遺構は曾利Ⅱ期に属していた。

文献 武藤雄六・宮坂光昭「長野県諏訪郡富士見町井戸尻第二次調査概報」信濃Ⅲ 20 の 10

356 狐久保遺跡

所在地 上水内郡信濃町野尻狐久保 672

調査期日 昭和40年11月21日～11月28日

主催者 上水内北部高校 担当者 森島 稔

調査概要 吉松雄一氏が狐久保地籍で欠損した神子柴形石斧の一部を採集したことが調査を試みる動機となり、草木帯の中にトレンチを設定した。その結果、第一層(表土)より30～50cm下方の第4層(ローム層)中よりブレイド、ナイフ、コアなど多数の石斧・石核を検出することができた。この際注意されたことは第二層黒色土層及び第三層黒褐色漸移層中から有舌尖頭器が出土したと、数片ではあったが土器の細破片を検出したことであった。

文献 森島稔・小林孚「長野県信濃町狐久保遺跡」日本考古学年報18

357 栗林遺跡

所在地 中野市栗林松原 553、536、537

調査期日 昭和40年11月26日～11月30日

主催者 長野県教育委員会 担当者 林 茂樹

調査概要 住居址1ヶと土坑1ヶを調査した。住居址は平地式で一边ほぼ6.6m内外の隅丸方形で、摺鉢状に凹む地床炉を有していた。出土土器は弥生中期末の栗林式である。土坑は径50、深さ45cmで弥生中期末の蓋、壺形土器破片、丸石を得た。

文 献 林茂樹・金井汲次・桐原健「長野県中野市栗林遺跡第三次調査概報」信濃Ⅲ18の4

358 こうもり塚古墳

所在地 岡谷市岡谷中屋

調査期日 昭和40年11月28日～12月10日

主催者 長野県教育委員会 担当者 藤森栄一

調査概要 すでに開口している横穴式石室の清掃で、この結果、前庭部から須恵器大甕、石室内より鞍橋金具、壺釦、吊環付金具、飾金具、刀子等が発見された。

文 献 藤森栄一・宮坂光昭・桐原健・中村竜雄「岡谷市コウモリ塚古墳」長野県考古学研究報告書1

宮坂光昭「長野県岡谷市コウモリ塚古墳」日本考古学年報18

359 安源寺遺跡

所在地 中野市安源寺宮裏

調査期日 昭和40年11月28日～12月5日

主催者 中野市教育委員会 担当者 金井汲次

調査概要 国道18号線の拡張工事の施行に際して分布調査の試掘を行った。道路のカッティング面には、土師器を出す竪穴断面が3ヶ露呈していた。

文 献 金井汲次・高橋桂・桐原健他「中野市安源寺遺跡緊急発掘調査報告」長野県考古学研究報告書2

360 須多ヶ峯遺跡

所在地 飯山市飯山須多ヶ峯7375

調査期日 昭和40年12月4日～昭和41年4月3日

主催者 飯山市 高橋 桂 担当者 高橋 桂

調査概要 7月に調査された土坑墓に近接して方形プランの竪穴が発見された。中央に地床炉があり、四本の支柱穴が整然と穿たれていた。土器は古式土師器の柳町式に属する甕、小形壺石器としては砥石が出土した。

361 栃原岩陰遺跡

所在地 南佐久郡北相木村栃原277

調査期日 昭和40年12月8日～12月20日

主催者 信州大学 鈴木 誠 担当者 鈴木 誠

文 献 小松虔「栃原遺跡における考古学的調査概要」信州ローム9

鈴木誠「長野県北相木村
栃原岩陰遺跡出土人骨の
概要」信州ローム 9

鈴木誠・西沢寿晃「長野
県北相木村栃原縄文早期
遺跡出土の装飾品につい
て」信州ローム 9

鈴木誠「長野県北相木村
栃原岩陰遺跡（第一次調
査）」日本考古学年報18



362 伴野原遺跡

所在地 下伊那郡豊丘村
神稻伴野原 8371

第50図 御殿場遺跡。人面付香炉形土器出土状態

調査期日 昭和40年12月10日～昭和41年1月10日

主催者 飯田市 今村善興 担当者 大沢和夫

調査概要 国分式土師器を出土した1号住居址を完掘、縄文中期初頭の土器片を出土したイ号住居址の確認を行った。

1号址は5.8×5.2mの方形プランで4ケの主柱穴が整然と穿たれ、東壁中央に竈が構築され、更に壁に沿って合計212ケの小孔が穿たれているのが注意された。

文献 今村善興「豊丘村伴野原第一号住居址」伊那14の3

363 御殿場遺跡

所在地 伊那市富泉池窪 7392

調査期日 昭和41年1月21日～3月25日

主催者 伊那市教育委員会 担当者 藤沢宗平・林 茂樹

調査概要 15ケの堅穴が調査されている。このうち、縄文中期の勝坂式、曾利E式に属するものが13ケ、平安時代の竈を有する堅穴が1ケある。このうち、縄文中期の第12号堅穴住居址よりは人面付香炉形土器が完形の状態で検出された。

文献 伊那市教育委員会「御殿場遺跡緊急発掘調査概報」伊那路11の1

364 伊勢宮（中条）遺跡

所在地 長野市篠の井塩崎 2372

調査期日 昭和41年1月30日～2月3日

主催者 諏訪市 桐原 健 担当者 桐原 健

調査概要 深耕中遺物の出土がみられたため、調査のはこびとなった。この地域は千曲川の自然堤坊で、耕土下には1mほどの砂層があり、その下に砂質シルトがある。この層の上面は比較的堅緻で、土師後期の住居址が構築されていたらしいふしうかがわれた。

この砂質シルト層の厚みは90cmで、その下に灰色シルト層が存在するが、この灰色シルト層の上面にも遺構が存在した。遺跡の全貌は明確にすることができなかったが、弥生後期箱清水式壘形土器上半部を用いた埋甕炉が検出された。ただし附近にピットが2、3存在するがその関係は把握せず、住居址としてとりあつかうことはむづかしい。また、炉址の南に長方形プランをとる落ちこみがあり、地床炉も発見されたが、これも住居址として取扱えられるか、疑問がのこる。

365 大村廃寺址

所在地 東筑摩郡本郷村大村3～4

調査期日 昭和41年2月13日～2月20日

主催者 長野県教育委員会 担当者 原 嘉藤

文献 原嘉藤「長野県東筑摩郡本郷村大村惣社地区での調査」長野県考古学会研究報告書1

366 君石団地遺跡

所在地 塩尻市片丘下滝沢4883

調査期日 昭和41年2月27日～3月10日

主催者 長野県教育委員会 担当者 鈴木誠

文献 鈴木誠・藤沢宗平・小松虔「塩尻市片丘区君石遺跡及びその周辺遺跡の調査」長野県考古学会研究報告書1

367 上田国分寺址

所在地 上田市国分仁王堂1156－1818

調査期日 昭和41年3月10日～3月31日

主催者 上田市長小山一平 担当者 斉藤 忠

調査概要 寺域の南縁地区、西縁地区、北縁地区、東縁地区など寺の四至の究明に主力を置いた。

文献 上田市教育委員会「信濃国分寺跡 第3次発掘調査概報(付、第2次発掘調査概報)」
斉藤忠・内藤政恒「信濃国分寺跡第二次緊急発掘調査概報」信濃Ⅲ18の12

368 葦原遺跡

所在地 東筑摩郡波田村葦原1889

調査期日 昭和41年3月10日～3月16日

主催者 松商学園高校 担当者 藤沢宗平

調査概要 縄文中期後半から後期初頭にかけての遺物包含層を発掘調査した。

369 横山城遺跡

所在地 松本市内田横山城4651

調査期日 昭和41年3月17日～3月20日

主催者 松本市 藤沢宗平 担当者 藤沢宗平

調査概要 弥生中期前半の土器を出す住居址状遺構が発見されたが、そのプラン、構造は明確には把握できなかった。出土土器は条痕文系の土器が主体を占め、石器としては、石鏃、打製石

斧、敲製石斧、石剣、打製石包丁などが発見されている。

文 献 藤沢宗平「長野県松本市横山城遺跡」信濃Ⅲ 18の7

370 駒形遺跡

所在地 茅野市米沢5079 - 5091

調査期日 昭和41年3月20日～4月30日

主催者 蓼科高原観光KK 担当者 宮坂英式

調査概要 縄文中期の集落址で、竪穴住居址が2ヶ発見されている。出土土器は加曾利E式の深鉢形土器3点、石器として打製石斧、磨製石斧、石匙、凹石が存在した。

371 上の原遺跡

所在地 岡谷市今井上の原224

調査期日 昭和41年3月24日～3月30日

主催者 岡谷市教育委員会 担当者 中村竜雄

調査概要 近時、遺跡付近が宅地化されるによって調査を行った。まず、トレンチを設定したところ地表下30～40cmの層位に縄文早期の楕円、山形押型文土器片が出土し、次いで、この層を掘りこんで小ピットの穿たれているのを発見した。ピットは径60cm、深さ80cmで、この中に縄文後期堀の内Ⅱ式の鉢形土器が2ヶ、小形の深鉢形土器が1ヶ存在していた。

372 赤土市兵衛沢古窯

所在地 東筑摩郡四賀村板場1327

調査期日 昭和41年3月26日～4月1日

主催者 松塩筑郡誌編纂会 担当者 原嘉藤

調査概要 道路改修工事によって発見された須恵器の窯址で、全長6mほどの登窯で、須恵器、環、甕破片等が出土している。

IV 遺跡発見届一覧

- | | |
|---|---|
| <p>1 種類 包蔵地
所在地 南安曇郡三郷村浄光寺
発見期日 昭和25年12月
発見者 豊科町 中田令夫</p> <p>2 種類 廃寺址(大村廃寺址)
所在地 東筑摩郡本郷村浅間細田 434
発見期日 昭和26年2月4日
発見者 本郷村村長 宇留賀政美</p> <p>3 種類 包蔵地(百瀬遺跡)
所在地 松本市寿豊丘 1316
発見期日 昭和26年3月24日
発見者 松本市寿豊丘 藤森享
調査概要 方形プランを呈する弥生中期後半の住居址1ヶが耕作中に発見された。出土した土器は壺、甕、鉢、高坏 50点以上、石器としては石包丁、太型蛤刃石斧が検出された。
文献 藤沢宗平「長野県東筑摩郡寿村百瀬弥生式遺跡調査概報」信濃Ⅲ 3の8</p> <p>4 種類 包蔵地(前山遺跡)
所在地 上田市塩田町前山
発見期日 昭和26年4月10日
発見者 上田市塩田町 増島良三</p> <p>5 種類 窯址(山の神窯址)
所在地 小県郡丸子町依田生田 5290
発見期日 昭和26年6月28日
発見者 小県郡丸子町依田 吉池三八郎</p> <p>6 種類 古墳(八つ塚古墳)
所在地 長野市新諏訪町 183
発見期日 昭和26年7月20日
発見者 長野市新諏訪町 山本正明</p> | <p>7 種類 包蔵地
所在地 須坂市須坂小山 2559
発見期日 昭和26年8月25日
発見者 須坂市須坂小山 山本安治</p> <p>8 種類 包蔵地(小原遺跡)
所在地 下伊那郡高森町下市田 2195
発見期日 昭和26年8月28日
発見者 高森町町長 関川源一</p> <p>9 種類 古墳(大平古墳)
所在地 下伊那郡阿南町大下条大平 104
発見期日 昭和26年8月29日
発見者 阿南町大下条 104 勝野初一</p> <p>10 種類 包蔵地(西堀遺跡)
所在地 岡谷市西堀 9115
発見期日 昭和26年12月7日
発見者 岡谷市西堀 9113 高林孫三郎</p> <p>11 種類 包蔵地(西堀遺跡)
所在地 岡谷市西堀 9230
発見期日 昭和27年7月9日
発見者 岡谷市西堀 9230 武井万寿也</p> <p>12 種類 住居址
所在地 上伊那郡中川村
発見期日 昭和27年9月5日
発見者 大島英一</p> <p>13 種類 古銭出土(飯沼洞遺跡)
所在地 東筑摩郡本郷村浅間 1315
発見期日 昭和27年10月7日
発見者 本郷村浅間 深井考吉</p> <p>14 種類 古墳
所在地 飯田市座光寺
発見期日 昭和27年11月26日
発見者 飯田市座光寺 宮沢恒之</p> |
|---|---|

- 15 種類 古墳
所在地 松本市里山辺
発見期日 昭和27年12月15日
発見者 横山政雄
- 16 種類 包蔵地(伊久間原遺跡)
所在地 下伊那郡喬木村伊久間菰立
発見期日 昭和28年1月26日
発見者 喬木村 大原玉依
- 17 種類 寺院址(明科廃寺址)
所在地 東筑摩郡明科町中川手石堂3774
発見期日 昭和28年1月27日
発見者 明科町 尾崎秀男
- 18 種類 古窯(金井原古窯)
所在地 飯田市座光寺上野金井原
発見期日 昭和28年3月1日
発見者 飯田市座光寺 宮沢恒之
調査概要 全長8.2、巾1m、傾斜25度
で煙道部を欠いている。床は登窯で段は
なく瓦破片を置いていて段をつくってい
た。平瓦、丸瓦、須恵器が出土している。
文 献 松島透「長野県下伊那郡金井原
窯址」日本考古学年報6
- 19 種類 包蔵地(大家上遺跡)
所在地 下伊那郡豊丘村河野大家上38,39
発見期日 昭和28年3月3日
発見者 豊丘村 今村正次
- 20 種類 古墳(東養寺1号墳)
所在地 下伊那郡豊丘村神稲東養寺676
発見期日 昭和28年3月3日
発見者 豊丘村 岩崎太郎
- 21 種類 古墳(八つ塚古墳)
所在地 長野市篠ノ井塩崎4633
発見期日 昭和28年3月16日
発見者 長野市篠ノ井塩崎 宮本真男
- 22 種類 包蔵地(渡瀬遺跡)
所在地 下伊那郡高森町山吹大沢7400の
83
発見期日 昭和28年3月26日
発見者 高森町 中平修一
- 23 種類 包蔵地(上条遺跡)
所在地 下高井郡山の内町平穩上条
発見期日 昭和28年3月27日
発見者 山の内町 池田一二
- 24 種類 包蔵地
所在地 松本市新、秋葉原
発見期日 昭和28年4月7日
発見者 松本市新 手塚隆夫
- 25 種類 古墳(羽場森2号墳)
所在地 上伊那郡箕輪町東箕輪1150
発見期日 昭和28年4月10日
発見者 箕輪町 柴恵志
調査概要 土地改良の道路作りによって破壊さ
された古墳で、径17mほどの円墳で、南
南面に開口する横穴式石室を有していて、
石室内には塗彩の痕がのこっていた。出土
品には轡、直刀、丸玉、切子玉、金環、土
師器、須恵器がある。
- 26 種類 寺院址(込山廃寺址)
所在地 埴科郡坂城町込山6234の1
発見期日 昭和28年5月22日
発見者 坂城町 谷川俊雄
- 27 種類 古墳
所在地 長野市松代東条管間東管間16
発見期日 昭和28年7月5日
発見者 長野市松代町 春日三津夫
調査概要 積石塚で墳丘の中央部に箱式石棺
式内部主体がある。直刀、刀子、鉄鏃、切
子玉、土師器が出土している。
文 献 米山一政「松代町菅間古墳調査報

- 告書」埴科郡北埴職員会(昭29年)
- 28 種 類 包蔵地(藤内遺跡)
 所在地 諏訪郡富士見町落合烏帽子
 発見期日 昭和28年9月28日
 発見者 富士見町 小平辰夫
- 29 種 類 古瓦出土地
 所在地 長野市元善町
 発見期日 昭和28年10月10日
 発見者 長野市 吉川久治
 調査概要 仁王門基壇から約7m北の参道石敷の東端から始まって、東の方河原崎町に通ずる約60mの間の道路の真下で、地表面下1.4~1.5mの粘土に灰が混じったかと思われる黒土層の中から丸瓦の瓦当4、平瓦の唐草瓦3ヶ分が出土した。丸瓦の瓦当は様式上からは飛鳥時代末から白鳳時代にかけて差つかないが、正しくは飛鳥時代様式を有する白鳳時代のものとすべきであろう。
- 文 献 米山一政「善光寺瓦と善光寺の草創」地方研究論叢所収
- 30 種 類 包蔵地(箕輪遺跡)
 所在地 上伊那郡箕輪町箕輪三日町
 発見期日 昭和28年11月
 発見者 箕輪町教育委員会
 調査概要 遺構としては現在の灌漑用水の片側ないし両側に棒杭が間隙なく打ちこまれてあり、その配列の延長は4km余にのぼっている。出土遺物としては、縄文晩期、弥生中期、後期、古式土師器、須恵器、石器では抉入片刃石斧、そして木製品として鋏、鋤、田下駄、田舟、木椀、下駄、建築用材、祭祀関係のものとしての人形があげられる。
- 文 献 藤沢宗平「長野県上伊那郡箕輪

- 遺跡について」信濃Ⅲ7の2
- 31 種 類 包蔵地
 所在地 長野市返目市道
 発見期日 昭和29年2月26日
 発見者 長野市 多田宣弘
- 32 種 類 包蔵地(床尾中央第4遺跡)
 所在地 塩尻市宗賀床尾1900
 発見期日 昭和29年3月29日
 発見者 旧宗賀村教育委員会
- 33 種 類 包蔵地
 所在地 飯田市松尾4925
 発見期日 昭和29年5月19日
 発見者 飯田市松尾 松田春雄
- 34 種 類 古墳(桜ヶ丘古墳)
 所在地 東筑摩郡本郷村浅間飯沼洞1315
 発見期日 昭和29年6月3日
 発見者 本郷村 三浦忠夫
- 35 種 類 包蔵地(熊野神社遺跡)
 所在地 岡谷市川岸三沢熊野神社
 発見期日 昭和29年7月3日
 発見者 岡谷市川岸 横田秋太郎
- 36 種 類 包蔵地(伊勢宮遺跡)
 所在地 長野市篠ノ井塩崎2475
 発見期日 昭和29年12月25日
 発見者 長野市篠ノ井 倉石茂富
- 37 種 類 包蔵地(大原遺跡)
 所在地 上伊那郡箕輪町福与大原1986の6
 発見期日 昭和29年12月
 発見者 箕輪町 小川守人
- 38 種 類 包蔵地(矢田尻遺跡)
 所在地 上伊那郡箕輪町福与矢田尻350
 発見期日 昭和27年12月
 発見者 箕輪町 小川守人

- 39 種類 包蔵地
所在地 塩尻市広丘吉田川西 51 の 2
発見期日 昭和 29 年
発見者 広丘吉田 百瀬正作
- 40 種類 包蔵地
所在地 北佐久郡望月町布施大黒山
発見期日 昭和 30 年 3 月 20 日
発見者 望月町教育委員会
- 41 種類 包蔵地(四ツ谷遺跡)
所在地 長野市松代町
発見期日 昭和 30 年 7 月 31 日
発見者 長野市松代 中島角太郎
- 42 種類 包蔵地(中野尻遺跡)
所在地 松本市和田中野尻 3871 の 5
発見期日 昭和 30 年 11 月 29 日
発見者 松本市 本郷己津夫
- 43 種類 包蔵地(古屋敷遺跡)
所在地 東筑摩郡本郷村横田
発見期日 昭和 31 年 2 月
発見者 本郷村 汲田実
- 44 種類 包蔵地(洞遺跡)
所在地 東筑摩郡山形村 64 の 2
発見期日 昭和 31 年 11 月 2 日
発見者 山形村教育委員会
- 45 種類 包蔵地
所在地 松本市和田古城 567
発見期日 昭和 32 年 4 月 3 日
発見者 松本市 上条弘
- 46 種類 包蔵地(本町五丁目遺跡)
所在地 松本市本町 日銀松本支店
発見期日 昭和 32 年 4 月 3 日
発見者 松本市 上条弘
文献 藤沢宗平「松本市大柳町所在低湿地遺跡」 信濃Ⅲ 9 の 10

- 47 種類 包蔵地
所在地 長野市信更吉原
発見期日 昭和 32 年 4 月 15 日
発見者 長野市信更 大沢甲子郎
文献 原嘉藤「長野県更級郡信更村吉原遺跡について」信濃Ⅲ 10 の 4
- 48 種類 古墳(貴船神社古墳)
所在地 北佐久郡望月町協和 貴船神社内
発見期日 昭和 32 年 4 月 24 日
発見者 望月町 菊池勝太
- 49 種類 古墳
所在地 東筑摩郡明科町
発見期日 昭和 32 年 5 月 17 日
発見者 明科町 大塚清一
- 50 種類 包蔵地(井刈遺跡)
所在地 東筑摩郡四賀村五常 7728
発見期日 昭和 33 年 3 月 26 日
発見者 四賀村教育委員会
調査概要 30×20m の範囲にその一部分があらわれた。遺構は立石を有する配石址で、遺構を覆う土や石の間隙から多量の後期縄文土器片と共に石鏃、磨製石斧、石皿が検出された。
文献 大場磐雄、永峯光一、原嘉藤「長野県東筑摩郡四賀村井刈遺跡調査概報」 信濃Ⅲ 15 の 12
- 51 種類 包蔵地
所在地 南佐久郡南牧村海尾ハケ岳 1685
発見期日 昭和 33 年 4 月 12 日
発見者 南牧村 駒木博継
- 52 種類 中世墳墓址
所在地 長野市大門 小野電機店前
発見期日 昭和 33 年 6 月 7 日
発見者 長野市 小林和夫
調査概要 地下ケーブル設置の際に石造五輪

- 塔が多量に出土した。鎌倉期から室町期にかかるものと思われる。
- 53 種類 包蔵地(上沢東沖遺跡)
所在地 上田市国分上沢東沖
発見期日 昭和35年6月15日
発見者 上田市教育委員会
- 54 種類 古銭出土地
所在地 大町市大町上仲町 4131 商工信用組合大町支店
発見期日 昭和33年7月29日
発見者 大町市 渡辺敬三
- 55 種類 包蔵地(北部中学校校庭遺跡)
所在地 茅野市湖東 新井下
発見期日 昭和33年8月23日
発見者 茅野市 宮坂英式
- 56 種類 古墳(桑原古墳)
所在地 諏訪市四賀桑原 6531
発見期日 昭和33年11月22日
発見者 諏訪市 松木広
- 57 種類 包蔵地(本町五丁目遺跡)
所在地 松本市本町5の63 信光石油KK
発見期日 昭和33年11月25日
発見者 松本市 信光石油KK
- 58 種類 寺院址(盛蓮寺址)
所在地 大町市社日向 4135
発見期日 昭和43年3月13日
発見者 大町市教育委員会
- 59 種類 包蔵地
所在地 塩尻市宗賀 5097の3
発見期日 昭和35年1月23日
発見者 宗賀区 清沢玄一
- 60 種類 包蔵地
所在地 須坂市南小河原町 641
発見期日 昭和35年3月24日
発見者 須坂市 土屋重一郎
- 61 種類 城址(大峯山城址)
所在地 長野市大峯山 1612
発見期日 昭和35年8月22日
発見者 長野市教育委員会
- 62 種類 古瓦出土地
所在地 長野市元善町仁王門横
発見期日 昭和35年9月26日
発見者 長野市教育委員会
- 63 種類 住居址(乗落遺跡)
所在地 下水内郡栄村北信乗落
発見期日 昭和35年10月14日
発見者 下水内郡豊田村 神田五六
調査概要 山上にある平安時代の竪穴住居址が水路工事で破壊されたが、その際土師器と共に灰釉陶器の碗や鉄滓、そして径9cmの花双鳥八稜鏡一面が発見された。
文献 桐原健「平安期にみられる山地居住人の遺跡」 信濃Ⅲ 20の4
- 64 種類 単独出土(柴宮遺跡)
所在地 塩尻市大門 357
発見期日 昭和35年10月28日
発見者 塩尻市 小松多喜雄
調査概要 大門神社の境内に大門保育園を新築する。その基礎工事の際に銅鐸1点が出土した。地表下36cmの黒土層下にあるソフトロームの褐色土層中に鈕部を北に、下部を南方にしておよそ16度の傾斜で鱗を上部にして埋没していたことがわかった。付近からは弥生後期の粗い刷毛目のある土器片、須恵器、三ヶの石が出土している。銅鐸は総高64.2、高高18.5、肩部長径17.5、短径13、底部長径28.9、短径16.85cmを計る六区劃袈裟禪文で完全である。
文献 大場磐雄、原嘉藤「長野県塩尻市柴宮発見の銅鐸」 信濃Ⅲ 13の4
- 65 種類 包蔵地(山辺団地遺跡)
所在地 松本市里山辺荒町
発見期日 昭和35年11月28日
発見者 松本市 下川頼人
- 66 種類 包蔵地(天神山遺跡)
所在地 更級郡上山田町新山越道 1444
発見期日 昭和35年12月1日



第 51 図 長野市安茂里所在古墳出土獣文鏡

発見者 上山田町 小山茂樹

67 種類 包蔵地(灰原遺跡)

所在地 長長野市信更灰原大上 918～919

発見期日 昭和 35 年 12 月 29 日

発見者 信更区 大沢文弥

68 種類 中世墳墓

所在地 長野市川中島町原 925

発見期日 昭和 36 年 2 月 28 日

発見者 川中島町 大久保

69 種類 包蔵地(湯の入遺跡)

所在地 長野市篠ノ井湯の入 3322

発見期日 昭和 36 年 3 月 8 日

発見者 旧篠ノ井教育委員会

70 種類 古墳

所在地 長野市上松駒形東平

発見期日 昭和 36 年 5 月 22 日

発見者 長野市 熊井英次

調査概要 円墳で狭長な竪穴式石室を南北方向に内蔵していた。東壁は自然の大石を使用し、西側は小口積みになっていた。直刀、刀子、鉄鏃、金環、金鈴、管玉が出土している。

71 種類 古墳

所在地 長野市平柴北の原古新田 217

発見期日 昭和 36 年 6 月 20 日

発見者 長野市教育委員会

調査概要 墳丘は径 7～8、高さ 1 m で内部主体は小形竪穴式石室と考えられる。副葬品として径 15cm の仿製獣形鏡 1 面と鉄劍破片が発見されている。又、埴輪円筒片も採集されている。

72 種類 古墳(フネ古墳)

所在地 諏訪市中州神宮寺フネ

発見期日 昭和 36 年 9 月 9 日

発見者 諏訪市 藤森栄一

調査概要 舌状にのびた支脈の先端に設けられた方形のプランをとるらしい古墳で、内部主体は二ヶ並列した粘土槨で、装身具として鏡 2、管玉 2、小玉 71、鉄製釧 1、銅釧 2、武器として直刀 8、鉄劍 19、鉄鉾 2 鉄鏃 8、刀子 9、農工具として鉄斧 1、鑿 1、鉈 5、鎌 4、砥石 4 が副葬されていた。このうち鉄製釧には角がついており、直刀の中には素環刀が混り、鉄劍中には曲刃劍が 2 本もふくまれている。

文献 藤森栄一、宮坂光昭「諏訪上社フネ古墳」考古学集刊 3 の 1

73 種類 包蔵地

所在地 小諸市塩野下荒田 2600

- 発見期日 昭和36年9月12日
 発見者 小諸市 内堀巖
- 74 種類 包蔵地(なびゆ沢遺跡)
 所在地 小県郡丸子町西内大塩なびゆ沢
 発見期日 昭和36年11月17日
 発見者 丸子町教育委員会
 調査概要 石組竈を有する住居址が破壊された。出土した土器は土師器甕、高台付皿、壺、埴と須恵器1点で、この他にモモの実が検出されている。
- 文献 小山田仁、小林幹男「長野県小県郡丸子町西内地方の遺跡——特になびゆ沢遺跡の調査について」信濃Ⅲ 14の5
- 75 種類 住居址(有尾遺跡)
 所在地 飯山市飯山3527
 発見期日 昭和35年11月23日
 発見者 飯山市 前沢広光
 調査概要 石組竈をもつ方形プランの住居址が発見された。出土した土師器は鬼高式に属する甕、甗である。
- 文献 飯山南高校考古学クラブ「長野県飯山市有尾遺跡調査概報」信濃Ⅲ 13の12
- 76 種類 包蔵地
 所在地 北佐久郡浅科村桑山1244
 発見期日 昭和36年12月15日
 発見者 浅科村 依田英房
- 77 種類 窯址(染屋窯址)
 所在地 上田市古里前城2229～2231
 発見期日 昭和38年2月6日
 発見者 上田市 堀込義雄
- 78 種類 古墳
 所在地 松本市中山仁能田山
 発見期日 昭和38年5月30日
 発見者 松本市 上条泰明
- 79 種類 包蔵地(郷土遺跡)
 所在地 小諸市甲4159の1
 発見期日 昭和38年8月1日
 発見者 小諸市 草間正三
- 80 種類 包蔵地(大久保遺跡)
 所在地 上伊那郡宮田村5721の1
 発見期日 昭和38年11月27日
 発見者 宮田村 太田保
- 81 種類 包蔵地(狐久保遺跡)
 所在地 駒ヶ根市東伊那狐久保
 発見期日 昭和38年12月12日
 発見者 駒ヶ根市教育委員会
- 82 種類 窯址(小白井古窯)
 所在地 飯田市竜丘駄科小白井
 発見期日 昭和39年1月15日
 発見者 飯田市 大沢和夫
- 83 種類 包蔵地(渋川Ⅳ遺跡)
 所在地 茅野市北山滑忍沢～笹平5513
 発見期日 昭和39年4月28日
 発見者 茅野市 宮坂英式
- 84 種類 包蔵地(横尾遺跡)
 所在地 南佐久郡川上村御所平横尾
 発見期日 昭和39年5月1日
 発見者 川上村教育委員会
- 85 種類 古墳(武富佐古墳)
 所在地 上水内郡新州新町竹房大門525
 発見期日 昭和39年5月27日
 発見者 信州新町教育委員会
 文献 「武富佐古墳」信州新町教育委員会
- 86 種類 包蔵地(原遺跡)
 所在地 木曾郡山口村1647の47
 発見期日 昭和39年7月1日
 発見者 山口村 鈴木兼平

- 87 種類 包蔵地(大深山遺跡)
所在地 南佐久郡川上村大深山西原 944
発見期日 昭和 39 年 9 月 15 日
発見者 川上村 大深山遺跡保存会
- 88 種類 包蔵地(片羽下遺跡)
所在地 諏訪市上諏訪片羽下 900
発見期日 昭和 39 年 11 月 30 日
発見者 諏訪市教育委員会
文献 藤森栄一、桐原健、宮坂光昭「諏訪市片羽町の低地性遺跡調査報告」信濃Ⅲ 17 の 4
- 89 種類 包蔵地
所在地 茅野市米沢京塚 7171
発見期日 昭和 40 年 3 月 10 日
発見者 茅野市 帯川栄
- 90 種類 包蔵地(下の原遺跡)
所在地 上伊那郡高遠町上山田下の原 2020
発見期日 昭和 40 年 3 月 25 日
発見者 駒ヶ根市 林茂樹
- 91 種類 包蔵地(根岸遺跡)
所在地 伊那市伊那部根岸 3303
発見期日 昭和 40 年 8 月 11 日
発見者 伊那市教育委員会

- 92 種類 包蔵地(狐久保遺跡)
所在地 駒ヶ根市東伊那 997 の 3
発見期日 昭和 40 年 9 月 5 日
発見者 箕輪町 堀口貞幸
- 93 種類 包蔵地(芝垣外遺跡)
所在地 伊那市伊那部芝垣外 5280 の 5
発見期日 昭和 40 年 9 月 21 日
発見者 伊那市教育委員会
- 94 種類 古墳
所在地 長野市安茂里 3782
発見期日 昭和 40 年 12 月 10 日
発見者 長野市 大井忠男
調査概要 家を改造するにつき、畑地の土取りを行ったところ、相当深いところに竪穴式石室を発見した。出土遺物はみられなかった。
- 95 種類 包蔵地(宮平遺跡)
所在地 北佐久郡御代田町豊昇宮平
発見期日 昭和 40 年 12 月 15 日
発見者 御代田町教育委員会
- 96 種類 包蔵地(塩崎遺跡)
所在地 長野市篠ノ井塩崎 2372
発見期日 昭和 41 年 3 月 12 日
発見者 旧篠ノ井教育委員会

V 長野県考古学文献目録

- 凡 例
- A 考古学全般
 - B 先土器時代
 - C 縄文時代
 - D 弥生時代
 - E 古墳時代
 - F 古墳時代以降

年		題 目	編 著 者	雜 誌 名
昭 1	A	考古学雑感	一 志 茂 樹	信濃Ⅲ 2の7
25年 2	〃	諏訪郡の史跡畧説	市 村 威 人	〃 2の11
3	〃	考古学的に見た木曾谷の史前文化	藤 沢 宗 平	〃 2の7
4	〃	長野県東筑摩郡宗賀村平出遺跡調査概報	大場磐雄、原嘉藤	〃 2の1
5	〃	長野県東筑摩郡宗賀村平出遺跡(第一次調査概報)	〃 〃	〃 2の7
6	〃	東日本土師式住居址地名表	大 場 磐 雄	〃 〃
7	C	八ヶ岳西麓与助尾根先史聚落の形成についての一考察 ^上 _下	宮 坂 英 式	考古学雑誌 36の3、4
8	〃	岡谷市下り林遺跡の早期縄文式土器	戸 沢 充 則	信濃Ⅲ 2の7
9	〃	長野県北安曇郡平村野口上原遺跡概報	川戸彰、椎名仙卓	〃
10	〃	長野県内の縄文文化諸磯式遺跡	宮 坂 英 式	〃 2の10
11	〃	土偶一つ	今 井 広 亀	〃 2の12
12	〃	日本原始陸耕の諸問題	藤 森 栄 一	歴史評論 4
13	〃	長野県殿村発見の一異形石器	青 木 茂 他	古代学研究 2
14	〃	与助尾根集落小考	手 塚 昌 孝	史実誌 4
15	〃	日本最古の住居生活	宮 坂 英 式	〃
16	〃	与助尾根発見の一釣手土器	青 木 茂 人	〃
17	〃	豊平村与助尾根遺跡集落図	史 実 会	〃
18	〃	与助尾根発見の新資料	戸 沢 充 則	〃
19	〃	縄文中期の集落立地について	藤 森 栄 一	〃
20	D	東日本における弥生式文化の研究	神 田 五 六	信濃Ⅲ 2の7
21	〃	長野県弥生式文化流入の経路試論	五 十 嵐 幹 雄	〃
22	〃	特殊な弥生式土器	大 沢 和 夫	〃
23	〃	信州大学繊維学部保存の弥生式土器	五 十 嵐 幹 雄	〃 2の12
24	〃	所謂阿島式土器の新資料	戸 沢 充 則	古代学研究 3

年		題 目	編 著 者	雜 誌 名
25	E	長野県小県郡和村右近塚発掘概報	吉田章一郎 市川健二郎	考古学雑誌36の5
26	〃	古墳に上代の開拓を探る	一志茂樹	信濃Ⅲ 2の1
27	〃	長野県小県郡和村右近塚の発掘	八幡一郎	〃 2の7
28	〃	高岡古墳群	市村咸人	〃 2の7、2の8
29	〃	長野県小県郡和村八幡社前の古墳	箱山貴太郎	〃 2の10
30	〃	長野県海善寺古墳人骨の歯牙	大付勝敏	人類学輯報 4
31	F	諏訪神社上社の成因を探る	今井黙夫	信濃民友社
昭 26年	A	下水内における地名ならびに遺物表	森山茂夫	古代文化1
2	C	長野県梨久保遺跡調査報告	戸沢充則	諏訪考古学 7
3	〃	宮川村晴ヶ峯の土器	戸宮沢充則 久久昭	〃
4	〃	諏訪市百姓地遺跡発掘調査	松沢亜生 藤森結	〃 6
5	〃	長野県諏訪郡富士見村南原山遺跡徳久利台址調査概報	宮坂英弼	信濃Ⅲ 3の11
6	〃	長野県西筑摩郡日義村大原遺跡	浦沢美行	〃 3の12
7	〃	長野県下水内郡豊井村南大原縄文諸磯式遺跡概報	神田五六	〃 3の8
8	〃	長野県北安曇郡平村上原遺跡第一次調査	猪田文紀、大場 磐雄 他	〃 3の7
9	〃	長野県上伊那郡伊那村遺跡第一次調査	友野良一、大場 磐雄 他	〃 3の6
10	〃	長野県上伊那郡伊那村遺跡復元住居址について	藤島亥治郎、友 野良一 他	〃 3の11
11	〃	下伊那郡川路村今洞先史遺跡畧報	今村賢司	諏訪考古学 6
12	〃	伊久間原遺跡出土半磨製石鏃について	松島透	〃
13	D	信濃北原遺跡調査概報	戸沢充則 松島透	〃
14	〃	信濃北原遺跡出土土器の考古学的位置	藤森栄一	〃
15	〃	双口弥生式土器	大沢和夫	〃
16	〃	長野県東筑摩郡寿村百瀬弥生式遺跡調査概報	藤沢宗平	信濃Ⅲ 3の8
17	E	信濃国の古墳群とその性格	大場磐雄	上代文化 21
18	〃	東部日本土師式住居址一覧表	〃	信濃Ⅲ 3の6
19	〃	長野県東筑摩郡平出遺跡第二次調査	原嘉藤、大場磐 雄 他	〃 3の2
20	〃	長野県東筑摩郡平出遺跡第三次調査	〃 〃	〃 3の7
21	〃	平出遺跡の微地形学的立地環境	井関弘太郎	〃 3の2
22	〃	平出遺跡の自然遺物	直良信夫	〃 〃
23	〃	平出遺跡の緑釉水瓶	小山富士夫	〃 〃
24	〃	平出遺跡における二、三の問題	一志茂樹	若木考古 8
25	〃	平出遺跡 15号址竈の磁気方位測定	小林国夫	信濃Ⅲ 3の7
26	〃	平出遺跡周辺の史的考察	一志茂樹	〃 3の2
27	〃	平出住居址の復元的考察	藤島亥治郎	〃 〃

	28	E	第三号住居址復元家屋の建築について	稲垣 栄 三 中 稔	信濃Ⅲ 3の7
	29	〃	第三次発掘住居址の建築的推定復原	藤島 亥治郎	〃 〃
	30	〃	平出と伊場	樋口 清之	〃 3の2
昭 27年	1	A	長野県東筑摩郡宗賀村平出遺跡第四次発掘調査	原 嘉藤 他	〃 4の2
	2	〃	第四次発掘についての一考察	大場 磐雄	〃 〃
	3	〃	平出遺跡の発掘を視察して	三笠宮 崇仁	〃 〃
	4	〃	下伊那考古調査記1～5	大沢 和夫 日下部 新一	伊那 286～295
	5	C	長野県南佐久郡畑八村中松井遺跡発掘概報	畑八 公民館	
	6	〃	長野県北安曇郡平村発見の環状石籬	大場 磐雄	信濃Ⅲ 4の6
	7	〃	縄文諸磯期における低地性遺跡と高地性遺跡	神田 五六	〃 4の9
	8	〃	長野県上伊那郡伊那村遺跡第二次調査概報	友野 良一 他	〃 4の11
	9	〃	長野県下伊那郡喬木村伊久間原住居址	大今 沢和善 村 善興	〃 4の12
	10	〃	長野県北安曇郡平村上原遺跡第二次調査概報	猿田 文紀 他	〃 4の6
	11	〃	岡谷市下り林遺跡調査報告	戸沢 充則	諏訪考古学 8
	12	〃	平出発見縄文式遺跡遺物について	八幡 一郎	信濃Ⅲ 4の2
	13	〃	会地村の先史文化	矢沢 正安	伊那 286
	14	D	長野県野沢発見弥生式遺物	八幡 一郎	考古学雑誌 38の5、6
	15	〃	松本平における弥生文化	藤沢 宗平	信濃Ⅲ 4の12
	16	E	長野県下伊那郡神稲村出土の銅鏃	永峯 光一	〃 4の9
	17	〃	川岸村三沢鬼戸埴輪窯址	藤森 栄一	諏訪考古学 8
	18	F	長野県南安曇郡及木遺跡調査概報	藤沢 宗平 中田 令夫	信濃Ⅲ 4の8
	19	〃	国史考察の傍証を古寺の存在に見る	一志 茂樹	〃 4の6
	20	〃	伊那谷平安灰釉址について	塚田 陶酔	伊那 287
	21	〃	松本市神田出土火葬骨壺について	桐原 健	貝塚 42
	22	〃	新発見下伊那郡関係の経筒銘について	市村 咸人	伊那 286
	23	〃	長野県下伊那郡山本村箱川発掘の古銭	〃	信濃Ⅲ 4の6
昭 28年	1	A	長野県文化財調査報告書 2	長野県教育委員会	長野県教育委員会
	2	〃	下高井	〃	〃
	3	〃	長野県上伊那郡地方の考古学的現状調査	藤沢 宗平	信濃Ⅲ 5の7
	4	〃	長野県下の新重要文化財について		5の10
	5	B	諏訪市茶臼山の遺跡	藤森 栄一	日考協発表要 旨 11
	6	〃	北信野尻湖底発見の無土器文化(予報)	芹沢 長介 麻生 優	考古学雑誌 39の2
	7	C	伊久間原古代住居址	今村 善興	喬木史談会
	8	〃	把手の思い出	矢沢 正安	伊那 296
	9	〃	下伊那郡考古調査記(6)	日下部 新一	〃

年	題 目	編 著 者	雜 誌 名
10	C 小さな主題 - 中期初頭の縄文式文化の一断面 -	戸 沢 充 則	ミクロリス6
11	〃 長野県北安曇郡平村上原遺跡第三次調査概報	猿田文紀、永 峯光一 他	信濃Ⅲ 5の3、4
12	〃 智里清内路の先史時代	宮 沢 恒 之	伊那 298
13	〃 上原遺跡の地形、地質学的考察	平 林 照 雄	信濃Ⅲ 5の4
14	〃 ある土偶について	松 島 透	伊那 269
15	〃 温田宮ノ平遺跡	大 沢 和 夫	〃 299
16	〃 諏訪湖周辺の中期初頭縄文遺跡	戸 沢 充 則	信濃Ⅲ 5の5
17	〃 信濃国北安曇郡上原遺跡	樋 口 昇 一	若木考古 23
18	〃 長野県岡谷市庄之畑遺跡の再調査	戸 沢 充 則	信濃Ⅲ 5の10
19	〃 片桐村出土の土偶	大 沢 和 夫	伊那 306
20	〃 長野県下水内郡飯山町有尾遺跡発掘概報	神 田 五 六	信濃Ⅲ 5の8
21	〃 八ヶ岳西山麓出土土偶の新資料四例	宮 坂 英 式	〃
22	〃 松本平における居住地域の変遷拡大について	藤 沢 宗 平	〃 5の11、12
23	D 長野県下伊那郡喬木村阿島出土の壺形土器	本 田 秀 明	若木考古 22
24	〃 信濃国間山発見の合口甕棺	桐 原 健	上代文化 24
25	E 長野県上高井郡保科村片山発見異形土器の出土状態について	永 峯 光 一	信濃Ⅲ 5の1
26	〃 拳手人面土師器覚書	大 場 磐 雄	〃
27	〃 神坂峠の二、三の問題(1)	松 島 透	ミクロリス6
28	F 長野県下伊那郡河野村大矢沢須恵器窯址の発掘調査	武田彦左衛門	信濃Ⅲ 5の3
昭 29年	1 A 考古雑記	大 沢 和 夫	伊那 29の12
	2 〃 考古学の下伊那	松 島 透	〃 29の11
	3 〃 恒川清水付近の歴史	大 沢 和 夫	〃 29の4
	4 〃 三信国境付近の遺物遺跡を見て	藤 沢 宗 平	信濃Ⅲ 6の10
	5 B 関東および中部地方における無土器文化の終末と縄文文化の発生とに関する予察	芹 沢 長 介	駿台史学 4
	6 〃 長野県上ノ平遺跡発見の尖頭形石器文化	杉 原 莊 介	日考協発表要旨 13
	7 〃 信濃矢出川遺跡の調査	芹 沢 長 介	〃 14
	8 C 松本平における縄文式土器に関する二つの問題	藤 沢 宗 平	地方史研究論叢
	9 〃 長野県小県郡上田市地方における石鏃の一考察	五十嵐 幹 雄	信濃Ⅲ 6の4
	10 〃 長野県小県郡長村菅平東組遺跡調査報告	〃	〃 6の7

11	D	下伊那における弥生式文化私考	松島 透	伊那 2
12	〃	弥生式壺形土器	〃	〃 12
13	〃	箕輪遺跡の古代農業と文化	藤沢 宗平	農業信州 6
14	E	古代史上の信濃	大場 磐雄	下伊那教育 24
15	〃	長野県下伊那地方との交流関係より見たる美濃の古墳	市村 咸人	伊那 6
16	〃	長野県下伊那地方における古墳の石室	〃	地方研究論叢
17	F	灰釉陶器の諸問題	大場 磐雄	〃
18	〃	下伊那郡座光寺金井原瓦窯址報告	宮沢 恒之郎 倉田 由郎	伊那 2
19	〃	長野県小県郡依田村における調査	吉田 章一郎 五十嵐 幹雄	信濃Ⅲ 6の2
昭 30年	A	平出	大場 磐雄 他	平出遺跡調査会
2	〃	平出遺跡およびその周辺の考古学的調査	原 嘉藤	信濃Ⅲ 7の6
3	〃	長野県上伊那箕輪遺跡について	藤沢 宗平	〃 7の2
4	B	信濃中ツ原無土器文化	麻生 優	石器時代 2
5	〃	長野県馬場平遺跡畧報	芹沢 長介	〃 1
6	〃	霧ヶ峰の無土器文化遺跡群の調査	戸沢 充則 他	ミクロリス 12
7	〃	矢出川文化の意味するもの	芹沢 長介	〃 11
8	〃	長野県矢出川遺跡発掘日誌	渡辺 兼庸	〃
9	〃	野辺山遺跡の調査	明大考古学研 究部	〃
10	〃	野辺山遺跡発掘に参加して	野村 重夫	〃 12
11	C	長野県上伊那郡箕輪遺跡について	藤沢 宗平	信濃Ⅲ 7の2
12	〃	千曲川沿岸地方における晩期縄文式土器について	永峯 光一	石器時代 1
13	〃	南信刈谷原遺跡出土の遺物について	藤沢 宗平	上代文化 25
14	〃	長野県南佐久郡穂積村崎田原遺跡調査概報	五十嵐 幹雄	信濃Ⅲ 7の4
15	〃	北信月夜岳遺跡	桐原 健	若木考古 37
16	〃	長野県上伊那郡中沢地区高見原遺跡調査概報	林 茂樹	信濃Ⅲ 7の12
17	〃	亀形土製品の新例	樋口 昇一	石器時代 2
18	D	長野西高等学校所蔵弥生式土偶の首部残欠	永峯 光一	上代文化 25
19	〃	中部高地北陸（各地域の弥生式土器）	藤 森 栄一	日本考古学講座
20	〃	長野県東筑摩郡広丘村高出北ノ原弥生式竪穴住居址につ いて	小松 虔正 横山 健	信濃Ⅲ 7の8
21	〃	長野県小島出土の中期弥生式土器について	桐原 健	〃

年		題 目	編 著 者	雜 誌 名
22	D	信濃南佐久郡海瀬村上原出土の弥生式土器について	磯崎正彦	上代文化25
23	E	長野県上高井郡小布施町中条畑 古墳時代住居址調査報告	永峯光一	信濃Ⅲ7の3
24	"	下伊那の古墳時代文化	大場磐雄	下伊那史3
25	F	長野県松本市笹賀地区神戸塚遺跡調査概報	藤沢宗平	信濃Ⅲ7の7
26	"	松本市筑摩出土の火葬骨壺について	桐原健	"7の4
27	"	長野県東筑摩郡明科町明科廃寺址について	原嘉藤	信濃Ⅲ7の7
昭31年	1	A 信濃史料第1巻上下	信濃史料刊行会	信濃史料刊行会
	2	" 信濃考古綜覧上下	"	"
	3	" 古代の村	八幡一郎 宮坂英式	長野県教育委員会
	4	" 諏訪郡茅野町北山地区大門峠池ノ平遺跡調査概要	宮坂英式	信濃Ⅲ8の9
	5	" 弥生式文化より古墳文化への推移について	藤沢宗平	"
	6	B 長野県古屋敷遺跡の無土器文化	藤沢宗平他	信州ローム1
	7	" 古屋敷遺跡の地学的な意味	小林国夫	"
	8	C 中部(各地域の縄文式土器)	藤森栄一	日本考古学講座
	9	D 信濃の後期弥生式土器	桐原健	上代文化26
	10	" 松本平における初期弥生式土器について	藤沢宗平	信濃Ⅲ8の6
	11	" 北信濃替佐の弥生式石器	桐原健	"
	12	" 箱清水式土器における赤色塗彩の傾向とその意味	"	"8の12
昭32年	1	A 男女倉遺跡和田峠めぐり	津田福治	台地6
	2	" 黒曜石文化の発掘計画	小林国夫	信州ローム2
	3	B 信濃男女倉遺跡	児玉司農武	"3
	4	" 長野県下水内郡横倉発見のポイント	神田五六一 永峯光一	日考協20回発表要旨
	5	C 尖石遺跡 - 古代の村とその生活 -	宮坂英式	諏訪教育委員会
	6	" 尖石	"	茅野町教育委員会
	7	" 上原	大場磐雄他	長野県教育委員会
	8	" 長野県小諸市氷発見の土製品について	永峯光一	考古学雑誌42の2
	9	" 長野県大川発見の甕被葬の一例	鈴木誠	人類学雑誌66の2
	10	" 長野県上高井郡東村石小屋洞窟覚書	永峯光一	信濃Ⅲ9の5
	11	" 長野県西筑摩郡三岳村若宮遺跡調査概報	大場磐雄	"9の3

12	C	長野県北安曇郡松川村鼠穴字桜沢遺跡	鈴木孝志	考古学雑誌42の2	
13	〃	長野県立野遺跡の捺型文土器	松島透	石器時代4	
14	〃	細久保遺跡の押型文土器	松沢垂生	古代25、26	
15	〃	駒ヶ根市十二天遺跡調査記	太田保	伊那路1の9	
16	〃	宮田村中越西原遺跡について	藤沢宗平	〃	
17	〃	木曾谷における縄文文化より弥生への推移について	〃	〃	
18	〃	中部山岳地帯における前期縄文時代住居址	樋口昇一	信濃Ⅲ9の11	
19	〃	獣角骨を出した長野県上田市北上田遺跡	五十嵐幹雄	〃	
20	〃	松本市大柳町所在低湿地遺跡	藤沢宗平	〃9の10	
21	D	北信濃長峯丘陵柳町遺跡調査概報	桐原健	〃9の12	
22	〃	信濃における石包丁について	〃	〃9の8	
23	〃	伊那谷弥生式時代の農耕(2)	宮沢恒之	伊那7	
24	E	長野県東筑摩郡宗賀村平出第一号墳調査概報	大場磐雄	信濃Ⅲ9の3	
25	〃	上信国境「入山峠」祭祀遺跡について	山崎義男	考古学雑誌43の1	
26	F	長野県松本市県ヶ丘遺跡出土土師器の様相	桐原健	信濃Ⅲ9の5	
27	〃	宮田駅址の私考	篠田徳登	伊那路3	
28	〃	平安宮田駅址踏査記	宮下操	〃	
29	〃	上黒目出土の灰釉陶器	大沢和夫	伊那7	
昭33年	A	中部山岳地帯考古学の現状と問題点	藤沢宗平	私たちの考古学18	
	2	B	長野県八島遺跡における石器群の研究	戸沢充則	駿台史学8
	3	〃	奥信濃横倉遺跡	神田五六一 永峯光	石器時代5
	4	C	長野県南佐久郡八千穂村崎田原遺跡第二次調査概報	五十嵐幹雄	信濃Ⅲ10の2
	5	〃	長野県南安曇郡安曇村蒲田遺跡調査概報	中島豊晴一 樋口昇一	〃10の3
	6	〃	長野県更級郡信更村吉原遺跡について	原嘉藤	〃10の4
	7	〃	長野県諏訪郡新道の中期縄文土器	松沢垂生	考古学手帳1
	8	〃	長野県西筑摩郡開田村管沢遺跡調査概報	樋口昇一	信濃Ⅲ10の7
	9	〃	長野県殿村遺跡の中期縄文土器	戸沢充則	考古学手帳3
	10	〃	尖石調査の出発点	塚田光	〃
	11	〃	長野県下水内郡南大原遺跡出土の土器	麻生優	考古学手帳5
	12	D	岡屋遺跡第1集	宮坂英弼	岡屋遺跡研究会

年		題 目	編 著 者	雑 誌 名
13	E	長野県中野市赤岩神宮寺下遺跡調査概報	金井 汲 次 桐原 健	信濃Ⅲ 10の8
14	〃	筑摩の金冠	大場 磐 雄	〃 10の5
15	〃	長野県中野市間山発見の銅鏃	神田 五 六	〃 10 6
16	〃	古代碓氷坂考	一志 茂 樹	〃
17	〃	長野県西筑摩郡山口村山の神第二号墳の調査	岩野 見 司 尾崎 英 雄	〃 10の11
18	F	長野県中野市間山石動下遺跡調査予報	桐原 健	〃 10の12
19	〃	善光寺諸堂の造営および修理	小林 計一郎	〃 10の4
20	〃	北信濃川久保出土の墨書土師器について	宮 沢 桂	〃 10の12
昭 34年	1	B 信州ロームを探る	小林 国 夫	伊那路3の7
	2	〃 第三回男女倉遺跡発掘日誌	鈴木 誠 平 藤 沢 宗 平	信州ローム5
	3	〃 第四回男女倉遺跡発掘日誌	〃	〃
	4	〃 長野県上伊那郡南箕輪村神子柴遺跡発掘調査覚書	林 茂 樹 藤 沢 宗 平	伊那路3の3
	5	〃 神子柴遺跡について	〃	信州ローム5
	6	〃 木曾開田高原の無土器文化遺跡 — 柳又遺跡を中心として	樋口 昇 一 森 島 稔	信濃Ⅲ 11の11
	7	〃 神子柴遺跡発掘について	藤 沢 宗 平	伊那路3の3
	8	〃 長野県野辺山の石器	佐藤 達 夫	考古学雑誌 44の3
	9	C 諏訪湖底曾根遺跡	藤 森 栄 一	上諏訪中学 PTA新聞
	10	〃 信濃の押型文土器	藤 沢 宗 平	信濃Ⅲ 11の1
	11	D 長野県篠ノ井市伊勢宮遺跡の古式弥生土器	磯崎 正 彦	〃 11の6
	12	〃 北信濃長峯丘陵における弥生式遺跡	桐原 健	考古学雑誌 45の1
	13	〃 石器よりみた信濃弥生式文化の一様相	〃	信濃Ⅲ 11の12
	14	E 長野県須坂市鎧塚古墳の調査	永 峯 光 一 亀井 正 道	考古学雑誌 45の1
	15	F 長野県下伊那地方出土の古瓦について	市村 咸 人	信濃Ⅲ 11の1
	16	〃 飯田市開善寺境内出土の鏡瓦	大 沢 和 夫	〃 11の8
	17	〃 長野県上伊那地方における金工品年表とその文化史的考察	赤 羽 篤	〃 11の9
	18	〃 塩尻市下大門の瓦塔遺跡	小 松 虔	〃 11の8
昭 35年	1	B 長野県茅野市御小屋久保無土器文化遺跡	宮 坂 英 式	考古学雑誌 46の3
	2	〃 長野県諏訪、北踊場石器群	松 沢 亜 生	第四紀研究1の7
	3	〃 神子柴遺跡第2次発掘調査概報	藤 沢 宗 平 林 茂 樹	信州ローム6

	4	B	諏訪渋川遺跡のローム層中木炭末について	児玉 司農 武	信州ローム 6
	5	〃	木曾開田村柳又A地点の石器	森 島 稔	信濃教育 881
	6	〃	長野県上伊那郡箕輪村神子柴遺跡出土の円盤形石斧について	林 茂 樹	信濃Ⅲ 12の6
	7	〃	治部坂遺跡 — 下伊那最初の無土器文化 —	大 沢 和 夫	伊那 8の10
	8	C	五斗林(長野県塩尻市)遺跡について	藤 沢 宗 平 他	信州ローム 6
	9	〃	諏訪湖底曽根の遺跡	藤 森 栄 一	信濃Ⅲ 12の7
	10	〃	長野県南佐久郡大深山遺跡調査	八 幡 一 郎	〃 12の8
	11	F	長野県霧ヶ峰旧御射山祭祀遺跡調査概報	金 井 典 美	考古学雑誌 46の1
	12	〃	長野県中野市出土の古銭	金 井 汲 次	信濃Ⅲ 12の5
	13	〃	長野県出土の二、三の緑釉の化学研究	山 崎 一 雄 他	〃 12の2
昭 36年	1	A	諏訪の遺跡 1	藤 森 栄 一	諏訪 1
	2	〃	新野地方の考古学的調査 1、2、3	松 島 透	伊那 9の3、4、9
	3	B	神子柴遺跡第一次発掘調査概報	藤 沢 宗 平 林 茂 樹	古代学 9の3
	4	〃	長野市上げ屋遺跡の問題点	森 島 稔	更埴教育会報 2
	5	〃	長野市(飯綱高原)上げ屋遺跡予報	〃	埴科教育 8
	6	〃	無土器時代の遺物を出した浜津ヶ池	神 田 五 六	信濃Ⅲ 13の6
	7	C	長野県小県郡塩田町検田見遺跡	小 林 幹 男	〃 13の9
	8	〃	長野県北安曇郡白馬村細野遺跡について	原 塩 島 嘉 藤 嘉 照 衛	〃 13の3
	9	〃	長野県諏訪郡信濃境大花第1号竪穴調査概報	藤 森 栄 一 武 藤 雄 一	〃 13の2
	10	〃	長野県乏沢出土の土器と土製耳飾	向 坂 鋼 二	第四紀研究2の1
	11	〃	最古の鉱山	藤 森 栄 一	夕菅 5
	12	〃	縄文早期終末の住居址	宮 坂 英 式	信濃Ⅲ 13の8
	13	〃	磨製石鏃の古さ	八 幡 一 郎	伊那路 5の2
	14	D	諏訪神社の柴舟 — 弥生式大型石錘との関連について	藤 森 栄 一	信濃Ⅲ 13の10
	15	〃	長野県塩尻市柴宮発見の銅鐸	大 場 磐 雄 原 嘉 藤	〃 13の4
	16	〃	長野県須坂市須坂円芸高校校庭出土の弥生式土器について	桐 原 健	〃 13の8
	17	〃	長野県御代田町出土の壺形土器	内 堀 正	金鈴 14
	18	E	城の内 — 信州千曲河岸の土師式集落遺跡の研究 —	木 代 修 一 岩 崎 卓 也 他	東京教育大文 学部紀要
	19	F	長野県下高井郡山の内八丁原遺跡調査畧報	桐 原 健	信濃Ⅲ 13の5
	20	〃	南信濃の古瓦	藤 森 栄 一	13の9

年		題 目	編 著 者	雑 誌 名
21	F	壳神祝印と上社御宝印	藤 森 栄 一	信濃Ⅲ 13 の 11
22	〃	秋宮経塚下の埋蔵金と経塚	〃	〃 13 の 12
23	〃	伊那の石文を尋ねて	牧 内 雅 博	伊那91 の 11
24	〃	長野県中野市片塩遺跡調査予報	金 井 汲 次	信濃Ⅲ 13 の 6
25	〃	長野県飯山市有尾遺跡調査概報	飯山南高校考古学クラブ	〃 13 の 12
昭 37年	1	A 諏訪の遺跡 2	藤 森 栄 一	諏訪 1 の 2
	2	〃 長野県考古学界の回顧と展望	藤 森 栄 一 藤 桐 原 健	信濃Ⅲ 14 の 11
	3	〃 諏訪の古道(1)	伊 藤 正 和	諏訪 1 の 3
	4	B 渋川	宮 坂 英 式	長野県茅野市尖石考古館
	5	〃 茶臼山石器文化	藤 森 栄 一 樋 口 昇 一 樋 森 一 稔	考古学集刊1の4
	6	〃 木曾開田村大原遺跡の石器	樋 口 昇 一 樋 森 一 稔	信濃Ⅲ 14 の 11
	7	〃 長野県野尻湖底杉久保遺跡新資料	大 沢 鷹 通	オセド 3
	8	〃 長野県飯綱高原上ゲ屋遺跡	樋 口 昇 一、森島 稔、小林達雄	上代文化 31、32
	9	〃 ポイント文化期の竪穴住居址	藤 森 栄 一、宮 坂 光 昭、中 村 竜 雄	〃
	10	〃 木曾柳又遺跡(A、B地点)の最終発掘調査	樋 口 昇 一 樋 森 一 稔	長野県考古学会 連絡紙 2
	11	C 横山遺跡の斜縄文土器と押型文土器	林 茂 樹	信濃Ⅲ 14 の 3
	12	〃 信濃境大花第一、第二号竪穴調査概報	藤 森 栄 一 武 藤 雄 一 六	〃 14 の 7
	13	〃 信濃における縄文後、晩期の所謂「漁撈文化」に関する 試論	桐 原 健	〃
	14	〃 野口墳墓遺跡調査概況	林 本 田 茂 樹 秀 明 郎 也	伊那路 6 の 10 考古学雑誌
	15	〃 長野県菅平東組の早期縄文式文化遺跡について	八 上 幡 野 佳 一 藤 森 栄 一	48 の 2 古代学 11 の 1
	16	〃 星ヶ塔黒曜石採掘址	藤 中 永 樋 森 村 光 昇 一	洞穴遺跡調査会 会報 4
	17	〃 菅平高原踏査短信	樋 口 昇 一	長野県考古学連 絡紙 2
	18	〃 木曾大明神遺跡	樋 口 昇 一	〃
	19	〃 北信ヨランクボ出土の土偶	高 橋 桂	〃
	20	D 鉄鐸 — その古代史上の意義 —	藤 森 栄 一	信濃Ⅲ 14 の 4
	21	〃 長野県安源寺遺跡の弥生式土器	田 川 幸 生 桐 原 健 一	〃
	22	〃 長野県下諏訪町関屋弥生式中期遺跡	藤 森 村 竜 雄	古代学研究 31
	23	〃 飯山市照丘遺跡出土の弥生式遺物について	高 橋 桂	信濃Ⅲ 14 の 11
	24	E 大室古墳群	大 塚 初 重	古代学研究 31

25	E	漢式鏡第 59 号	大 沢 和 夫	伊那 10 の 8
26	//	長野県松本市中山古墳群出土の土器様相	桐 原 健	信濃Ⅲ 14 の 11
27	F	下社附近出土品の調査(1)(2)	藤 森 栄 一	// 14 の 2、 3
28	//	薙鎌考	//	// 14 の 11
29	//	長野県小県郡丸子町西内地方の遺跡—特になびゆ沢遺跡の調査について	小 山 田 仁 小 林 幹 男 桜 井 松 夫	// 14 の 5
30	//	長野県小県郡東部町滋野赤岩遺跡第一次発掘調査概報	小 林 幹 松 本 県 丘 高 校 風 土 研 究 部	// 14 の 8
31	//	長野県東筑摩郡本郷村三才山七本松遺跡調査概報	坪 井 良 平	// 14 の 11
32	//	信濃最古の梵鐘	赤 羽 篤	// 14 の 2
33	//	長野県上伊那郡地方における古銭発掘とその歴史的意義	村 沢 武 夫	// 14 の 4
34	//	松尾駄科の水田と条里制(二)	笠 原 政 市	伊那 10 の 4
35	//	市瀬熊の森の宝篋印塔		伊那路 6 の 11
昭 38 年	A	考古学上よりみたる下諏訪町	藤 森 栄 一	下諏訪町誌(上)
2	//	諏訪湖の大きかったとき、小さかった時	//	諏訪 5
3	//	長野県茅野市豊平村の原始文化	宮 坂 英 弼	豊平村村誌編纂委員会
4	//	蓼科山麓の遺跡	//	諏訪 5
5	//	和田峠の黒曜石と八島ヶ原高層湿原	小 林 茂 樹	//
6	B	関東、中部地方におけるナイフ形石器文化とその終末	滝 沢 浩	(単行本)
7	//	野尻湖底を探る	森 島 稔	科学の実験 8
8	//	信州、御牧ヶ原発見の石器 1	坂 輪 忠 美	立正考古 22
9	//	松本平の先土器文化の遺物	横 田 義 章	信州ローム 8
10	//	野尻湖底杉久保 A 遺跡の発掘調査	樋 口 昇 一 森 島 稔	//
11	//	長野県手長丘遺跡調査報告	林 茂 樹	石器時代 6
12	//	木曾谷ローム層 1	酒 井 潤 一	地球科学 67
13	//	長野県治部坂遺跡	大 沢 和 夫、松 島 透、宮 沢 恒 之	上代文化 33
14	//	北信濃小坂遺跡の調査	高 橋 桂	考古学雑誌 48 の 3
15	C	縄文時代農耕論とその展開	藤 森 栄 一	考古学研究 38
16	//	縄文時代のパンと蛇	江 坂 輝 弥	三田評論 617
17	//	蛇を装飾した釣手土器	野 口 義 磨	ミュージアム 142
18	//	人体装飾ある壺形土器	//	石器時代 6
19	//	中期縄文土器の貯蔵形態について — 罎付有孔土器の意義 —	藤 森 栄 一 藤 武 雄	考古学手帳 20

年		題 目	編 著 者	雜 誌 名
20	C	東日本縄文文化石鏃の大きさについての比較研究	上野佳也	考古学雑誌 49の2
21	〃	縄文文化の滑石製品	藤沢宗平	古代39 40
22	〃	信州縄文早期における石鏃について	上野佳也	信州ローム8
23	〃	縄文中期文化の構成	藤森栄一	考古学研究36
24	〃	藤森栄一「縄文中期文化の構成」を読んで	春成秀爾	〃 10の1
25	〃	縄文中期における石匙の機能的変化について	藤森栄一	考古学雑誌 49の3
26	〃	下諏訪町宮の上出土の顔面把手と蛇頭把手	中村竜雄	信濃Ⅲ 15の8、9
27	〃	信濃境籠畑遺跡出土縄文前期末の土器について	武藤雄六	〃 15の7
28	〃	北信月夜岳遺跡調査畧報	高橋桂	〃 15の3
29	〃	勝坂式土器に表現された人体装飾	武藤雄六	考古学雑誌 48の4
30	〃	蛇身装飾のついた土偶と土器 — 信濃境藤内遺跡の一 新例 —	〃	〃 49の3
31	〃	青木湖底のクマンバ遺跡第Ⅱ地点調査概報	横田義章	信濃Ⅲ 15の8、9
32	〃	縄文後期の箱式石棺と環状列石墓群 — 長野県軽井沢町 茂沢南石堂遺跡 —	三上次男	日本歴史183
33	〃	長野県荷取洞窟出土の微隆起線文土器	小林達雄	石器時代6
34	〃	平出遺跡の縄文土器「第3類A」	塚田光	考古学手帳20
35	〃	長野県小県郡丸子町西内地方の遺跡(2) — 特に八郎沢遺 跡の調査について	北沢泰男 小林幹	信濃Ⅲ 15の7
36	〃	長野県における縄文土器文化の変遷過程について	上野佳也	古代文化10の3
37	〃	長野県東筑摩郡四賀村井刈遺跡調査概報	大場磐雄、永峯 光一、原嘉藤	信濃Ⅲ 15の12
38	D	栗林式土器の再検討	桐原健	考古学雑誌 49の3
39	〃	木曾発見の弥生前期土器 — 遠賀川系土器の東漸資料 —	松島透	考古学手帳17
40	〃	信濃出土の磨製石剣について	桐原健	信濃Ⅲ 15の4
41	〃	長野県諏訪市古岩窪岩陰	藤森栄一	洞穴遺跡調査 会々報7
42	E	桐林宮洞須恵器窯址発掘畧報	遮那真周	伊那11の12
43	〃	古式土師考 — 長野県更埴市城の内遺跡出土品を中心と して —	岩崎卓也	考古学雑誌 48の3
44	F	長野県上田市新田と諏訪形出土の土器	小林幹男	信濃Ⅲ 15の2
45	〃	諏訪大社秋宮発見の経塚 — 附黄金入塚とその意義につ いて	大場磐雄	〃 15の10
46	〃	諏訪神社の考古学的研究	藤森栄一	下諏訪町誌(上)
47	〃	信濃国分尼寺址考	宮下真澄	信濃Ⅲ 15の11
48	〃	信濃国分寺跡発掘調査速報	上田市教育委 員会	〃 15の6
昭1 39年	A	長野考古学会の成立と経過	松島透	長野県考古学 会誌1

2	A	諏訪の遺跡	藤森 栄一	諏訪 6
3	〃	遺跡を求めて	松島 透	吉蘇 2
4	B	御園尖頭器遺跡発掘調査覚書	林 茂樹	伊那路 8 の 1
5	〃	小県郡男女倉遺跡 — その概報と研究課題 —	横田 義章	信濃Ⅲ 16 の 4
6	〃	矢出川遺跡	戸沢 充則	考古学集刊2の3
7	〃	鷹山遺跡発掘調査畧報	児玉 司農武 宮坂 虎次	長野県考古学会 連絡紙 11
8	C	勝坂期をめぐる原始農耕存否問題の検討	永峯 光一	信濃Ⅲ 16 の 3
9	〃	勝坂文化圏の中心	八幡 一郎	〃 16 の 5
10	〃	信濃境曾利遺跡調査報告	藤森 栄一 武藤 雄六	長野県考古学会 誌 1
11	〃	特殊な形態をもつ石斧	横田 義章	〃
12	〃	埴科郡幅田遺跡第一次調査 — 特に立石に伴う配石址について	屋代高校地歴 班	〃
13	〃	環状住居址群と立石 — 長野県下諏訪町駒形遺跡調査補報 —	中村 竜雄	古代 42、43
14	〃	長野県東筑摩郡朝日村熊久保遺跡調査概報(1)(2)	樋口昇一、小松 虔、横山正	信濃Ⅲ 16 の 4、7
15	〃	伊那市今泉の調査 — 押型文・撚紋土器	林 茂樹	〃 16 の 4
16	〃	長野県井戸尻遺跡採集の剣片石器	阿井 正樹	あるかいあ 4
17	〃	北信下水内郡栄村の縄文文化(遺稿)	神田 五六	信濃Ⅲ 16 の 7
18	〃	蝶葉遺跡の発掘調査	関 孝一	長野県考古学会 連絡紙 10
19	〃	南信八ヶ岳山麓における縄文中期の集落構造	桐原 健	古代学研究 38
20	〃	長野県飯田市君崎台地発見の石錘	遮那藤麻呂	立正考古 23
21	〃	星ヶ塔末端の黒曜石産地	中村 竜雄	信濃Ⅲ 16 の 8
22	〃	長野県大深山縄文式中期住居址の年代	八幡 一郎	大塚考古 5
23	〃	長野県下伊那郡高森町増野新切遺跡出土土偶	佐藤 甦信	信濃Ⅲ 16 の 9
24	〃	押型文土器出土の塞神遺跡	小林 孚	長野県考古学会 連絡紙 11
25	〃	長野県埴科郡坂城町込山 c 遺跡畧報	金子浩昌、山崎 元、森島稔	信濃Ⅲ 16 の 12
26	〃	巾田遺跡第 2 次調査概報	森島 稔	長野県考古学会 連絡紙 11
27	〃	長野県更埴市桑原池尻遺跡調査報告	米山 一政 森島 稔	上代文化 34
28	〃	長野県上水内郡鬼無里村「木曾殿アブキ」	樋口 昇一 森島 稔	洞穴遺跡調査 会々報 15
29	D	銅鐸	藤森 栄一	学生社
30	〃	稲霊を籠める土器 — 無頸壺形土器の消長 —	桐原 健	上代文化 34
31	〃	諏訪市中浜町出土の弥生式土器	藤森 栄一	信濃Ⅲ 16 の 4
32	〃	飯田地方における弥生時代打製石器	松島 透	日本考古学の諸 問題

年		題 目	編 著 者	雑 誌 名
33	D	南佐久郡青沼村出土の弥生式土器	木下正史	大塚考古5
34	〃	木曾郡日義村巴松遺跡の調査報告	松島透	信濃教育943
35	E	東日本における土師器の研究 — 主として鬼高式土器に 関連して	岩崎卓也	東京教育大文学 部紀要
36	〃	積石塚考	斉藤忠	信濃Ⅲ 16の5
37	〃	上伊那郡箕輪町発見の祭祀遺物	大場磐雄	伊那路8の1
38	〃	長野県における古墳の地域的把握	大塚考古学研 究会	日本歴史論究
39	〃	善光寺平における古墳立地の考察	桐原健	信濃Ⅲ 16の4
40	〃	長野県東筑摩郡坂井村安坂積石塚の調査	大場磐雄、原嘉 藤、寺村光晴 桐原健、石井昌 国、一志茂樹	信濃Ⅲ 16の4、6
41	〃	諏訪盆地古墳群にみられる一姿相	桐原健	〃 16の10
42	〃	善光寺平の土師器	西野元	和洋女子大学紀 要8
43	F	松本市田溝古窯址の調査	中島豊晴光 河西清光	信濃Ⅲ 16の4
44	〃	諏訪大社鉄鐸に刻まれた文様の符号について	藤森栄一	〃 16の9
45	〃	長野県中野市草間窯業遺跡	大川清次 井汲	〃 16の11
46	〃	長野県松本市北埴原推定信濃牧監庁跡調査概報	一志茂樹、斉藤 忠、大川清、原 嘉藤	〃 16の12
47	〃	八朔としての御射山祭	金井典美	諏訪6
昭 40年	1	A 下伊那考古学年報 1964年	大沢和夫	伊那13の2
	2	〃 市村威人先生を思う	神村透	長野県考古学会 誌2
	3	〃 東京考古学会の神田五六さん	藤森栄一	〃
	4	〃 平出遺跡発見当時の思い出	中野三男	信濃考古14
	5	〃 中村秀雄さん	神村透	〃
	6	〃 松本諏訪地区新産都市区域内埋蔵文化財緊急分布調査に ついて	樋口昇一	〃 5
	7	B 先土器時代における高冷地遺跡の自然環境	金井典美 石井則孝	信濃Ⅲ 17の8
	8	〃 長野県霧ヶ峰八島遺跡の石器	金井典美	長野県考古学会 誌2
	9	〃 長野県下伊那郡豊丘村田村原遺跡の石器	宮沢恒之	信濃Ⅲ 17の4
	10	〃 木曾開田高原における縄文以前の文化	樋口昇一、森島 稔、小林達雄	〃 17の6
	11	〃 先土器時代における石器群研究の方法	戸沢充則	〃 17の4
	12	〃 広見池発見の尖頭器	宮坂虎次	信濃考古14
	13	〃 長野県大門峠割橋遺跡発掘調査報告	宮坂英弼、児玉 司農武、宮坂虎次	考古学雑誌 51の1

14	B	長野県和田峠丁字沢遺跡の先土器文化	中村 竜雄	信濃Ⅲ 17の10
15	〃	伊那谷の尖頭器3例	宮沢 恒之	長野県考古学会誌 3
16	〃	鷹山遺跡第二次調査畧報	宮坂英式、児玉 司農武宮坂虎次	信濃考古 15
17	〃	蓼科城之平遺跡発掘調査畧報	尖石考古館研究 室	〃
18	〃	下諏訪町西餅屋丁字沢遺跡	中村 竜雄	〃
19	C	井戸尻	藤森栄一 編	中央公論美術出版
20	〃	井戸尻遺跡	藤森 栄一	〃
21	〃	縄文中期勝坂と加曾利E期の差	宮坂 光昭	古代 44
22	〃	中期縄文土器の蒸器、一 櫛形文土器の変遷と意義	武藤 雄六	信濃Ⅲ 17の7
23	〃	縄文中期農耕肯定論の現段階	藤森 栄一	古代文化 15の5
24	〃	縄文文化の蛇身装飾	野口 義磨	〃
25	〃	縄文時代の農耕問題をめぐって(座談会)	司会江坂輝弥	〃
26	〃	中期縄文文化の諸問題	藤森栄一、武藤 雄六、桐原健、 樋口昇一 他	長野県考古学会誌
27	〃	中期縄文文化のシンポジウムに出席して	滝沢 浩	〃
28	〃	長野県埴科郡戸倉町巾田遺跡調査報告(2)	金子浩晶、米山 一政、森島稔	〃 2
29	〃	諏訪市片羽町の低地性遺跡調査報告	藤森栄一、桐原 健、宮坂光昭	信濃Ⅲ 17の4
30	〃	諏訪市明星屋敷、ハタ河原遺跡調査報告	中村 竜雄	〃
31	〃	考古学的資料よりみた沖積世における諏訪湖の水位変動	藤森 栄一	地学雑誌 74の2
32	〃	諏訪湖の貝塚	〃	信濃Ⅲ 17の2
33	〃	大桑村の土器、石器	大桑中学考古 学クラブ	長野県学校科学 奨励基金レポート 4
34	〃	長野県における洞窟遺跡の研究	樋口 昇一	〃
35	〃	平出遺跡 — 縄文土器第三類Aの資料	神村 透	信濃Ⅲ 17の4
36	〃	縄文中期における宗教的遺物の推移	宮坂 光昭	〃 17の5
37	〃	飯田市川路大明神原遺跡発掘報告	遮那 真周	伊那 13の7
38	〃	長野県上高井郡東村仁礼山石小屋洞窟の調査について	永峯 光一	信濃考古 14
39	〃	埴科郡坂城町金井保地遺跡	関 孝一	〃
40	〃	長野県茅野市北大塩一本木発見の双口土器	武藤 雄六	信濃Ⅲ 17の8
41	〃	押型文土器に思う	神村 透	伊那 13の10
42	〃	萱野遺跡 — 押型文土器文化の生活遺構について	藤沢 宗平	伊那路 9の10
43	〃	木曾日義村の考古学的調査(1)	神村 透	信濃Ⅲ 17の11

年	題 目	編 著 者	雑 誌 名
44	C 中部山岳地帯における縄文早期の磨石様石器について	中 村 竜 雄	立正考古 24
45	〃 萱野遺跡	藤 沢 宗 平	信濃考古 15
46	〃 天竜村平岡南遺跡	大 沢 和 夫 丸 山 徹 一 郎	〃
47	〃 西筑上の原遺跡の調査	神 村 透	〃
48	〃 下高井郡野沢温泉村の2遺跡	坂 詰 秀 一	〃
49	〃 長野県岡谷市梨久保遺跡の再調査	宮 坂 光 昭	長野県考古学 会誌 3
50	〃 長野県諏訪郡富士見町大畑遺跡第三次調査報告	武 藤 雄 六	〃
51	〃 どんぐり食用の習俗	河 西 清 光	〃
52	D 弥生式時代の家屋絵画が意味するもの	桐 原 健	考古学研究 44
53	〃 長野県下伊那郡出土の有孔磨製石鏃	関 俊 彦	古代 44
54	〃 松本平の弥生土器	藤 沢 宗 平	信濃Ⅲ 17 の 4
55	〃 岡谷市庄之畑遺跡	藤 森 栄 一 他	長野県考古学会 研究報告書 1
56	〃 長野県飯田市三穂吉ヶ沢遺跡	大 沢 和 夫 塩 沢 正 人	信濃Ⅲ 17 の 12
57	E 川柳将軍塚出土銅鏃覚書	米 山 一 政	長野県考古学会 誌 2
58	〃 長野市田子池の上古墳調査	五十嵐 幹 雄	信濃Ⅲ 17 の 4
59	〃 阿智高等学校校庭出土の土師器	遮 那 藤 麻 呂	伊 那 13 の 4
60	〃 英田地古墳	竹 内 恒	長野県考古学会 連絡紙 13
61	〃 五鈴鏡、提瓶	山 上 右 八	〃
62	F 信濃国分寺跡	内藤政恒、大川 清、稲垣晋也、 坂詰秀一	上田市教育委 員会
63	〃 諏訪大社	藤 森 栄 一	中央公論美術 出版
64	〃 塩尻市広丘高出遺跡とその周辺	藤 沢 宗 平 他	長野県考古学会 研究報告書 1
65	〃 鉄製鋤頭の新例	中 島 豊 晴 樋 口 昇 一	長野県考古学会 誌 2
66	〃 西筑青野原遺跡の調査	神 村 透	信濃考古 15
67	〃 下伊那郡松川中学校庭出土の土師末期の土器	宮 沢 恒 之	伊 那 13 の 11
68	〃 長野県松本市田溝中の沢古窯址の調査	河 西 清 光	信濃Ⅲ 17 の 9
69	〃 伊那市鳥居原遺跡の発掘調査	林 茂 樹 堀 口 貞 幸	〃

70	F	長野県霧ヶ峰旧御射山祭祀遺跡調査報告（第二次、第三次）	金井典美	考古学雑誌 51の2
71	〃	中野市田上出土古銭土器	金井汲次	長野県考古学会 連絡紙 13
72	〃	東信地方における中世石塔婆の様式手法の推移について	宮下真澄	信濃Ⅲ 17の10
73	〃	長野県上水内郡豊野町山の神古窯址の調査	岩野見司 桐原健	長野県考古学会 誌 2
74	〃	長野県飯田市堂の上発見の火葬墳墓	遮那藤麻呂	立正考古 24
75	〃	雲彩寺の宝篋印塔	大沢和夫	伊那 13の11

長野県埋蔵文化財発掘調査要覧

その 1

(昭和25年度～昭和40年度)

昭和46年3月25日 印刷

昭和46年3月31日 発行

発行者 長野県教育委員会
印刷所 信光社

(非売品)

